平成29年度　地域学校協働本部一覧　　11市町109本部

No.	市町名	本部名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区支援地域協議会	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園 金城幼稚園			
		彦根南サポートオフィス	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区支援地域協議会	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝北小学校 稲枝西小学校、稲枝東幼稚園、みづほ会みずほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	11	12	4
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
		八幡東中学校支援地域本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		武佐こども園支援地域本部	武佐こども園			
		八幡幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
		馬淵幼稚園支援地域本部	馬淵幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園			
		老蘇こども園支援地域本部	老蘇こども園			
		八幡保育所支援地域本部	八幡保育所			
		桐原保育所支援地域本部	桐原保育所			
3	草津市	志津小地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東学区地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
5	湖南市	石部小地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		みなみっこ地域学校協働本部	石部南小学校			
		みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校			
		東っ子地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩っこ地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		あすなろ地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校			
		日枝中地域学校協働本部	日枝中学校			

6	高島市	高島学園地域学校協働活動	高島小学校、高島中学校	0	1	1
7	東近江市	玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校支援地域本部	御園小学校			
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		箕作小学校支援地域本部	箕作小学校			
		八日市北小学校支援地域本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校支援地域本部	八日市西小学校			
		布引小学校支援地域本部	布引小学校			
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		山上小学校支援地域本部	山上小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校支援地域本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校支援地域本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校			
		蒲生東小学校支援地域本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校支援地域本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校支援地域本部	蒲生北小学校			
		能登川東小学校支援地域本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校支援地域本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校支援地域本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校支援地域本部	能登川北小学校			
		玉園中学校支援地域本部	玉園中学校			
		聖徳中学校支援地域本部	聖徳中学校			
		船岡中学校支援地域本部	船岡中学校			
		永源寺中学校支援地域本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校支援地域本部	五個荘中学校			
		愛東中学校支援地域本部	愛東中学校			
		湖東中学校支援地域本部	湖東中学校			
		朝桜中学校支援地域本部	朝桜中学校			
		能登川中学校支援地域本部	能登川中学校			
8	米原市	米原市読書活動学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	柏原小学校、山東小学校、大原小学校、伊吹小学校 春照小学校、米原小学校、河南小学校、坂田小学校 息長小学校	8	9	6
		柏原学区学校・園地域協働本部 （地域学校協働本部）	柏原中学校、柏原小学校、柏原保育園			
		河南学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	伊吹小学校、春照小学校、伊吹山中学校 いぶき認定こども園			
		米原学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	米原中学校、米原小学校、米原幼稚園、米原中保育園			
		大東学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園 大原保育園			
		おうみネット学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校 おうみ認定こども園			
9	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	0
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
10	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校 竜王幼稚園、竜王西幼稚園	2	2	1
11	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝幼稚園、多賀ささゆり保育園 多賀ささゆり保育園分園、たきのみや保育園	4	2	1

	大津市	和邇小学校・地域コーディネート本部	和邇小学校	0	9	2
		真野小学校・地域コーディネート本部	真野小学校			
		仰木の里小学校・地域コーディネート本部	仰木の里小学校			
		唐崎小学校・地域コーディネート本部	唐崎小学校			
		晴嵐小学校・地域コーディネート本部	晴嵐小学校			
		青山小学校・地域コーディネート本部	青山小学校			
		仰木中学校・地域コーディネート本部	仰木中学校、仰木の里小学校、仰木の里東小学校			
		田上中学校・地域コーディネート本部	田上中学校、田上小学校、上田上小学校			
	愛荘町	愛荘町学校支援地域本部	秦荘中学校、愛知中学校、秦荘東小学校、秦荘西小学校 愛知川小学校、愛知川東小学校	0	4	2

彦根市における地域学校協働本部の取組

■　目指す姿

〇幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■　本年度の具体的活動

（１）実行委員会の開催（年２回）

構成委員:18 名（各中学校管理職、ＣＳ管理職、地域コーディネーター、学び育ち教室コーディネーター、彦根市ＰＴＡ連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

７月 14 日(金)：事業説明・各本部の実践交流

事業説明の中で、「学校支援」から「地域学校協働」へと変わった経緯等に触れ、地域と学校が今まで以上に連携を密にして共に活動することの重要性を啓発した。また、実践交流の中で今年度から新たに実行委員となった彦根市で唯一のＣＳである若葉小学校の校長から取組を紹介していただき、彦根市のＣＳの活動について周知を図った。

１月 29 日(月)：各本部の実践交流・次年度の計画

（２）10・11 月：学校訪問

７中学校とＣＳの１小学校訪問　事業の進捗状況把握、今後の取組の確認

（３）12 月 22 日（金）：地域コーディネーター研修会および連絡会の開催

研修会:講師　湖南市立菩提寺小学校運営協議会理事 兼 地域コーディネーター　安部 正毅氏

演題　「地域コーディネーターに必要なこと」

連絡会：今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等

■　本年度の成果

〇全小中学校で取組が浸透し、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。

〇地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子や協働活動の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

〇地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇地域コーディネーターと学校関係者が連携を密にして、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

〇事業を支える支援ボランティアの確保

〇地域学校協働活動の推進を図るための研修方法

子どもたちの笑顔のために～できる人が　できるときに　できることを～　（東中学校）

彦根市 活動名 東中学校区地域学校協働本部・東中学校	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
	ボランティア登録数	57　人
関係する学校 城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員（土曜教室）　■地域未来塾以外の学習支援（授業援助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

平成 20 年９月より彦根市で初めて学校支援地域本部事業の指定を受け、その後継続して事業を推進している。今年度も１名の地域コーディネーターによりこれまでの活動を生かして活動を進めている。本校では「生徒に寄り添う学習支援」に重点を置きながら中学校として特徴的な活動として「学習支援活動」「読み聞かせ活動」「図書整備活動」「部活動の指導」「土曜学習支援・ＡＫＢ（英語検定バッチリ）」と幅広く支援を行っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動内容）

〇読み聞かせ・図書整備活動

朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。クラスで学期に１回の計画を立て、学年をＡ団、Ｂ団の２つに分けて１学年から順次実施している。年間を通してどの作品がよいかを学年ごとに創意工夫し、幅広い作品を準備していただいている。また、図書室の新刊図書の登録作業や図書の整備などの支援もしていただいている。地域コーディネーターにより図書ボランティアを募り、１６名のボランティアの方が当番制で毎日昼休みに図書室を開き、生徒の貸し出し等の利用を可能にしている。

【沖縄民謡の公演】

〇ゲストティーチャーによる授業・公演

２年生では沖縄学習旅行にむけての事前学習で、地域コーディネーターの仲介により沖縄の八重山民謡を演奏する団体「鳩間ファミリー」と交渉し、学校において民謡と踊りを中心とした公演を開催した。また、１年生では「仕事人と語ろう」で 11 の職種の方々を招き職業講話をもつことで将来の進路について考えるよい機会となった。

〇体育大会での支援　ボランティアの募集により４名の保護者にゼッケンを縫いつける作業の補助をしてもらった。

〇部活動の指導補助　　卓球部、サッカー部、水泳部、吹奏楽部、美術部、書道部において、活動補助として放課後や休日に専門的な指導をしていただいている。運動部・文化部共に技術面の向上により各種の大会で好成績を収めている。

■　土曜学習の活動内容

・概要と目的　土曜学習講座ＡＫＢ（英語検定バッチリ講座）では、子どもたちの学力向上、とりわけ英語力アップを目指し、英語検定３級・４級の取得を目標に受検者の学習を支援するためボランティアの方による授業を行っている。

・支援員数と属性　１名（元教員１名）

・学習形態、持ち方と実施日数　希望者を募り希望多数の場合は抽選で受講者を決定し、テキスト教材を準備し、級別に時間を分けて講義形式と個別の指導形態で講座を開いている。級別に土曜の午後、１時間半程度を設定。英検実施日の１か月前から６回程度実施している。子どもの平均参加人数は、３級９人、４級 10 人。

■　実施に当たっての工夫

年度当初の職員会議で、地域コーディネーターの方から今年度の事業計画を説明していただき、この活動のねらいを全職員が理解した上で取り組んでいる。また教師からの要望をアンケートで聞き取り、活動に生かしている。どの活動も地域コーディネーターを中心に連絡を密にし、急な変更にも素早く対応していただいている。

■　事業の成果

図書整備活働と毎日昼休みに図書室を開館することで、利用する生徒が増加し、読書習慣が身についてきている。また、ゲストティーチャーとして沖縄の鳩間ファミリーにきていただいたことで、沖縄の文化をより身近に感じることができた。ＡＫＢ（英語検定バッチリ講座）では、毎回多くの合格者を出しており級の取得率が高くなっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

各学年や校内事情を考慮してもらいながらボランティアの方々に来ていただいているが、人数や時間調整が難しくなかなかそろわない日もある。「本部だより」等でその実態を伝え運営が多様化できるようボランティア登録を増やしていく必要性がある。また、より効率よく学校とつながっていくために地域と教員との連携を進め、この活動を発展させていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校がどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンドの活動の充実に向けて～　（城東小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
東中学区地域学校協働本部（城東小学校マーチングバンド）	ボランティア登録数	３　人
関係する学校 城東小学校・東中学校・佐和山小学校・旭森小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員（夏休みの学力補充）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要　※実施した活動内容全てに■印

〇活動のねらい

・マーチングバンドの演奏を通して豊かな情操を養うとともに、５・６年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちをはぐくむ。
・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちをはぐくみ、学校への愛着を深める。

〇編成と指導体制

・マーチングバンドは、６年生（後期は５年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の６校時に練習を行っている。
・教職員が分担して指導（前期９名、後期９名）にあたり、年間 30 時間程度活動している。
・外部から、ボランティア３名の方に演奏指導に来ていただいている。

【城まつりパレードへの参加】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・各パートの練習（毎週金曜日６校時）　・東中学校吹奏楽部との連携
・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加

■　実施に当たっての工夫

・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いするようにした。また、地域学校協働本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、２名の方がトロンボーンや打楽器の指導をしていただけることになり、指導体制が充実した。
・12 月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。ボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心も大切にしている。
・毎年５月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドのパート別指導をお願いしている。

■　事業の成果

・地域学校協働本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・地域学校協働本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■　その他

マーチング活動に関する児童の感想

練習が苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることができて感謝の気持ちでいっぱいです。指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などをたくさん教えていただいたからだと思います。城まつりパレードで自信をもって演奏することができました。

１年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。しっかり５年生に引き継いでいきたいです。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共に、子ども達のグローバル資質を育てる　（佐和山小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
東中学校区地域学校協働本部　　佐和山小学校	ボランティア登録数	160　人
関係する学校 佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校教育の推進にあたっては、多くのボランティアの方の協力を得ている。そのほとんどが地域の方である。主な内容としては、地域学習の安全見守り・夏季休業中の算数の学力補充教室・読み聞かせと図書館整備・サツマイモの苗植え指導・家庭科実習支援、学校行事支援・ふれあいルームの日（お年寄りと遊ぶ日）、登下校の安全見守り指導等がある。こういった地域の方の温かい支えに応えるべく、本校では、本校教育の公開とともに地域の方との呼応のある教育活動・地域人材の持ち味を生かした教育活動の展開を推進している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

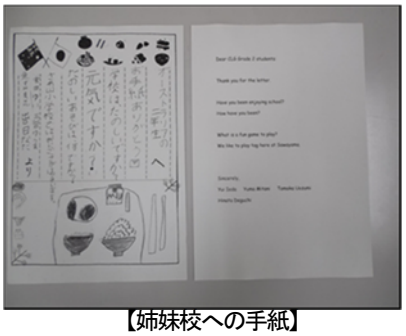
（１）英語の短時間学習

本校は、文部科学省より教育課程特例校（英語教育）の指定を、滋賀県より小中高英語教育推進事業及び小学校英語パイオニアプロジェクトの研究指定を受けている。英語教育加配や ALT の配置もあり第３学年以上の英語の学習の充実を図っている。しかしながら、低学年から慣れ親しむことが大切と考え、全校一斉短時間学習を設定した。しかし、低学年からの慣れ親しみが必要不可欠と考え、クラウディア中川さんの協力を得て、低学年の朝学習時に 15 分間の英語活動を展開している。各学級、年間６～７回程度ではあるが、子ども達は、英語だけではなく、クラウディア中川さんの人柄や母国の文化に触れたり、クラウディア中川さんとの語らいを楽しんだりしている。

【１年　英語の短時間学習の様子】

（２）英訳

本校は、オーストラリアの Colonel Light Gardens Primary School と姉妹校提携を結んでいる。子ども達は年間何回かの手紙等の交流を楽しんでいる。子ども達が書いた簡単な手紙の英訳を、吉田さんにお願いしている。子ども達の目の前でボランティア活動をしていただいているわけではないため、子ども達には吉田さんの存在を紹介している。遠く離れたオーストラリアの姉妹校との橋渡しをしていただいている人の存在を、子ども達に意識させている。



【姉妹校への手紙】

■　実施に当たっての工夫

〇英語の短時間学習や英訳については、校内研究とのかかわりもあり、英語教育加配を担当にして、窓口の一本化を図っている。

〇英訳ボランティアについては、英訳をお願いするときやしていただいたとき、子ども達の手紙を必ず添えるようにしている。

■　事業の成果

〇低学年にも英語の短時間学習を設定できたことは、英語教育の素地づくりとして成果があると考える。

〇クラウディア中村さんの人柄に触れたり、語らいを楽しんだりすることは、本校の子ども達のグローバル資質をはぐくむ上でも、成果といえる。

〇英訳については、姉妹校との交流の活性化だけではなく、少し離れた人に支えられている自分を自覚したり、顔の見えない人へ感謝の念を抱いたりと、生き方についての学びにもつながるものと考える。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇英語の短時間学習の実施については、学校行事や児童会行事等で変更になることも多々あり、計画通りにいかないことがある。再度の日程調整も難しく、結果的にご迷惑をおかけすることが多い。

〇窓口を一本化することで便利なこともあるが、任せきりになる傾向もあり、担任の意識強化が必要である。

〇英訳については、なかなか人材が見つからなかった。今回は、多くの人に探していただき、吉田さんにお会いできたのである。地域へのアンテナを高くして、常に人材情報を収集することが大切である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の人材を生かした旭森教育をつくる　（旭森小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
東中学校区地域学校協働本部　旭森小学校	ボランティア登録数	38　人
関係する学校 旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

○子どもたちの教育活動に地域の教育力を活かす

本校では、低学年の生活科、中高学年の総合的な学習の時間の学習に、ゲストティーチャーや学習支援者として多くの地域の方々の協力を得ている。また、全校に関わる読書活動や本校の伝統的な活動であるマーチングバンドの楽器指導にも、多くの支援をいただいている。夏季休業中学力補充教室には、地域におられる教員ＯＢのみなさんの力を借り、学習支援を実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話会」を計画し、低中高学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しむいい機会となっている。

また、図書室の環境整備にもご協力をいただいている。火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。

○家庭科の「ミシン」学習支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシンの学習支援である。指導する教師は一人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすい。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では５・６年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導のご協力をいただいている。

○ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なＥＳＤ教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。１年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、昔からの遊びを教えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間を作っている。また３年生や６年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師としてご協力をいただいている。

■　実施に当たっての工夫

○４月職員会議等の場に、地域コーディネーターと地域学校協働本部事務局の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、各教員が本事業を知ることができた。

○ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや１時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教師と打合せをして実施している。

■　事業の成果

○図書館教育部が、一人年間 50 冊を目標にした読書推進の取組を始めて４年目になるが、図書室が本に親しみやすい環境になっているおかげで、達成する児童が増えている。

○本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

【ふれあいお話会】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、協力いただける方がなかなか増えていかないのが現状である。学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していき、継続して協力を呼びかけたい。

・図書ボランティアについては、地域のみなさんを中心に運営が進められるように、地域人材の募集を続けていきたい。

・学生チューターの協力を得るため、大学との連携を模索していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

教職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動　（西中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	4　人
西中学校区支援地域協議会　西中学校	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 彦根市立西中学校・城西小学校・城北小学校・城北幼稚園	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

児童・生徒が学校に居る時や登・下校時に、重大な自然災害や事件・事故などが発生し、学校や保護者だけでは対応できないと校長が判断した時は、当該校長は自治連合会傘下の組織・スクールガード・地域コーディネーター・PTA 等の組織に支援を要請し、地域と連携して対応に当たることを目的に、以下の「危機対応マニュアル」の作成に取り組んだ。

これは学校の危機管理をはじめ、学校と地域の危機への対応やその連携および地域の防災組織に至るまで、様々な課題が含まれている。今年度はマニュアル作成に終始したが、今後の取り組みが期待されている。

■　地域と学校が連携・協動した活動

上記のような重大な災害・事故・事件は、その規模によって学校の職員だけでは対応しきれないケースも考えておかねばならない。そんな時こそ、地域のあらゆる組織に支援を要請していくことを検討した。この取組こそ、地域と学校の連携・協動の活動である。そこで、自治連合会長やその傘下の組織長などに事前に趣旨を伝え、協力の依頼をさせていただいた。

これらは単に学校からの要請による学校支援のみでなく、学校が地域防災の拠点としての「避難場所」となっていることから、今後も地域の防災における連携・協働の課題も問われることとなる。

■　実施に当たっての工夫

（1）西中学区として小・中学校の連携や学校と地域の協働した活動として取り組めるよう、さらに「危機対応マニュアル」の作成後も、その協働を意識した取組になることを目指して協議できた。

（2）コンビニ強盗事件が相次いで２件も発生した時の対応に、学校や地域の連携が必ずしも十分でなかったことを受け、こうした緊急時の対応が学校だけで可能なのか等の検討すらされてこなかった中、この機会に学校と地域の連携・協議ができたことは大きな進展であった。

■　事業の成果

（1）当マニュアル作りが学校と地域の協働の活動として立ち上げることができたことは大きな成果だった。今後毎年、学校と地域、さらに地域組織が具体的にどのように活動していくかが問われている。

（2）地域全体の危機対応に関わって、学校・地域がそれぞれの立場で協議でき、当マニュアルを作成する契機となった。

（3）西中学校には小学校のようなスクールガードの組織がないので、緊急時のスクールガードの募集をしたところ、十数人の賛同者があり、メール配信の手続きもでき、組織もたちあげることができたことは、今後の対応に明るい展望ができた。

■　事業実施上の課題と連携・協動活動実施に向けて

（1）今年度は当対応マニュアルの作成が中心であったが、今後毎年、学校も地域もそれぞれの組織のメンバーも替わっていくので、当マニュアルを随時地域に発信し、要請・依頼していく中で、地域の防災を含めた協働の体制を確認し、具体的な活動を検討していかねばならない。

（2）当マニュアル作りは、ただ単に学校が地域に支援を要請するにとどまらず、防災について学校も地域に関わり「避難場所」としての対応や、「中学生の地域での防災の役割」にまで踏み込んだものになれば、まさにそれは「協働」たる取組といえるので、今後の取組に学校も地域も重点的に取り組まねばならない。特に以下のことについて検討していくことも話し合いの中でだされていた。

＊中学校の避難訓練時に地域からもお越しいただき、評価や指導もいただければ、生徒の地域への防災意識の高揚にもなるのではないか。さらに避難場所での中学生の役割等についても検討する価値があるのではなかろうか。

＊中学生が地域の防災訓練などに地域貢献として参加してはどうか。必ず中学生の役割があるのではなかろうか。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共に、豊かな学びをめざして　（城西小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
西中学校地域学校協働本部　城西小学校	ボランティア登録数	60　人
関係する学校 城西小学校、城北小学校・西中学校・城北幼稚園	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域とのつながりを大切にし、「子どもたちの学びを豊かにする学習支援」、「豊かな情操を育む読書支援」、「安全な登下校のための見守り活動」を柱に地域コーディネーターと連携して活動に取り組んだ。また、地域を学習の場にしたり、地域の方々に学習に関わっていただいたりすることで、子どもたちと地域（人、物）のつながりを深めるとともに、子どもたちが地域に出向き、学習成果を発揮することで地域と協働した活動となるよう努めた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）世代間交流の充実

１、２年生を中心に、地域の高齢者が会員の「子どもらと楽しもう会」との交流に取り組んだ。１年生には交通安全の意識を高めるための「キューピー人形」を渡していただき、１、２年生合同の「七夕集会」 では、ゲストティーチャーとして伝統的な行事と伝承遊びについて、指導や講話いただいた。

【「七夕集会」】

（２）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

・３年生

昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、その歴史やよさを調べたり、商店街連盟の方から関わる人々の思いを聞いたりして、落ち葉拾いや清掃など子どもたち自身ができることを見つけ実践した。

・４年生

「彦根城」を題材に、彦根城の特徴を調べ、ボランティアガイドのみなさんからよりよいガイドの仕方についてアドバイスを聞き、実際に観光客をガイドしたり、城下町である校区のよさを追究したりする学習に取り組んだ。

・５年生

地域の環境を題材に、琵琶湖の環境や城山の植物調べ、 芹川の水質調べなどに取り組んだ。城山の植物調べでは、市生活環境課職員をゲストティーチャーに学びを深め、学習した城山の植物をカードにまとめ、観光客に配付した。

・６年生

地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通しながら学びを深めた。また、狂言体験では、学習成果を館内の能舞台にて、保護者や地域の方に発表した。

■　実施に当たっての工夫

これまでの連携先や地域コーディネーターに紹介していただいたゲストティーチャーに継続的に協力いただけるように、学校側の担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

■　事業の成果

地域の方に関わっていただくことが充実し、継続いただけるようになってきた。特に、地域について専門的な知識や地域への愛情や誇りに思う気持ちを育むには、地域の方の生の声を聞くことが効果的である。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換する。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』　（城北小学校）

■　彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
西中学校区地域学校協働本部　城北小学校	ボランティア登録数	29　人
関係する学校 城北小学校・西中学校・城西小学校・城北幼稚園	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

８：50～９：00　出発式
９：00～　ウォークラリー（各班並んで３分ごとに出発）
（水主の水軍跡→松原回転橋→彦根港→お浜御殿→琵琶湖岸）
12：00～終わりの式
児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、６年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

今年度は松原のお浜御殿や水主水軍跡などを縦割り班ごとにウォークラリーをしながら巡り歩き、総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、６年生が下級生に説明する。全校を 24 グループに分け、それぞれのグループにボランティアがついて活動を共にする。

６年生は、事前に歴史ボランティアさんのお話を聞きながら、グループ毎に課題をもって調べ、下級生に対してどのように伝えるかを考え、準備を進めた。

当日は、縦割り班のリーダーとしてだけではなく、歴史学習のガイドとしての役割を担っており、歴史ボランティアさんのアドバイスをもとに、各班が工夫した資料や説明で、班のメンバー（１年生～５年生）に説明を行った。

【　説明をする６年生　】

■　実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、地域学校協働本部のリーダーに伝えた。当日は、地域学校協働本部のリーダーから、児童の活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

【　参加者一同による出発式　】

■　事業の成果

20 名以上の方々が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアさんの人数がしっかり確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞り、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

■　その他

子どもたちは、話を聴く姿勢や、ルールを守ることなど、よく頑張れていた。６年生は事前の学習で、国語科の学習と関連付けながら、よりよいプレゼンテーションの仕方について探究する機会となり、学級会や委員会活動など、他の活動においても学んだことを生かすことができる活動であると考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（○）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校と地域を結ぶSCHOOL　SUPPORT　（中央中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	３　人
彦根中央中学校区支援地域協議会　中央中学校	ボランティア登録数	約　７　人
関係する学校 中央中学校・ 金城小学校・平田小学校・金城幼稚園・平田こども園	開　始　年　度	平成22年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本事業は今年度８年目を迎え、地域の多彩な人材を学校教育に活用することで、児童・生徒の学力向上や体験的な学習で成果をあげてきている。また環境整備作業等を行い教育環境の充実を目指している。幼小中連携で取り組んでおり、地域コーディネーターと各校の担当者会を年３回設定し、各校地域の実態把握、事業計画、予算配分、事業連携などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合って進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）今年度から特別支援学級の授業で、校地内での野菜作りを行っており、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興にも取り組みながら、様々な野菜作りの補助を行っていただいている。
（２）校内の環境整備事業として、　①ゴーヤカーテンの設置と撤去
②使用していない旧花壇枠の撤去　③校地内の除草作業
④校舎内の掲示板の作成　に取り組んでいただいた。
（３）部活動支援として、今年度も美術部の作品用額縁の制作と修繕を行っていただいた。
（４）「中央中博覧会」として、授業や部活動で作成した作品を、地域の公民館に１週間展示し、保護者や地域の方に見ていただいている。また小学６年生の書写作品も合わせて展示することで連携を図っており、その設営や当番、後片付けで支援していただいている。

【ゴーヤカーテン設置の様子】

【中央中博覧会の様子】

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

詳細は地域未来塾事業で掲載

■　実施に当たっての工夫

〇生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティア参加することにより、連携を積極的に行い、地域とのつながりを深めようとしている。
〇幼・小・中との連携の中で、美術部などの生徒活動を活用した取組を模索した。

■　事業の成果

〇毎年行っている活動については、支援の方々も要領をよく理解していただいており、手際の良いスムーズな活動ができるようになってきている。その中でも、３年ほど実施しているゴーヤカーテンは、毎回前年度の反省をうけて改良され、毎年よく育つようになってきている。
〇コーディネーターの他にも、総合的な学習の時間の茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣着付け体験、調理実習、社会科の租税教室、保健体育科の性教育講座、朝読書の読み聞かせなどを実施し、地域の人材を授業の中で活用している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。
〇本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事、生徒活動への計画的な導入を図っていく。

■　「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり　（平田小学校）

彦根市　平田小学校 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
中央中学校区支援地域協議会　平田小学校	ボランティア登録数	37　人
関係する学校 平田小学校・金城小学校・中央中学校 平田子ども園・金城幼稚園	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本事業も７年目を迎え、今年度の活動について５月の総会時に話し合い、活動内容を決めてきた。毎週水曜日の朝の読み聞かせ、環境整備活動、社会科や総合的な学習の時間での地域学習の講師や引率、全校遠足の引率等、地域人材の活用が定着している。コーディネーターをはじめ、ボランティアの皆さんが、学校のことを熱心に考えて活動してくださっている状況である。子どもたちは、地域のボランティアさんとの声かけや見守りを素直に受けとめ、安心感とともに感謝の気持ちをもって活動ができている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動内容）

①朝の読み聞かせ

今年度２名の方に新たに読み聞かせボランティアに登録いただき、合計８名で活動していただいている。本校は 11 学級あるため、読書活動支援員、教員２名が水曜日の読書の時間にボランティアさんと一緒に読み聞かせを行っている。毎週、いろいろなお話を聞くことができ、子どもたちは興味深く聞いている。

②全校遠足の引率

11 月２日（木）にふれあい遠足を実施した。たてわり班の各班に１～２名ずつボランティアさんについていただくとともに、ペア学年で並んで彦根城まで歩く交差点には、立哨していただいている。今年度も 17 名の方にご協力いただき、安全に彦根城まで往復することができた。

③にこにこ農園・教材園

本校には何カ所か畑があり、学年で使用する畑を決め教材園として運営している。昨年度から空いた畑を「にこにこ農園」として利用し、ボランティアさんと一緒に作物を育て、野菜作りを教えてもらう場、一緒に畑仕事をする場として活用してきた。今年度は、３年生の担任より、「大豆を育てて、国語科や社会科との学習とつなげたい」という提案から、苗作りから始めて大豆の栽培に取り組んだ。事前に畑の除草作業をしていただいたり、１面しか畝作りができなかった畑を２面に増やしていただいたりした。好意で大豆の苗を持ってきていただいたボランティアさんもあった。活動日には除草や周りの畑の整備をしていただき、10 月 11 日に大豆の収穫を行った。収穫した大豆は、きなこにする計画である。

【大豆の収穫】

■　実施に当たっての工夫

今年度は、学校支援のボランティア募集の案内を学校だよりの他に地域の回覧でも行った。募集を出した時点での新たな登録者はなかったが、「ボランティア募集のちらしを見たから」と１学期の終わりに登録者が増えた。案内を見た方からの登録の連絡を待つのは難しいが、あらかじめ出しておくことで、地域の懇親会等で話題になったことがきっかけで、学校支援に来ていただけるようになった。今年度も毎月第２水曜日を活動日として位置づけた。

■　事業の成果

月１回の活動日には、８名ほどのボランティアさんが参加してくださっている。今年度は、２時間の活動時間を２時間半に伸ばしていただき、学校環境が少しでも良くなるように仕事を見つけて環境整備に努めてくださっている。子どもたちの中にも、自分たちのために来てくださっているということが分かってきて、自然と挨拶を交わす子も増えてきている。

「にこにこ農園」の大豆の栽培の他に、２年生では、野菜の栽培活動を一緒にしていただいた。野菜の苗を植えることから、草取りや、収穫を一緒にすることで、ボランティアさんたちとふれあうよい機会となった。収穫した野菜を何度も子どもたちが家庭へ持ち帰ることができ、学校支援ボランティアとの活動を保護者に知ってもらう機会にもなった。さらに、子どもたちは、ボランティアさんへあてて野菜作りの感想を入れた手紙を書くことで、生活科の学習のまとめとして取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

今年度も登録を辞退される方があり、ボランティアさんの人数確保が課題である。学校支援の活動が、ボランティアさんにとってのやりがいにつながるよう、支援していただける活動について意見交流し、次回に向けて活動の確認をする必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校と地域の「豊かなつながり」　（金城小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
中央中学校区支援地域協議会　金城小学校	ボランティア登録数	113 人
関係する学校 金城小学校・平田小学校・中央中学校・平田こども園・金城幼稚園	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

子どもと地域・学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

本事業が開始される以前より、金城学区では、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見回りなどで、地域」の方々に学校を支援していただいてきた経緯がある。その活動を本事業につなげて、継続発展して、今日まで取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）登下校の安全パトロールと挨拶
・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、安全を見守っていてくださっている。

（２）体験活動支援
・特別支援学級の大藪かぶらの栽培、３年生の昔のあそびとくらし、５年生の米作り等の活動にゲストティーチャーを頼んでいる。田んぼの管理をしていただいた方は、おにぎりパーティに招待している。

（３）読み聞かせ・影絵
・朝読書の時に読み聞かせをしていただいたり、全校集会で影絵を行っていただいたりしている。

（４）学習環境の整備
・校庭の樹木の剪定や除草作業を実施していただいている。

【おにぎりパーティー】

■　実施に当たっての工夫

〇毎月、第３月曜日に定例会を開催し、コーディネートと活動内容の計画と確認を行っている。
〇ボランティアの方々へは、６年生の児童が暑中見舞いのはがきを出したり、ＰＴＡ行事とタイアップして５，６年生児童が感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたりしている。
〇ＰＴＡから単Ｐ大会やもちつき大会などのＰＴＡ主催行事に、ボランティアを招待している。

■　事業の成果

〇生活しやすい学校環境の整備や授業の充実を図ることができた。
〇子どもの様子を適宜伝えていただくことで、学校だけでは気づかない実態を掴むことができた。
〇地域の様々な人々によって守り育てていることを、子どもが感じ取ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分周知されていないこと。
〇子どもたちが、ボランティアの方々と共に活動したり気軽に話したり機会の充実
〇ボランティアの高齢化に伴い、ボランティア活動を終える方が出てきたこと。ボランティアの世代がうまく進みそうにない実態があること。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根南サポートオフィス７年目の取組　　～継続は力～　　（南中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
彦根南サポートオフィス　南中学校	ボランティア登録数	７人
関係する学校 城南小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した全ての活動内容に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■その他［グリーンカーテン作り］

■　活動の概要

校区内の中学校と４小学校の各地域支援コーディネーターと担当の先生で定期的に会議を持ち、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。また地域への啓発とボランティアの人材確保を目的とした「ボランティア便り」を発行し、保護者への配布と地域回覧を行っている。

今年度より若葉小学校がコミュニティ・スクールとなり彦根南サポートオフィスから外れた形となっているが、同じ地域内での活動や目標は同じという視点から、会議にも参加いただき、その精力的な活動に各学校が刺激を受けている。「ボランティア便り」も引き続き合同で製作し配布を継続している。

南中学校においては学習支援（地域未来塾）と環境整備・グリーンカーテン作りを中心に活動している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）グリーンカーテン作り

夏に涼やかさを作るグリーンカーテン作りに取り組んで３年目
今年度もボランティアの方と部活に参加していた１年生の手伝いで
校舎側面に大きく作り上げることができた。

（２）環境整備

今年度はグラウンド周辺の側溝の土上げを中心に行った。

【 グリーンカーテン作り　】

■　実施に当たっての工夫

〇グリーンカーテン作りに関しては、植え込みやパイプ作りに生徒にも参加してもらい、ボランティアの方と共に作り上げるようにした。
〇「ボランティア便り」発行に関しては担当の先生と連絡を取り合い、活動の様子を直接取材するよう心掛けた。
〇今年度も中学校の先生に支援して欲しい事のアンケートをお願いした。このアンケートの結果、学習支援が必要とわかったので、ボランティアの確保を進めたい。

【　環境整備　】

■　事業の成果

〇小学校で活動取材をする中で、ボランティアの方とつながるチャンスができた。中学校へはなかなか地域の方に来ていただけないので、直接ボランティアのお願いをするなど、今後の人材確保のつながりを作ることができた。
〇環境整備については、中学生の地域貢献活動に合わせて行っているため親子での参加も多く、毎年の恒例行事として定着してきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇各小学校では地域への事業の浸透が見られるようになってきたが、中学校としてはまだまだで、ボランティアの人材確保が一番難しい。地域との連携・協働を進めるためにも、協議会に地域の団体の方に参加いただくなど、相互理解を深めるためにも転換を図る時期にきていると感じる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに豊かな学びをめざして～学校と地域で作る子供の学び～　（城南小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
彦根南サポートオフィス　城南小学校	ボランティア登録数	85　人
関係する学校 城南小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）読書ボランティア　・朝のさわやかタイムの読み語り　・図書室の本の整理・環境づくり
（2）スクールガード活動　・登下校時の通学路の見回り（安全指導）　・下校時の公園等の見回り（不審者対応）
（3）学習支援
- 特別支援学級　「絆を深めよう」　「花を育てよう」　「地域に方とふれ合おう」
- １年　生活科　「つながりあおう園児と仲良く」「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ２年　生活科　「生き物とふれ合おう、育てよう」　「町の人と仲よしになろう」
- ３年　社会科　「もっと知りたい！大好きな私の町」「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ４年　社会科・総合的な学習の時間　「地域の住みよい町かんきょう」　「やさしい町づくり」
- ５年　社会科・理科・総合的な学習の時間　「琵琶湖調査隊」　「安全な町づくりプロジェクト」
- ６年　社会科・総合的な学習の時間　「南中学区の歴史を探ろう」　「平和な世界をめざして」
- 全校　行事　創立記念集会「ふるさとのよさ再発見　城南学区の今と昔」

■　実施に当たっての工夫

〇教育活動への理解をもとに、持続的に協力してくれる中核となる地域の人々と円滑な関係づくりを行うことで、ネットワークをつくり、教育活動が単年で終わることのないように維持していくことを重視した。

【地域の伝統文化･幌踊りを教わる】

■　事業の成果

〇読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週２回、紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んで読んでいただいている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫など、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけてもらっている。とりわけ掲示物は、季節に合わせた内容のものを作成いただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。今年の生活アンケートからも、読書を好む子の数がさらに増えていることがわかった。

〇スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいており、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

〇学習支援

学校と学校支援コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わったり、地域の施設や遺跡、伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。体験的な活動が、子どもたちの実感を伴った学びにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇彦根南サポートオフィスの活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づくと地域の方から声をかけていただくこともある。学習内容や活動は年間計画にも位置づけている。ただ、現在のコーディネーターの方に中心的な役割を果たしていただいているが、学校が頼りすぎている部分もあり、新しい内容や活動を取り入れるなどの活性化が図りにくい面がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

つなげよう　子どもを育む　地域の力　～地域の力で学びを深める～　（城陽小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
彦根南サポートオフィス　城陽小学校	ボランティア登録数	75　人
関係する学校 城陽小学校・南中学校・城南小学校・亀山小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色のひとつとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただいたり、地域学習の講師、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、校外学習の引率補助などにもご協力いたりしている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）２年生～６年生　夏休み算数科補充学習

毎年、夏休みに入った最初の３日間を算数科の補充学習教室として取り組んでいる。希望者として集まった児童を、各学年３～５人の小グループに分け、主に１学期の復習学習を行っている。そこで、担任だけでなく地域の方にお手伝いをいただいている。

今年度は、城陽学区にお住まいの教員 OB の方３名と、県立大学の学生の方、のべ 14 名に来ていただき、小グループに入って採点やアドバイスを子どもたちに送っていただいた。子どもたちも近くにいる先生や、学生のお兄さんお姉さんに気軽に質問したり、採点の際に説明をしてもらうなど、一人ひとりの子に合わせたきめ細やかな指導ができ、学習成果を高めることができた。

【算数教室で県立大の学生と】

（２）読み聞かせボランティアと図書環境ボランティア

本校では、毎年地域の方の中から読み聞かせボランティアをお願いしている。本年度も５名の方が毎週火曜日の朝学習の時間に読み聞かせに来てくださっている。子どもたちは、読み聞かせの時間になると静かにお話に聞き入り落ち着いた時間となっている。また、図書環境ボランティアにも４名の方が活動してくださっている。毎週火曜日の午前中に図書室に集まり、本の整頓や季節に応じた図書室環境作りを行っておられる。季節の行事に合わせた飾り付けはとてもかわいらしく、図書室にいたいと思わせる雰囲気作りとなっている。

【読み聞かせに聞き入る子どもたち】

■　実施に当たっての工夫

〇効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打合せを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。
また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■　事業の成果

〇本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話しいただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで学校とのつながりをより深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

We Love かめやま　（亀山小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
彦根南サポートオフィス　亀山小学校	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・南中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

学校地域支援本部地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

【サツマイモ植え】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子ども達が行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。

（２）家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。

（３）学力向上への支援

夏休みに、全校児童対象に学力補充教室（算数・国語教室）を開催している。今年度は、地域の教員ＯＢ７名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。

（４）ふるさと学習への支援

３年の地域学習や２年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし､ふるさとへの思いを深めることができている｡年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、１年間のふるさと学習の成果を披露している。

【造り酒屋さんにて】

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいた方にお願いし、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。前コーディネーターの方との連携を密にとり、栽培活動時などはお二人で学校に出向いてくださっている。
〇担当教職員とコーディネーターが打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
〇毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。
〇校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■　事業の成果

〇コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
〇小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に学習を実施することができている。
〇ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。
〇支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
〇さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方に来ていただくことは難しいのが現状である。
〇ボランティアとの事前打合せは担任を中心に行っているが、話の視点が少しずれたり、内容が難しかったりすることがある。指導してもらう内容についての綿密な打合せが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地域のお役に立てる彦中生！　（彦根中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	4　人
彦根中学校区地域学校協働本部　彦根中学校	ボランティア登録数	32 人
関係する学校 河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

（１）緑のカーテンプロジェクト　　取組４年目になる。３教室分と保健室の前でゴーヤを使った緑のカーテンに取り組む。

（２）学校行事などに参加・協力

地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集。

・長距離遠足の交通指導など・合唱コンクールなど行事時の駐車場案内・校地内の環境整備（葉刈り、除草作業など）

（３）地域貢献活動への参加協力

地域の一員として、地域活動に参加する中で感謝の心や豊かな心の育成を図る。

（４）ゲストティーチャーによる特別講義

・助産師による性教育（１年）・職場体験前のマナー講座（２年）・放課後の学習支援（３年）・ひょうたん作り講習（特別支援学級）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）緑のカーテンプロジェクト

取り組み４年目。なるべく多くの生徒にかかわらせ自分たちの緑のカーテンと意識づける努力をした。

５月上旬：３年生の学年集会で取り組み説明　　近隣のビニールハウスで種まき・ポットに移植
中旬：支柱・ネット張り・プランターに移植・生徒会環境委員や部活動による水やり
10月中旬：ゴーヤの撤去作業

（２）地域貢献活動への参加

「地域のお役に立てる彦中生！」を目指して、地域貢献活動に積極的に参加できる生徒の育成に力を注いだ。

①　年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告依頼する。
②　報告された活動を生徒に知らせ、ボランティアを募る。
③　参加希望の生徒は申込用紙を提出。学校で集約し依頼先に名簿を報告する。
④　参加生徒は、活動後に報告書を提出する。
⑤　年度末に活動参加の多い生徒を表彰する。

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇詳細は地域未来塾事業で掲載

■　実施に当たっての工夫

〇学期に一回の担当者会議を行い、これまでの活動の振り返りと今後の予定について話し合いを持った。教職員と地域コーディネーターとの立場や思いを交流することにより、その後の活動に生かすことができた。また、小中学校でお互いの活動を参考にすることができた。

〇自治会や青少年育成会議などの諸団体とも連携を取りながら、活動を進めることができた。

【　ゴーヤ支柱立てを終えて　】

■　事業の成果

〇緑のカーテンプロジェクトについては４年目でもあり、地域や生徒の中で定着してきた。移植や水やり、撤去作業など委員会や部活動、ボランティアなど多くの生徒の参加が得られている。また、ゴーヤだけでなく、プランターの花なども地域の人と生徒たちで一緒に移植をし、自分たちの学校を自分たちできれいにする意識が出てきている。

〇学校行事である長距離遠足については、地域の理解もあり、交通指導・歩行など積極的に支援してくださる方々も多い。また、生徒たちも地域に守られていることを実感できている。

〇生徒の地域行事への積極的な参加により地域の中学生への見方が変わり、中学生のがんばる姿を肯定的に見ていただけるようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。中学生自身も成就感や自己存在感を感じることにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇まだまだ、担当者とコーディネーター中心の活動になっており、全職員の意識を高めることが課題である。

〇今年度３名の地域の大学生を確保し「学習支援」を行っているが、なかなか地域の方で協力していただける人が見つからない。地理的な問題、時間的な問題があり、人の確保が難しい。

〇本校の地域コーディネーターは、開始当初からで、高齢化が進んでいる。後任の人選など難しい状況である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の力を学校に　～地域に根ざす豊かな体験～　（河瀬小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
彦根中学校区地域学校協働本部　河瀬小学校	ボランティア登録数	65 人
関係する学校 河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した活動全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

数年来、子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校づくりを目指して、「地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～」を合言葉に地域学校協働事業を展開している。

本年度も、年間を通じて様々な活動を計画し、多くのボランティアさんに専門性を活かした活動や、学校職員だけでは、人的、時間的な制約でなかなか取り組めない活動の支援をしていただき、学校教育の助けになっている。

【　町探検でのお話　】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「町探検」

３年生では、社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域で地域の方にその良さや歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。

（２）「米、花、野菜の栽培・収穫祭」「緑のカーテン」

１，２年生は花や野菜の栽培、４年生はゴーヤの栽培、５年生は米の栽培を行っている。それぞれの活動で地域の方に土や肥料のこと、植え方、育て方を指導していただいた。

さつまいもは、収穫後、収穫祭としてサツマイモのお菓子作りを行った。１年生は保護者の方を中心に調理の支援に来ていただいた。２年生は、保護者の方の他に地域で生活改善活動をされている方にも来ていただき、簡単に作れるサツマイモ料理を紹介していただいた。いっしょに調理をした後には、収穫したサツマイモを持ち帰り、家でも教えていただいたお菓子を作ることができた。

５年生の収穫した米は全校児童が給食で味わったり、家庭科でご飯を炊いたりするほかに、地域の方に米麹に加工していただき、地域の大豆を使って味噌を作る活動に使っている。作った味噌も家庭科や給食、家庭での調理に利用している。

■　実施に当たっての工夫

〇年に３回、中学校ブロックでコーディネーターの方との話し合いをもち、ＰＤＣＡサイクルで活動を進めることができている。年度当初の話し合いでは、昨年度の実践を元に今年度の計画を話し合った。年度途中の話し合いでは、他校の実践を聞く機会があり、活動の参考となっている。

〇年度当初には、学区全体にボランティアの募集の呼びかけをしている。本年度は新たに陸上運動の学習支援や戦争体験のお話を申し出てくださる方があった。また、グループとして、厚生保護女性会のみなさんが図書の整理や読み聞かせ、安全指導にきてくださった。呼びかけをしたことから、ボランティアとして登録してくださる方が広がっている。

【　サツマイモの調理　】

■　事業の成果

〇地域の方から、子どもたちとの交流や支援活動の後のあいさつがとてもいいとのお話をいただいた。人と関わるとてもよい機会になっている。また、地域の方とのつながりが深まり、普段の生活の中でも温かな関わりができている。

〇地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を自慢や誇りに思う気持ちが育っている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ＰＤＣＡサイクルを大切に、よりよい活動になるよう、双方向での意見の交流を大切にしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

わたしたちの町　高宮　「かぼちゃ踊り」～　地域のよさを味わう　伝統を受け継ぐ　～　（高宮小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
彦根中学校区地域学校協働本部　高宮小学校	ボランティア登録数	80　人
関係する学校 高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

高宮地域の伝統である「かぼちゃ踊り」の特徴や雰囲気を味わいながら、学級や学年部で楽しく踊る。「かぼちゃ踊り」を通して、地域のよさに気づき、伝統を受け継いでいこうとする態度を育てることをねらいとしてこの活動に取り組んでいる。

【運動会　かぼちゃ踊り】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動内容）

・地域の高宮かぼちゃ踊り保存会の方に来校していただき、かぼちゃ踊りの振り付けを教えていただいたり、実際のかぼちゃ踊りを見せていただいたりして、踊り方を学ぶ。

・週末や夏季休業中に地域で行われているかぼちゃ踊りの練習に子どもたちが自主的に参加し、保存会の方や地域の皆さんと一緒に楽しむ。

・教えていただいた踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とする。

・地域の文化祭に進んで参加する子も多数おり、「かぼちゃ踊り」の発表の場をいただいている。

■　実施に当たっての工夫

・事前の打ち合わせの中で指導者の願いや「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動がいっそう充実したものになるように努力する。

・身内以外の地域の方とのふれあいを通して、自分たちが多くの人に支えられ、見守られ、大切にされているということに気づけるようにする。

・地域の方に子どもたちの生き生きとした活動の様子や喜びの感想を伝えることで、より積極的に伝統を受け継いでいくことができるようにする。

■　事業の成果

・１．２年生は、「次は、自分たちが踊るんだ。」という意欲をもって、３．４年生の姿を見ている。自主的に夏季休業中の練習に参加する子もいる。

・３年生では、「いよいよ自分たちの出番。」という気持ちで練習に参加し、休み時間を使って、自分たちで歌を口ずさみながら練習する姿が見られた。家庭でも繰り返し練習している子が多くいた。

・４年生は、昨年の学びを生かし、自信をもって練習に取り組むことができた。３年生に教える姿も見られ、先輩として立派な態度で学習に臨むことができた。歌詞の意味も味わいながら踊り、手や足の動きも実にスムーズであった。

・高学年は、昨年（一昨年）のことを思い出しながら、中学年の演技を懐かしそうなまなざしで見守っていた。自然に歌を口ずさんだり、その場で小さく振り付けをしたりする児童が多く見られた。地域の発表の場には、引き続き参加する子が見られる。

・子どもたちの間に十分浸透している「かぼちゃ踊り」である。緊張感を持った運動会の演技ではあるが、この「かぼちゃ踊り」のときだけは、演技をする子も見る子も笑顔いっぱいで、グラウンドは和やかな空気に包まれた。

・保護者や地域には「『かぼちゃ踊り』は、はじめて･･･。」という方も数多くおられるが、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿をほほえましいものと受け取り、とても喜んでくださっている。「家で何回も練習するので、わたしまでおぼえてしまいました。」「孫に『教えて！』と言われ、久しぶりに一緒に踊って、楽しい時間を過ごすことができました。」等の声も耳にしている。

・教師自身が「かぼちゃ踊り」を楽しむようになり地域の行事に積極的に参加している。流ちょうなふしまわしで音頭をとったり、エレガントな動きで踊ったりできる教員が増えている。

■　事業実施上の課題

・子どもたちは、来校していただいたり、練習の場で「先生」として、かかわってくださったりしている方に対しては、感謝や尊敬の気持ちを十分に持ち、表出することができる。反面、学校以外の場や地域では、声をかけていただいてもあいさつや返事ができなかったり、注意してくださったことを素直に聞いたり反省したりできない子が見られる。自分たちは地域に見守られ支えられているという認識をいっそう育て、地域のどこにあっても自然な態度で感謝や尊敬の気持ちを表せる子どもに育てたい。

・直接担当している学年だけでなく、全職員がこの取組の意義を理解し、自らコーディネートできる力を持つ必要がある。そのためには、教師が自ら進んで地域に出かけ、地域のよさに触れ、それを教材化することが大切であると考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

鳥居本学校サポートオフィスの取組　（鳥居本中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
鳥居本中学校区支援地域協議会　鳥居本中学校	ボランティア登録数	200　人
関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　　※実施した活動全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域学習や地域と連携した学習が効果的に組み込まれている。男鬼森林学習や地域行事への参加、地域の人材の活用などにより、学習を進めている。それらの活動を中心に、継続し、発展をめざして取り組んでいる。

【男鬼森林学習：植樹】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆1年･･･植樹　2年･･･伐採　3年･･･活用する

（２）地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

☆宿場祭り　・・・鳥中ソーランの披露、木材加工品の販売、さんあかグッズの販売

☆学区の運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏　・中学生が役員として活動

☆学区の文化祭・・・３年生卒業研究の発表、吹奏楽の演奏、３年生合唱の発表

【宿場祭りでの鳥中ソーラン】

（３）さんあかレンジャー

鳥居本中学校のキャラクターとして生徒より考案された、さんあかレンジャーが、宿場まつりで鳥居本中学校のアピールに歩いたり、あいさつ運動で小学校に行って活躍している。10 月に、１年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

■　学習支援の活動内容

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。　☆３年人権学習（部落問題学習）

☆総合的な学習の時間（３年卒業研究、１、２年マナー講座）　☆２・３年美術（２年鍾馗制作・３年作陶、茶道体験）

■　実施に当たっての工夫

〇鳥居本地区地域教育協議会を年３回持ち、１学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。２学期は中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。３学期は年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■　事業の成果

〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。

〇地域学校協働本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、３学期には、１年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

〇男鬼森林学習において、３年生がみざらづくりをし、地域の大工さんに支援してもらえた。また、地元男鬼の木材を加工して宿場まつりで販売できたことが、男鬼の木材の活用という点で成果としてあげられる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援　（鳥居本小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
鳥居本中学校区支援地域協議会　鳥居本小学校	ボランティア登録数	100　人
関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　　※実施した活動全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、教育活動を四つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

１・２年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、３年生社会科の地域探検、地場産業、３年生以上の総合的な学習の時間の活動、５年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ（通年）など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

【1，６年異学年交流活動】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）１年　生活科「生きもの探検」、６年　総合的な学習「男鬼の歴史・自然」（異学年交流活動）

５月に１・６年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行った。鳥居本学区青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮いただいている。多年度にわたり地域と連携・協働している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。今年度は異学年交流活動として、６年生が地域の方とともに、１年生の活動をサポートした。また、同時に６年生は地域の方から鳥居本の歴史についての話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。

（2）４年　総合　「矢倉川調査隊」

６月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん３名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たにする児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かった。また、この活動は異学年交流活動として、中学３年生が小学４年生の活動をサポートする形で活動に参加した。

【４年矢倉川調査隊】

■　実施に当たっての工夫

〇活動の事前に担任が協力してくださる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■　事業の成果

〇地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分のすむ町への親しみや誇りを深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■　その他

〇鳥居本学園ブログ(http://blog.goo.ne.jp/toriimoto2009)をご覧ください。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の人と一緒に栽培活動をして生きる力を学ぶ　（稲枝中学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２人
稲枝中学校区支援地域協議会　　稲枝中学校	ボランティア登録数	13 人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　郷土学習
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

稲枝中学校支援地域本部事業は、10 年目になり各校園の支援活動は充実深化定着してきている。「稲枝はひとつ」の考えのもと、連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となり地域を挙げて支援を行い、ボランティア活動を展開している。今年は、10 年目の節目ということで、「学校支援 10 周年記念講演会」を開催し、今までの振り返りと今後の活動に向けて、先進地(湖南市)から学校関係者、ボランティアのみなさん、地域コーディネーターが学ぶことができた。今年度は、稲枝中学校区全体で 118 名のボランティアの皆さんが登録され「読み聞かせ」をはじめ、登下校の安全、環境の整備、地域学習支援、野菜や花づくり、学習支援などに、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動を展開している。支援事業を実施していくのに、年２回の協議会と６回の委員会を開催して活動の内容や運営の方法などを協議して運営にあたってきた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

これまで稲枝中学校区地域学校協働本部事業として、上記の 6 項目について、それぞれの校園で支援活動を行ってきた。これらの内、稲枝中学校では「読み聞かせ」をはじめ、登下校の安全、部活指導補助、学習支援を行ってきた。

（１）特別支援学級への学習支援

稲枝中学校には２アールほどのスクール農園がある。昨年までは、部活動として園芸部が農園経営を行ってきたが、部活停止に伴い特別支援学級が経営を引き継いだ。それに伴いボランティア活動も部活補助から学習支援に変わり、活動時間も放課後から授業時間帯となった。生活単元学習の一つとして、野菜の栽培を通して日常生活に必要な知識や良好な人間関係を学ぶことを目的としているが、その学習がスムースに進むように支援活動を行ってきた。支援には、稲枝中学校の地域コーディネーターが当たり、支援学級の担任の先生と日常的に打ち合わせを行い、畑の準備や種まき・苗植え・水やりの方法・収穫などの技術指導を週１回ほど行ってきた。

【小松菜、チンゲン菜、ほうれん草の種まき】

■　実施に当たっての工夫

〇野菜の栽培では、どの作業も適期があり、学習計画を綿密に立てなければならない。また、天候にも左右されるので早めに先生と打ち合わせをした。
〇生徒にどんな野菜を栽培したいかを聞き、可能な限りを要望に沿うように栽培品目を決め、収穫の喜びが味わえるようにきめ細やかな世話をした。
〇収穫した野菜類を、近くの市役所支所やデイサービスセンターでスムースに販売できるように事前にコーディネーターから依頼した。

■　事業の成果

〇支援学級内だけの取組に終わらず、野菜を販売したり焼き芋にしたりカレーパーティーを行ったりして、先生方全体に取り組みの内容を知ってもらうことができた。また、近くの公共施設の方や会議の時に来られた地域の方に販売を通して交流することができた。
〇支援学級の生徒は４人いるが、どの生徒も野菜の栽培活動に楽しさや喜びを感じ栽培活動が好きになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇事業を継続するには、学習支援のボランティアさんが複数おられるとよいので、後継者を探す必要がある。
〇支援学級の先生が変わられることがあるので、毎年ボランティアと先生の打ち合わせが大切。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきました。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができました。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができました。

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動　（稲枝東小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
稲枝中学校区支援地域協議会　稲枝東小学校	ボランティア登録数	25　人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校区にはＪＲ稲枝駅があり、近年、駅周辺の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体を見わたせば、二世帯･三世帯家族があったり､スポーツ大会や祭りなどの地域行事があったりなど､家庭や地域住民とのかかわりが多い校区と言える。そのような校区であるが、地域と深く繋がり合っている子どもは、大人と比較するとそれほど多くない。習い事やスポーツ少年団などで休日を過ごす子どもが多く、地域行事にあまり参加できていないのが一因として考えられる。

そこで、本校では、地域の自然や歴史、そこに住む人々を題材にしながら、子どもと地域とのかかわりあいを深める教育活動を「地域の力」をお借りしながら推進している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校では、毎年、５月はじめに学校支援ボランティアさんとの顔合わせ会を実施している。子どもたちは、一部のボランティアさんとの交流はあっても、何人の方にお世話になっているか、どんな種類のボランティアをしていただいているかは、詳しくわかっていない。そこで、ボランティアさんの活動内容や姿、人柄に触れるとともに、「一年間お世話になります」という挨拶や感謝の気持ちを届ける時間として、会を催している。

会を通して、子どもたちは、「こんなにもいろんなところでお世話になっているのだ」と多方面にわたる支えに気づいたり、「わたしたちのためにがんばってくださっている」と感じたりして、「自分も学校を大切にする一員としてがんばりたい」という愛校心を育てることに繋がっている。

【児童代表の言葉の様子】

■　実施に当たっての工夫

日ごろからお世話になっているが、活動場面のみならず登下校時の見守りなど他の面においても支援や配慮をいただいる。ボランティアの方が一年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちのちょっとした変化や人間関係にまで留意いただくケースもある。日々、コミュニケーションをはかり、学校との間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で大切であると考える。

■　事業の成果

〇ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることもあり、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の間で引き継がれている。
〇従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。
〇年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、指導理解や指導においても役立っている。

■　事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして　（稲枝北小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
稲枝中学校区支援地域協議会　稲枝北小学校	ボランティア登録数	45　人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は、年々児童数が減少の傾向にあり、地域でも、少子高齢化が進み、地域の活性化という点が課題となっているが、この地域には、古くからの歴史ある文化や伝統が残っており、それらを何とか後世に伝えたいと考えておられる方がたくさんおられる。そこで、１年生から６年生まで生活科、総合的な学習の時間、社会科など様々な学習で地域の方に来ていただき、学習を進めている。また、「稲村かるたオリエンテーリング」を始め、運動会やマラソン大会等でも、多くの地域の方に協力していただいている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①お話タイム（隔週木曜朝８：15～８：30　各教室で読み聞かせ）
・お話ボランティア８名の方に来ていただいており、各学期末には、ボランティアの交流会をもち、本の選び方などの交流している。

②環境整備活動
・ひょうたん栽培、米作り、農園づくり等の支援
・まちづくり協議会の方々による校内環境整備・・・池の清掃、運動場などの草刈り、プール清掃、植え込みの刈り込み、芝生の整備など

③各教科学習活動（ゲストティーチャー）
・焼きいも体験（１，２年）・まちたんけん（２年）・米作り、昔の暮らし（３年）・曽根沼干拓について学ぶ（４年）・琵琶湖の昔と今、地域学習（６年）・書き初め、百人一首（５，６年）など多くの学習で支援していただいている。

【ふれあい給食　】

④登下校見守り（スクールガードボランティア）
・下学年、上学年の下校時にともに歩いてくださる。スクールガード講習会にも多数参加してくださり、子どもの安全を守る活動に多くの方が協力してくださる。

⑤「稲村かるたオリエンテーリング」（平成 29 年５月 26 日実施）
・今年で 28 回目の行事である。稲村かるたに詠まれている自然や文化財などを巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心をはぐくむことをねらいとしている。今年は上岡部・下岡部・石寺方面を巡った。ポイントでお話をしてくださる方や、子どもたちと一緒に歩いてくださる方が総勢 20 名ほど来てくださった。

⑥ふれあいタイム
・地域のお年寄りを音楽会、給食に招き、児童の発表の成果を見ていただいたり、一緒に給食を食べたりする。５時間目には、各学年で昔の遊びを一緒にしたり、昔の稲枝の様子について話を聞いたりし、その後の稲村学習につなげた。

■　実施に当たっての工夫
・毎年、ボランティアに来てくださった方を一覧に残し、必要なときすぐに連絡が取れるようにしたり、コーディネーターとも連絡を取り合うようにしたりしている。
・オリエンテーリングでは、次年度回るコースでお話していただく方に、前年度の夏休みに教師が研修として話を聞き、来年度に向けて学ぶとともに、ボランティアの方には、次年度のことをお願いしておく。
・ふれあい給食、招待給食などで感謝の気持ちを手紙で伝えたり、年賀状を送ったりして児童とのつながりをもつようにしている。

■　事業の成果
・行事や集会などでボランティアさんの紹介をしたり、感謝の気持ちを伝えたりすることで、児童も顔を覚えて、地域で会ったときも挨拶したり地域の行事に参加したりするなど、つながりができてきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・ボランティアの高齢化が進み、次の人にうまくバトンタッチできるときと、なかなか次の人が見つかりにくいときがある。
・お話ししていただきたい事柄が十分伝わっていなかったり、進め方などの打ち合わせがうまくできていなかったりするときがあるので、事前の打ち合わせをしっかりしていくようにしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「ALL はえみ」：地域とともに、学びの充実をめざして　（稲枝西小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
稲枝中学校区支援地域協議会　稲枝西小学校	ボランティア登録数	37　人
関係する学校 枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校 みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は、全校児童 106 名の小規模校である。子どもたちは、互いに顔見知りで仲がよいが、限られた中での人間関係には難しさもある。学校の周囲は田園が広がり、公共交通機関や公共施設・商店等は少なく、児童の経験・体験も限られてくる。そこで様々な人との出会いや体験、またそれらを通して多様な生き方を感じ取ることにより、未来を担う人材育成を図りたいと考える。さらに、地域の方々とのふれあいを通して、ふるさと「はえみ」やそこに住む人々を愛する心を育てたいと願い、本活動に取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域と共に花づくり

全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。種まき・苗植えなどは、フラワー委員会の子どもたちが、地域の皆さんと一緒に活動している。花の世話を通して、「がんばる心」「優しい心」「豊かな心」の育成を学校・地域が共に目指している。

大勢の地域の皆さんが来てくださる入学式・卒業式は、一人一鉢栽培のサクラソウで飾る。

また、運動会は夏休みには親子で育てた「一人１プランター」を並べて「花で囲まれた運動会」を行っている。

【花の種まき】

（2）クラブ活動

限られた教職員の中ではあるが、幅広く専門的な活動体験を目指し、4年前から地域の方にも指導に入っていただいている。今年度も、ホッケークラブ、ダンスクラブ、茶道クラブの3つのクラブで継続実施できた。子どもたちは、日常の学習内容・指導者とは異なる中で、意欲的に生き生きと活動している。運動会と 110 周年記念式典・音楽会でその成果を発表し、地域の方に向けての発信もできた。

【ダンスクラブの発表】

■　実施に当たっての工夫

〇支援してくださるボランティアの方やゲストティーチャーに感謝の気持ちをもつことを大切にしたい。そこで、学年当初、対面式を設け、全校児童とボランティアさんの顔合わせをする。また、掲示板に顔写真を掲示すると共に活動内容の掲示をしている。

■　事業の成果

〇子どもたちから支援者に声をかけたり、支援者から子どもたちへ話しかけたり、相互の交流が見られる。そんな中で、子どもを通してのつながりだけではなく、地域住民と学校もつながる中で、新たな支援者が増えて、活動の幅が広がり、多様な活動が実施できた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇年度当初、年間指導計画を基に、支援して頂きたい活動について事前に伝える機会を設ける。見通しをもった支援を計画的に実施できるようにする。

〇多くの方々にお世話になっているが、短く単発の交流が多い。じっくりふれあう機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場を持ちたい。ボランティアの方にも「やりがい」「楽しみ」のある活動となればと願う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　〇　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　〇　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「子どもたちの笑顔のために」　チームわかバンクの大きな一歩　（若葉小学校）

彦根市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
若葉小学校協働本部　若葉小学校 （コミュニティースクール　チームわかバンク）	ボランティア登録数	60 人
関係する学校 若葉小学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した全ての活動に■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■その他［収穫の喜び<畑の活動>　］

■　活動の概要

平成 28 年度から市指定の「コミュニティ・スクール」の指定を受け、大きな一歩を踏み出している。
「チームわかバンク」の皆さんには、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

①　子ども達が本の世界に浸ったり、本に興味をもったりできるような読み聞かせ活動や図書室の本の修理・整頓等環境整備。
②　収穫の喜びを味わったり、命の大切さを学んだりする「畑（野菜の栽培）の活動」
③　生活科（昔の遊び・町探検）・社会科（昔のくらし、戦争体験）・家庭科（裁縫・ミシン・調理の補助）等の学習支援活動。
④　登下校の安全見守り、学級の子どもの学習の見守り活動。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【 収穫感謝祭　カレーだ！】

（１）収穫した野菜を中心にした「収穫感謝祭」

１学期に世話をし収穫した夏野菜を中心にした「収穫感謝祭」を夏休みの８月３日（木）の午前中に行った。教師とわかバンクの皆さんでアイディアを出し合い活動内容を決定した。若葉小学校の中庭を使い、野菜クイズ・若葉の森のキャラクター決定等で遊び、夏野菜カレーをみんなで食した。カレーは学校の教職員とわかバンクの皆さんで吟味して安全面に配慮して作った。食後には畑で収穫した「マクワやトマト、スイカ」を食べた。

中庭で楽しく遊ぶ子ども達を笑顔で指導する教師がいて、その周りに楽しむ保護者さんがおられ、それを見守る地域の皆さんという、若葉小学校が目指している「ふるさと感のある学校」を実現することができた。

（２）学習の入り口、出口に「わかバンクの皆さん」⇒２年生の生活科「町探検」

２年生では、生活科の学習で「町探検」に出かけ、見つけてきたことを詳しく文章に書いて発表するという活動がある。町探検に出かけるとき、班ごとに分かれて見学活動に行くので、多くのわかバンクの皆さんに協力いただいた。各班に３，４人ずつ付き添っていただき、安全面に配慮していただいた。見つけてきた内容を国語科の「こんなもの見つけたよ」の学習で文章にまとめ発表会を行った。その発信の相手を一緒に歩いてくださった「わかバンクの皆さん」とした。一緒に歩いて見つけたことなので、わかバンクの皆さんも興味深く聞いてくださり、子ども達も意気揚々と楽しんで発表することができた。

【 見つけたよ発表会 】

■　実施に当たっての工夫

コミュニティースクール２年目で、組織が安定してきて、みんなで楽しく話し合いが進んだ。学校ですること、地域の皆さんにしていただくことを分担し、互いが協力しあって進めることができた。夏野菜カレーの試食会を行い、量や導線等の段取りを事前に考えたり、クイズやゲーム等を工夫したりと初めての活動を成功させるように努力できた。

事後に振り返りの反省会ももち、無理のないいつまでも続く活動にしたいという思いを共有することができた。

■　事業の成果

○「子ども達の笑顔のために」という思いで学校へ協力くださる地域の方が増え、また組織も安定してきた。
○「学習支援」「読書活動」「環境支援」「見守り隊」の４つの責任者の方がしっかり考え、進めてくださるので、どの活動も価値ある成果を感じることができた。
○ 子ども達の登下校の安全だけでなく、授業を進める上での安全面にも協力いただいた。学校を支える大きな力となった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校支援のメンバーで一定の方に大きな負担がかかっている。誰でもできる活動ではないので責任を感じてくださる方に偏りがでないようにもう一度話し合いを深めていきたい。年配の方も多く、活動を継続していくには問題である。在籍児童の保護者の積極的な参加が少なく、何か事を進めるにあたっても協力体制が薄いので、今後保護者層にも啓発していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域の子どもの実態や課題を共有し境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

近江八幡市における学校支援地域本部の取組

■目指す姿

市立校園所に学校支援地域コーディネーターを配属し、地域住民がボランティアとして教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置して、地域全体で教育を支援する体制づくりを確立し、次の３点を柱に事業を展開する。

①学校・家庭・地域の教育力の向上

②地域の人が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり

③教員が子どもと向き合う時間の拡充

■本年度の活動

４月 25 日（火）事務局会議（学校担当者対象）〔市役所〕

４月 27 日（木）事務局会議（コーディネーター対象）及び委嘱式、情報交換会〔市役所〕

６月　７日（水）コーディネーター・ボランティア研修会（読み聞かせ研修会）〔安土図書館〕
「読書のすばらしさ＝子どもの心をもっとゆたかにする本の魅力とは＝」

７月 25 日（火）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔桐原小学校〕

11 月 13 日（月）コーディネーター研修会（消費者教育研修会）〔市役所〕
「消費者教育の考え方･進め方」

１月～２月　　コーディネーター情報交換会（就学前対象）
コーディネーター情報交換会（小・中学校対象）

２月　　成果発表会及び来年度方針説明会

■本年度の成果

市内の全ての公立の保育所・こども園・幼稚園・小学校・中学校に学校支援地域本部を設置することができた。また、本事業を継続して進めてきた結果､地域の中での理解者が増え､コーディネーター間の連携や情報交換によってボランティアとして協力してくださる方々の活動の範囲が広がりを見せている。

夏休みに開催している「学校支援メニューフェア in 近江八幡」は、出展いただいた様々な団体や企業の模擬授業や展示ブースが具体的でイメージしやすいことから､出前授業として活用されている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

支援から更なる地域との連携・協働を進め、多様で継続的な活動が行える「地域学校協働本部」へ移行できるよう、学校や地域、コーディネーターの意識を変えていくことが必要である。

学校支援メニューフェアについては、情報提供及び企業・各種団体との交流の場と捉え、出展者と参加者が直接意思疎通をすることで連携・協働を促し、子ども達に価値ある経験が提供できるよう努めていきたい。

■その他

平成 23 年度から学校･園にゲスト講師を派遣できる「近江八幡人生伝承塾」を組織している。これは、様々な技術や知恵をお持ちの方を講師リストとして登録したもので､各校園で幅広く活用されている。

【メニューフェアでの模擬授業】

【コーディネーター研修会】

地域の宝を学校に！　（八幡小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八幡小学校支援地域本部	ボランティア登録数	97　人
関係する学校 八幡小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

「地域の宝を学校に！」をテーマに本事業を展開して６年目になる。コーディネーターをつなぎ役として、豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習の創造を実現するため、ボランティアの方々の協力を得て実践を深めている。その中で、学校と地域、家庭の連携が一層強まり、地域ぐるみで子どもを育てる風土をつくることを目指している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が９名あり、６年目は 97 名となった。活動は大きく分けて次の６分野にわたっている。

①環境整備･･･花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、テント設営・撤収
②絵本の読み語り･･･１、２年は毎週、３年は隔週、４年は１ヶ月に１回、朝 10 分間
③学習支援･･･水泳補助、合唱伴奏、ミシン補助、ソーイング補助、ヨモギ団子作り、ピザ作り補助、さつまいも調理補助、おでん作り補助、八幡堀学習、デイキャンプ指導補助、組体操補助、九九聞き取り、英語ボランティアなど
④児童引率補助･･･校区たんけん、町巡り、八幡山、校外学習引率など
⑤クラブ活動支援･･･家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
⑥栽培活動支援･･･さつまいも栽培、夏野菜作り、ヘチマの棚作り、大根作り、北之庄菜作り等

【日本伝統文化クラブ】

■　実施に当たっての工夫

一昨年度から、１階ホール横にボランティアルームを設置し、ボランティアの方と打ち合わせをしたり、活動前後にボランティアの方々に休憩をしたりしていただいている。これにより、ボランティア活動を通して地域の方々自身がお互いにつながりを深めたり、ボランティアの方同士で情報交換・調整をしたりしていただいている。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介したり、地域の方にはコミュニティーセンターの掲示板を使って活動の様子を発信したりした。

ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの輪が広がったりすることを目指した。自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。

年度末にボランティア交流会をもち、６年生を送る会を参観するとともに１年を振り返って成果や課題を確認し合っている。

【よもぎ団子づくり（２年）】

■　事業の成果

・ボランティアの方々に学習支援をしていただく中で、教員が豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習を創り出すことが比較的容易になった。
・子どもたちは、地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりする中で様々な人とのふれあいやつながりができ、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まった。
・ボランティアの方々は支援してくださる中で、子どもとかかわる楽しさを味わったり、得意なことが発揮できた達成感を感じたりすることで、充実した時間を持つことができた。
・コーディネーターがきめ細かく動いてくださることで、教員が打ち合わせにかける時間を短縮できた。また、九九の聞き取り、丁稚羊羹づくりなど学習支援活動もますますひろがりが出てきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・新たに取り組む学習については、該当学年の担任がそのねらいを明確にした上で、ボランティアの方々を迎えることになるが、数年間継続している学習の場合、担任が十分ねらいを把握できずにコーディネーターやボランティアの方に頼ってしまうことがあり、体験後の学習の深まりが見られない場面もうかがえる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに育てる　「ふるさとに誇りをもち　瞳輝く島の子」　（島小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
島小学校支援地域本部	ボランティア登録数	312 人
関係する学校 島小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、教育目標「ふるさとに誇りをもち、瞳輝く島の子」のもと、地域コーディネーターを中心に、コミュニティセンターとも連携を図りながら本事業を展開してきた。子どもたちの学びをより豊かなものにするためのふるさと学習や授業への支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な登下校のための見守り活動の３つの柱で実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）ふるさと学習など学習活動への支援

〇ふるさと学習　環境学習　（まち探検　西ノ湖学習　農業体験等）

・３年「ヨシ学習」

（ヨシちまきづくり　ヨシとくらし　ヨシ原の保全　ヨシ刈り　ヨシ工作等）

・４年「菜の花エコプロジェクト」

（菜種栽培　菜種の搾油体験　エコクッキング　エネルギー資源の循環等）

・４年松明作り　地域の伝統の技を学ぶ　ヨシと菜種で松明を作成

〇授業支援　（昔遊び　昔体験　ミシンボランティア　雅楽体験　米づくり等）

〇行事支援　（島アドベンチャー【全校登山】　持久走大会等）

（２）環境整備

・芝生グランド整備

・学校周辺　スクール農園整備

（３）見守り活動

・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」

・地域の方による登校、下校時の見守り「見守り隊」

・地域の方、保護者による朝の見守り　「行ってらっしゃい運動」

【　３年　ヨシちまき作り　】

【　芝生グランド整備　】

■　実施に当たっての工夫

〇ふるさと学習を見直し各学年の年間計画を作成することで、活動の精選と充実を図ることができた。

〇地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ブログなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるようにした。

■　事業の成果

〇毎年、活動を積み重ねていくことで、ボランティアの人数も増え、地域の方が来校される機会が増えた。

〇地域の自然や、伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いでこられた方の思いや生き方にふれることができた。

〇地域と協働して子どもを育成するという視点から、協議会では学校や児童の課題についても伝え地域の支援をお願いしている。地域の方からも、地域で子どもを育てるという視点から、学校への支援をさらに充実していこうという意見をいただいている。

〇夏祭や文化祭等の地域の行事、コミセン主催の子ども体験活動にも教員の参加を呼びかけている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇コーディネーターや地域ボランティアは経験が豊富であり、十分な支援をしていただけるが、担任が授業を組み立てて取り組まなければ活動ありきになり学習が深まらない。教員も地域に愛着がもてるよう教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

沖島の自然や文化、人材から学び、豊かでたくましい子どもの育成をめざして　（沖島小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
沖島小学校支援地域本部	ボランティア登録数	約 10　人
関係する学校 沖島小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は琵琶湖に浮かぶ離島にある。目の前には琵琶湖がひろがり、学校の裏には通称ケンケン山がそびえている。この豊かな自然環境を活かした体験的な学習活動を通して、郷土愛や学校愛を育み、確かな自尊感情を持つ児童の育成をめざしている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）沖島と琵琶湖から学ぶ

【フナ寿司作り体験】

地元の漁師さんがその日の朝に捕ったニゴロブナを持って来てくださり、フナ寿司作りの方法を指導してくださった。児童は命の大切さや沖島の食文化の奥深さを感じながら作業をした。

【漁業体験】

実際に、漁船に同乗させていただき、エビたつべ漁を体験させていただいた。捕ったエビは、調理員さんに調理していただき、当日の給食で全校で味わった。

【消防艇の見学】

地元の消防団の方々から、消防艇の役割などについて説明を受けるとともに、乗船体験をさせていただいた。

【エビたつべ漁の体験】

（2）地域の人材から学ぶ

【沖島太鼓の歴史を学ぶ】

本校では、全校児童で沖島太鼓の演奏に取り組んでいる。沖島太鼓が創設された時代に沖島小学校に勤務していた先生を招き、その歴史などについて教えていただいた。当時の児童や先生方の思いを聞かせていただくことで、演奏にむかう児童の意識が変わり、より熱心に取り組むようになった。

【プール稲の栽培】

隣接のデイサービスセンター「老喜の里」にあるプールを利用して、高学年児童が稲の栽培を行っている。田植えや稲の世話の方法は、地元の方に教えていただきながら行った。稲刈りでは、刈った稲の束ね方をデイサービスセンターに通うお年寄りに教えていただきながら行った。

【刈った稲の束ね方を学ぶ】

【エプロンの飾り】

家庭科の学習でエプロン作りを行ったときには、地元出身で服飾デザイナーの方から刺しゅうの仕方を教えていただいた。

■　実施に当たっての工夫

○様々な体験活動を計画するときには、体験することそのものではなく、その体験を通して、地元の方々の願いや、地域のよさを感じられるよう、講師の先生方にお話をしていただくように依頼した。

■　事業の成果

○本校の児童 19 名のうち 17 名は島外から通う児童なので、沖島の歴史や文化について知らないことも多い。地元住民の方々に指導を受けながら様々な体験活動をすることで、沖島のすばらしさを知るとともに、地域住民とのふれあいの機会が増えることにつながった。児童が地域とのかかわりを持つことで、地域の方々から手厚い支援を受けることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○沖島の地域住民の高齢化が進むにつれ、沖島の文化、産業に携わる方も高齢化している。若い世代の方々とも連携を取りながら、講師の発掘を進める必要がある。また、沖島町離島振興推進協議会とも連携し、児童の活動を沖島の活性化につなげたい。

■　その他

○児童の活動の様子は、本校のホームページでも紹介している。（http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~okisyo/）

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ ○ ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを　（岡山小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
岡山小学校支援地域本部	ボランティア登録数	約 180 人
関係する学校 岡山小学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■「郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

岡山小学校区は、本事業開始以前より地域が学校に対して大変熱心かつ協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。このような地域の特性から、ボランティアの登録制はとらず、学校が要望する人材等を地域コーディネーターに依頼し、環境整備や学習支援など学校と地域が協働したさまざまな学習を展開している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇５年生は、営農組合や農業委員さん、ＪＡの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動をした。また、２年生は、畑や個人の鉢で野菜づくりに取り組んでいる。地域の「野菜づくり名人」に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫した。２年生のまち探検では、朝市やお店、畑での仕事の様子を見学し、地域の方にお話を聞くことができた。

〇４年生は、社会科「地域の発展に尽くした人々」の学習で、地域へのフィールドワークを行った。「干拓」が行われた地域で、先人の偉業について語り継いでおられる方から説明を聞くことで、より深い学びとなった。自分の生活を振り返るとともに、将来に向けて今の自分にできることを考える体験型の学習となった。

〇２、３年生の校区探検、４年生の元水茎フィールドワーク等の移動の際、交通量が多い場所や交差点などに立ち、安全確保に協力していただいている。３学期に、４年生が「琵琶湖一周鉄道の旅」を実施する。班ごとに湖西・湖北の地域から調べたい場所や見学場所等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがして班別に活動するため、地域のボランティアさんの協力を得て実施している。

【２年　まち探険ー朝市の見学ー　】

【４年　元水茎の干拓　現地で学習】

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターは、主に地域のボランティアさんとの調整を行い、学校は、外部講師の依頼をしている。

〇図書ボランティアさんとは、年度当初に打合せ会議や学期ごとに計画の作成をしている。

〇学校だよりを学区全戸に配布し、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

■　事業の成果

〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感をもつことができた。また、ボランティアさんに礼状を渡したり、収穫祭などに招待したりして、感謝の気持ちを表す取組などを通して、社会性や感謝の心を育むことができた。

〇教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動を推進している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇年度当初に年間計画を立てているが、実施する時期が重なるため、複数学年が同じ日に実施することがあった。これは、数年来の課題である。取り組みやすい時期や曜日があるので、全校的な活動計画を見直し、細かく日程調整を行う必要がある。

〇地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を学校だよりやホームページ等で広く発信するとともに、地域の情報収集に努める必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

子どもは金田の宝物！伝承・金田のいいところ　地域と学校を結ぶ縁　（金田小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
金田小学校支援地域本部	ボランティア登録数	70　人
関係する学校 金田小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（読み聞かせ）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校の事業は５年目を迎え、どの学年がいつ頃、体験活動をするかということや、地域のどなたに依頼してどのような内容で実施するかなどが定着してきつつある。「ふるさと金田」に愛着をもてるように、地域に古くから伝わる伝統的な祭礼や技術・技能から、現在の地域活動や職業について、現地に足を運んだり講話を聞いたりして学ぶ機会としている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）１年「昔遊び・お正月遊び」「音楽鑑賞」
（２）２年「おでんを作ろう」
（３）３年「金田学区のいいところ」「昔のくらし」「畑ではたらく人々」
（４）４年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」
　　「紙すき体験～はがきづくり」「福祉体験」
（５）５年「田植え・稲刈り」「環境学習」「手縫い補助」
（６）６年「ナップザックづくり」「平和学習」

【３年畑で働く人々（社会科）長田町のいちごハウス】

■　実施に当たっての工夫

〇講話だけでなく本物を見る、本物に触れる、児童自身が体験できる場づくりに努める。
〇担当学年の主任と地域コーディネーターとの連絡や相談等の時間づくりに努める。
〇地域コーディネーターの人脈を最大限に生かして、新たな講師やボランティアの募集に努める。

■　事業の成果

〇その道のプロとして、実際に仕事をされている講師ボランティアの方々の指導を受けることにより、児童は、通常授業では決してできない体験や疑似体験をすることができる。
〇金田学区にお住まいの講師ボランティアにきていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。
〇講師ボランティアの方々の講話の内容が「子どもたち向け」にわかりやすく工夫をされ、そのおかげで学習内容はとても充実したものになってきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇大規模校であるがゆえ、学年単位での事業になったとしても、講師やボランティアには多数の方をお願いする必要があり、その人数を確保し、日程調整することが難しい。どの学年も 150 名を超えるので、より近いところでの講話や、きめ細やかな体験等をしようと思うと、最低２～３回、クラス単位でお願いしようとすると５回、同じ内容でお話していただくことになり、講師ボランティアの方々のご負担が大きくなってしまう。
〇講師やボランティアの方々の高齢化がすすんでおり、昨年に続いてお願いしようとしたときに、体調不良を理由に断られることがある。同様の内容での体験ができるよう、地域コーディネーターとも協力しながら人材確保に奔走することもある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

子どもたちにとって居心地の良い学校環境作りのために　（桐原小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
桐原小学校支援地域本部	ボランティア登録数	117　人
関係する学校 桐原小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

○　登下校時・昼休み・掃除時間を中心とし「見守り活動」の継続
○　桐原っ子メディアセンター、桐原っ子ふれあい街道等を活用した「子どもの居場所づくり活動」・子どもたちにとって「居心地のよい空間つくり活動」
○　学習に関する技術支援や講話、資料提供、図書ボランティア

【ミシンボランティア】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・　掃除時間や昼休みなどに子どもたちに声をかけながら校舎を巡回したり気軽に話したりして、子どもたちの居場所作りに関わってくださっていること。

■　実施に当たっての工夫

○　「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどうするのか」などをボード（ボランティアさんの活動予定）に示すことで全体に周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。
○　地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに学校地域支援の様子の紹介や支援募集を行った。
○　学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

■　事業の成果

○　昼休み・掃除時間の見守り活動
　・毎日昼休み、居場所作りとして地域ボランティアの皆様に、学校内や校庭を見守っていただきながら子どもたちへの声かけ活動を継続・展開していただいている。また、掃除の時間にも校舎内を巡回し、声かけをしていただいたりしている。見ていただいた子どもたちの様子を職員室にたすきを返却するとともに職員に伝えてくださっている。
○　登下校時の見守り活動と危険個所の点検調査
　・子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様に、毎日活動を展開していただいている。また、新通学路の交通量の変化や危険個所などについて学校に連絡してくださっている。
○　校外学習での見守り・支援活動
　・６年生の安土・奈良への歴史学習、４年生の日野川フィールドワーク、３年生のまち探検、２年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。
○　桐原っ子メディアセンター、学習テラスを活用した「子どもの居場所づくり」「居心地のよい空間づくり」活動
　・毎朝、地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの相談相手・遊び相手として校舎のいろいろな場所を有効に活用しながら、子どもたちにとって居心地のよい空間づくりに努めていただいている。毎朝、メディアセンターを開館してくださっている。
　・図書館教育主任(司書教諭)と連携しながら、図書ボランティアの皆さんが、桐原っ子メディアセンターの環境を整えたり、修理や廃棄手続きの支援をしていただいたりしている。また、おはなし会を昼休みに始める計画も進めていただいている。学習テラスでは、毎月１~２回昼休みに、地域の方が自作の木工パズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。
○　家庭科やクラブ活動など様々な学習活動に関わった支援活動
　・５年生では、家庭科の裁縫やミシンを使う活動にミシンボランティアとして支援していただいている。また、コンピュータクラブでは、毎回技術指導のため、その操作に堪能な方に指導の補助をしていただいている。他にも子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○　校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、また、学校としても定着してきているがボランティアさんの高齢化で無理をされている部分もある。今後、この活動が継続していくためにも、コミュニティセンターや地域との連携がより深まるように、組織面を考える必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域人材の活用・価値ある体験学習・ボランティアさんは，できるときにできることを　（桐原東小学校）

近江八幡市町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
桐原東小学校支援地域本部	ボランティア登録数	129 人
関係する学校 桐原東小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域人材の活用を主に事業を展開してきた。本校を支える地域は、新しくできた住宅地が中心であり、学校も分離して開校 34 周年と比較的歴史は短い。本事業を始め６年目を迎え学校を支えていただく活動が活発化しつつある。地域には、豊富な知識や技術・経験を持った方が多くおられ、その力を学校に生かしたいと考えてくださる方が、コーディネーターさんを中心としてうまく機能してきている。今年度は、校外学習で地域や地域外へ徒歩や自転車ででかける際に、一緒に引率に来ていただいたり途中の交差点で立哨をしていただいたり、これまでにお願いしていなかったことにもその輪が広がってきた。また、地域学習や学校の環境整備などこれまでからの活動も継続して行われている。「できるときにできることを」を合い言葉に無理なく支援をいただく形が定着してきている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校支援グループの活動

地域の方が学校を支えていただく活動の一つとして、各種ボランティアさんの代表者がメンバーとなって月１回の代表者会議を開催している。「学校支援Ｇ」と名付け、読書・スクールガード・地域学習・自治会長・学校評議員等様々な代表者とコーディネーターさん、校長・教頭で構成されている。学校支援についての進捗状況や今後の課題、学校がお願いしたいことを中心に会議が持たれている。

（２）白鳥川学習

地域には、人々に愛されている白鳥川がある。近年その景観が乱れつつあることを懸念して、「白鳥川の景観を良くする会（略称　景観隊）」が立ち上がっている。総勢 100 名程度の方が加入され、河川周辺の清掃はもとより、河川の水質や動植物の様子を学習できるような体験学習教室を開いておられる。本校では、毎年５年生が総合的な学習の時間に「白鳥川の学習」を進めることになっていて、事前の学習から現地学習、事後の学習発表会まで「景観隊」の方々とともに学習していくことが定着している。

■　実施に当たっての工夫

〇どんな活動も必ずコーディネーターさんを通して依頼することで、地域と学校がうまくつながることができている。また、依頼後は担当の教員とボランティアの方が短時間でも打合せを行うようにしている。

〇「できるときにできることを」の合い言葉のもと進めていて、ボランティアさんに気軽に参加していただけるよう、お願いする側もされる側も無理なく気持ちよく参加し学習が進むようにしている。

■　事業の成果

〇地域の自然や人材に触れることで郷土の良さを実感できる学習ができた。
〇児童は地域の方々と触れ合い学習することを大変楽しみにしており、地域でも自然とあいさつができたり、地域の方に運動会や音楽会等の行事に参加していただいたりと学校生活を盛り上げていただくことにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇コーディネーターさんの活動が無理なくできるよう、時間数等の工夫が必要である。
〇地域の方々とつながりが深まりつつあり、この関係をさらに発展させていきたい。
〇ボランティアさんの高齢化が進み、次の世代の方々に広げていく人材確保が課題である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域でともに育てる馬淵っ子　（馬淵小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
馬淵小学校支援地域本部	ボランティア登録数	60　人
関係する学校 近江八幡市立馬淵小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、「まごころのある子（徳）、深く考える子（知）、力いっぱいがんばる子（体）」をめざす子ども像として、地域と連携した信頼される学校づくりに努めてきた。学校支援地域本部事業を活性化させ、学校と家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりに取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）年間を通した活動

図書ボランティア	月２回、昼休みに図書室で絵本の読み聞かせと簡単な楽しい工作を本の中から選んで教えたもらった。ペープサート、図書室の本のラベル貼り作業もしていただいた。
クラブ活動支援	昔遊びクラブ・囲碁クラブ・家庭科クラブで活動支援をしてもらった。年間 12 回実施。

（2）馬っ子（総合的な学習の時間）を中心とした地域との連携・学習支援

農業に関する活動	◇田植えから稲刈り、調理までの米作り体験（２・５年）　◇学級園での栽培活動（２年） ◇ヘチマの栽培（４年）
歴史･伝統文化に関する活動	◇茶道体験（６年）　◇しめ縄作り（５年）
人権学習	◇障がい者理解の学習（３年）
毎日の学習支援	◇家庭科支援（ミシン・調理実習）　◇プール支援　◇書道支援

（3）企業・団体・機関と連携した活動でも、ボランティアの協力をお願いしている。

平和学習（６年）	戦時中の様子と馬淵学区に学童疎開した時の体験の話をしてもらった。
白鳥川の学習（４年）	通学路の危険箇所点検・ハザードマップ作りに参加してもらい、過去の地域の水害について体験者に話していただいた。

■　実施に当たっての工夫

○　授業（活動）の具体的な内容は、担任が支援者や地域コーディネーターと事前打合せを持って決めている。支援者や地域ボランティアへの最初の依頼は地域コーディネーターが行い、依頼文や謝金，授業前後の支援者への対応は学校の担当者がそれぞれ行っている。
○　ボランティア室を校舎内に確保して、打合せや休憩に使ってもらっている。
○　ボランティアの活動日と内容を職員室内の掲示板で知らせて、先生方に認識してもらっている。

【田植え】

■　事業の成果

○　校内でも地域でも周知がされているので、スムーズに取り組めている。
○　茶道体験や書道支援、経験豊かな方による栽培活動支援など、専門的な内容での支援が充実してきた。
○　学習支援の場では、子どもたちはわからないことをすぐに聞くことができ、きめ細やかに対応することができた。

【書道支援】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○　ボランティアや教師との打合せを限りあるコーディネーターの勤務時間内にうまく行う必要がある。
○　小規模校のため、各学年の活動の日程を調整しないと、支援者不足になり対応できない。また、担任間で前年度の引き継ぎをきちんと行わなければいけない。

【茶道体験】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に　（北里小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
北里小学校支援地域本部	ボランティア登録数	400 人
関係する学校 北里小学校	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

北里商業協同組合の協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に北里商店街の買い物補助券（ボランティアポイント）をお渡ししている。支援をしていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取組としてかなり定着してきた。

スクールガード活動としての子どもたちの登下校の見守り活動、毎週木曜日の朝の読み語り、学校図書館の環境整備、地域学習での故郷の歴史や史跡の説明、お店の見学、家庭科の裁縫支援、福祉体験活動での講師、調理実習での講師、花壇整備、卒業生による陸上教室、音楽会でのゲスト演奏など、さまざまな分野にわたり、地域のたくさんの方に支援していただいている。

【卒業生の陸上選手による陸上教室】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り、稲刈りという米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、11 月 18 日の祖父母参観日には、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など５年生児童が総合的な学習の時間に調べた内容をまとめて発表した。また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、５年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。

【５年生メダカシンポジウム】

■学習支援の活動内容

〇活動の概要と目的

毎週木曜日の朝学習の時間に、地域の方に各クラスで読み語りをしていただくことによって、子どもたちの豊かな心を養い、本好きの子どもを増やすことを目的に実施。

〇支援員数：約 20 名
〇支援員の属性：読み語りグループ『ほんわかさん』をはじめとする地域のさまざまな方
〇学習形態：読み語り
〇教室のもち方と実施日数：毎週木曜日の約 10 分間
〇子どもの平均参加人数：各クラス全員

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターが地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■　事業の成果

〇事業開始から９年。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域コーディネーターと一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業を実施できている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇平成 21 年度の本事業を開始してから、同じ地域コーディネーターが地域と学校を繋ぐ役割を担っているが、コーディネーターの後継者の育成や選任に困難さがある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校のニーズに合わせ、ボランティアさんに協力してもらう　（武佐小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
武佐小学校支援地域本部	ボランティア登録数	75 人
関係する学校 武佐小学校	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

〇地域の方にボランティアをお願いし、学校の授業や行事で必要な時に来ていただく。
〇ボランティアさんの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇プールやクラブ活動、家庭科等、少数の教員だけでは一人ひとりに十分に支援できない授業に定期的に参加してもらう。
〇体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
〇地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらう。
〇警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

■　実施に当たっての工夫

〇学年や学級の実態に合った支援になるように、教員の思いをじっくりと聞き取る。
〇ボランティアさんの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせたりするようにしている。
〇ボランティアさん同士もお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
〇ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアさんに送っている。

■　事業の成果

〇地域のボランティアの方に、学校に来て児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
〇地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
〇授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていただけるので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
〇教室内の教科書を中心とした授業だけにならずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇企業やボランティアさんのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただき、それぞれのボランティアさんが良い特徴を持っておられるにもかかわらず、うまく活用しきれていないことがある。
〇コーディネーターさんの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

【１年　だんごパーティー】

【２年５年稲刈り】

学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動　（安土小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
安土小学校支援地域本部	ボランティア登録数	135 人
関係する学校 安土小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図り、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。地域ボランティアの協力を得て、地域のよさを学ぶふるさと学習や体験学習に熱心に取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）全校児童対象の活動

学年	項　目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	・読書ボランティア「にょきにょきさん」に、毎週木曜日、朝読書の時間に、各学級で読み聞かせをしてもらった。毎学期１，２回、開催してくださるお話会を楽しみにしている。
	見守り あいさつ運動	・日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに，６年生の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動を実施した。

（２）学年の活動と連携・協働した活動

学年	項　目	具体的な取組内容
３年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫、ちまきや野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
４年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
５年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
６年生	茶道体験	・地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。

■　実施に当たっての工夫

〇教職員が地域コーディネーターと日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディネーターから、多くの有益な情報を得ている。
〇あいさつ運動には、大人だけでなく、６年生を中心に児童会の子どもたちが参加して、朝のあいさつが気持ちよくできるように活動を盛り上げている。
〇読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域コーディネーターが、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。

【３年生　ふるさと体験学習（信長ねぎの収穫）】

■　事業の成果

〇地域コーディネーターが教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。
〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。
〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。
〇コミュニティセンターやＰＴＡとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の方々に支えられ「ふるさと学習」を深める老蘇っ子　（老蘇小学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
老蘇小学校支援地域本部	ボランティア登録数	20　人
関係する学校 老蘇小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

子どもたちは、「豊かな自然」とその自然を活かした農業はじめ様々な「ものづくり」について地域の様々な方々から学び、地域への愛着や誇りを深めてきた。また、「歴史や伝統文化」、「昔の暮らし」に関しても地域の方々の協力で学習を広げるとともに、読書活動の推進を図るため、年間を通しての「読み聞かせ活動」を継続してきた。

■　地域と学校が連携･協働した活動（特徴的な活動）

（1）「豊かな自然」から学ぶ
・ビオトープでの学習活動（全学年）
・たけのこ掘り（２年）　・西の湖学習、よし灯りづくり（４年）
・ニゴロブナ稚魚の放流、水生生物調べ、びわ湖揚水機場見学（５年）

（2）農業やものづくりを学ぶ
・野菜栽培、蜂蜜採取（２年）・養豚場見学、れんこん栽培、（３年）
・自動車関連工場の見学（５年）
・米づくり体験、米作り発表会＆収穫感謝際（５年）

（3）歴史・伝統文化を学ぶ
・むかしのあそび体験（１年）　・むかしのくらし聞き取り（３年）
・ゴミの学習、老蘇消防団の話（４年）　・シーサー作り（５年）
・安土考古博物館見学、お茶碗製作、お茶会（６年）
・戦争体験の聞き取り（６年）

（4）学びをささえていただく
・くすくすさん読み聞かせ（全校）　・家庭科ボランティア（５・６年）
・介助犬の話（全校）　・マラソン大会立哨（全校）

【山梶製作所見学（５年生）】

【茶道体験（６年生）】

■　実施に当たっての工夫

・数年にわたり継続している活動について、学年担任がそのねらいや目的を明確にもつことと再確認に努めた。
・学年の発達段階に応じた学習素材を取り上げ、他教科、領域との関連した学習ができるよう構成した。
・活動内容や子どもの思いを「地域支援だより」や「校長通信」で地域に発信し、感謝の意を伝えるようにした。

■　事業の成果

・地域の「ものづくり」について体験を通しながら学ぶことを通して、それに携わる方々の考え方や生き方に触れることができ、自分を見つめ直したり、地域の将来を展望したりすることができた。
・「豊かな自然」や「歴史・伝統文化」について、全ての学年で何度も地域の方々から話を聞くことで、普段から地域の出来事や様子に興味を持つ子どもが増えてきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・子どもの意識や学習の流れを大切にしながら体験学習を組み入れていかないと学びが深まらない。指導者が単元全体の構想を詳細に練っておく必要がある。
・どれも値打ちのある体験や学習であるが、豊富過ぎると子どもが主体的に動いたり、考えたりする時間の確保ができず、体験のみに陥ってしまう場合がある。めあてや目標を明確にして、学習活動を進めることが重要である。
・担任は、コーディネーターとともに活動を組み立てていくが、担任が自ら教材開発、人材発掘していく姿勢をもち、教員自らが地域に愛着をもつよう心がけなければならない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「地域の方は学校へ、八中生は地域へ」の相互関係を大切に！　（八幡中学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八幡中学校支援地域本部	ボランティア登録数	100　人
関係する学校 八幡中学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域の人材を学校支援ボランティアとして活躍していただくことで、地域全体で学校を支援するシステムを地域・家庭・学校が連携して構築している。主に授業などへの支援活動と「人生伝承塾」を実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）授業支援ボランティア
　１年被服実習支援（７月）　全学年水泳実習支援（６月～７月）
　全学年書道（毛筆）実習支援（10 月）全学年剣道実習支援（10 月～11 月）

（２）総合学習支援ボランティア
　１年八幡フィールドワーク支援（６月）
　２年職場体験学習交通安全指導支援（11 月）
　特別支援学級茶道体験支援（２月）

（３）学習支援ボランティア
　全学年夏・冬休み補充教室・質問教室学習支援（７月～８月・12 月～１月）

【剣道実習】

（４）人生伝承塾・・１年生

目的を近江八幡に根づく伝統工芸や物産、現代社会を形成する新技術など、近江八幡での「ものづくり」の見聞、体験を深め、「ものづくり」の楽しさ、難しさ、人間が生み出した技術のすばらしさを知る。加えて、生徒が自分の将来や身近な職業ついて考える機会とし、以下の場所で 12 月上旬の午後に実施する。

伝統工芸・・・数珠玉加工（株式会社カワサキ）、藁細工（西川畳店）、瓦細工（瓦ミュージアム）、
陶芸（水茎焼き陶芸の里）、座布団製作（愛善ふとん店）、看板製作（美十）、皮革製品（コトワ）
皮革製品（子どもセンター）、漆若狭塗り（五十子仏壇）、パン作り（お菓司にしかわ）、
網修繕（川田商店）、巻きずし（ひょうたんや）、竹細工（竹松商店）、葦細工（西六商店）
現代の新技術・・工業製品（八幡工業高等学校）

■　実施に当たっての工夫

〇各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募っている。
〇職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流が持てるようにしている。
〇実技教科の実習では授業中の活動なのでボランティアの方が何を、どこまで生徒に接していけばよいのか等話し合う事前の打合わせを重視している。

■　事業の成果

〇実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい場面が多々ある。各授業に平均３～４名の支援ボランティアの方が来てくださり、生徒にとって有益であった。
〇例年同じ活動を積み重ねている中で、新たなボランティアの方も来てくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方の専用の部屋を確保できず、休憩時間など車の中で休んでもらっていることもある。また、猛暑の中での水泳実習では、くれぐれも無理のないようお伝えしているが、ボランティアの方の熱中症等の心配もしている。
〇例年の積み重ねもあり、年々スムーズに支援活動が進むようになってきた。生徒の実際の様子を地域に発信していってもらう役割も今後期待していきたい。

■　その他

めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】 ⟺ 【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人５回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

開巻有益　～心ときめく学校図書館をめざして～　（八幡東中学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八幡東中学校支援地域本部	ボランティア登録数	10　人
関係する学校 八幡東中学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・学校司書（週２回）と図書ボランティア（月１回）との協同により、読書への関心を高める。
・学校図書館運用会議（月１回）により、学校司書、地域コーディネーター、教職員が図書館の有効活用のための連携を図る。
・授業での図書利用を推進する。
・生徒会図書委員会の活性化を図る。
・近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。

【　生徒昇降口の図書案内　】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校司書、地域コーディネーターとの連携した活動。
（２）行事や学習内容に合わせた特設コーナーの設置。
（３）季節や時期に応じた図書館内、図書館前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫。
（４）ＰＴＡによる学級文庫の蔵書充実のための支援・協力。
（５）図書ボランティアによる書架整理、学級文庫書架の製作。

■　実施に当たっての工夫

〇学校行事や授業での学習内容を把握し、それに応じた特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行う。
〇生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように配慮する。
〇授業の情報や行事の内容など、教職員との連携をとるために、学校司書と地域コーディネーターとの協議や連携を図るための学校図書館運営会議を定期的に開催する。

■　事業の成果

〇図書館の雰囲気の向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（ＰＯＰ）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。
〇ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。
〇昨年度から図書館の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書館利用者が増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。

【ボランティアによる学級文庫書架製作】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、昨年度から本事業として地域コーディネーターを配置されたことと、市から週２回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになったが、まだ定着とまでは至っていないため、事業の継続を望む。

■　その他

※開巻有益…読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに子どもを育てる学校支援地域本部事業　（八幡西中学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八幡西中学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 八幡西中学校	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は「美しく生きる」を校訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいる。様々な課題を抱えながらも地域の協力を得て、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進している。近年は、本事業を中心に、「教師も地域へ、ＰＴＡ・地域との連携」を合い言葉に、地域とともに生徒の育成に取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校を支援していただく一方的な取組だけでなく、２年生技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算をいただき、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コュニティセンターや子どもセンターなどの施設へお裾分けを行っている。

【授業で栽培した花を地域へ】

（２）本校は、地域行事への生徒の参加を推進しているが、特に学区の運動会の日は部活動を中止して参加を呼びかけている。部活単位で運動会の役員も担っている。また、吹奏楽部の発表の場として、または、生徒会のボランティア活動の場として地域の文化祭等の行事にも参加している。

（３）毎年、卒業式で卒業生を送る花道として活用しているプランターへの「花の苗植え」を生徒会執行部の取組として行っているが、昨年度から地域のボランティアの力を借りて共同作業として実施している。

（４）１年生の総合的な学習の時間に行っている郷土学習において、聞き取り学習や体験活動の講師として、また人権学習ではそれぞれの学年で、自らの体験や活動を語っていただく講師としてボランティアにお世話になった。
さらに、定期テスト前に本校の卒業生で教師を目指している大学生を中心に質問教室の学習支援をしていただいているが、今年度はさらに、３年生の放課後自主学習の支援、１年生の授業・２年生の数学、全学年の技術科の授業支援もお願いしている。

（５）部活動については、毎年、地域から大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部、テニス部、軟式野球部、バドミントン部で、ほぼ１年をとおしてお世話になっている。これらの部活動のボランティアは毎日の部活動だけでなく、練習試合、公式試合でも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

■　実施に当たっての工夫

○学習支援や部活支援など生徒に直接関わることで支援していただく場合、生徒の学力や性格などを理解し行う必要がある。個人情報の取り扱いについては十分配慮を行い、ボランティアにも十分説明をしたうえで実施をしている。さらに、必要に応じて担当教員とボランティアが話すようにしている。

○地域の支援をいただくという一方向だけの取組だけでなく、生徒が地域で活動したり教職員が地域に出向いたりする機会を増やすよう取り組み、学校と地域が共に子どもを育てる実践を行った。

■　事業の成果

○保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増えてきた。

○生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動することも増えてきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられる。学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。

○地域との連携・協働を進めるには、教員も地域に出向き地域の方と話したり、地域で活動したりすることが必要になる。そのための時間確保や時間外勤務、土・日の出勤等が新たな課題となる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさとに愛着と誇りを～地域の人材を活用したふるさと学習の推進　（安土中学校）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
安土中学校支援地域本部	ボランティア登録数	72　人
関係する学校 安土中学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域の方の指導による茶道体験学習、浴衣の着付け教室、地元食材を活かした調理実習など、地域コーディネーターを通して、学校教育に活用できる学習プログラムに取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）総合的な学習の時間「ふるさと学習」

地域を知るため、地域ボランティアを依頼して「安土城趾」「観音寺城趾」をめぐって、フィールドワークを行う。

（２）地域行事への中学生の参画

中学生が地域の行事（体育大会、文化祭、福祉フェスティバル等）に参画することで、地域の一員としての自覚を持ち、ふるさとを愛する心を育てる。地域としても、行事に参加することで関心を持ってもらい、活性化させる。

（３）茶道体験学習

安土において織田信長が盛んにしたと言われる茶道について、地域の茶道の先生を招き、茶室や和室を会場として１年生で全員が茶道を体験する。茶道のお手前だけでなく、その歴史と精神にも触れてお話を聞く。

（４）浴衣の着付け、地元食材を活かした調理実習

家庭科の授業で、地域の方をコーディネートし、指導していただく。

（５）読み聞かせ、図書館ボランティア

地域の読み聞かせボランティアに朝の会で読み聞かせをしてもらう。また、図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とする。

【お茶の先生を招いての茶道体験学習】

【浴衣の着付け教室】

■　実施に当たっての工夫

○学校と地域のニーズを結びつけることを、地域コーディネーターと連携して考え、具体化するようにしている。
○学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行う。

■　事業の成果

○中学生の活動を紹介することで、地域からも評価を受け、活動の場が広がってきた。
○地域の方に、得意分野を活かした授業や環境整備にボランティアとして参画してもらうことにより、教育活動が深まった。
○「ふるさと教育」を通して、地域のことや地域の人々を知り、ふるさとに関心を持ち、愛着を持たせることができた。

＜茶道体験学習の生徒感想＞

静かな部屋でお茶を味わう－。さらっと聞いただけで、本当にあっているのかわからないけど、心を、周りを、心地よく流れた風のような感じで、私の耳に残ったこの言葉。なるほど、このかけじくには、こんな意味がこめられているのか・・・。でも、本当に、静かな気持ちになっていた。「にじり口」というただ１つ、その部屋に入ることのできる入り口から”その空間”に入った時から。・・・まるで、時間の流れが止まったようだった。なんだか、心が落ち着く－・・・。お茶ってそういう心に安らぎを与えてくれるものだなと思う。「お茶」のことについてよく考えられた、よい体験を、本当にありがとうございました。

■　その他　安土中学校 HP　http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~anchu/

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域ボランティアのリストを充実させること
○地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討すること

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

“にこ、キラ、武佐っ子”を育む　あったか支援の力　（武佐こども園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
武佐こども園支援地域本部	ボランティア登録数	20 人
関係する学校・園 武佐こども園	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・こども園の保育・教育に地域の人材を生かし豊かな経験ができるようにする。
・あたたかい人とのかかわりや地域の自然、行事に触れ、郷土への愛着心を育てる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①えほんタイム

毎月２回絵本の読み聞かせをクラスごとに行い、たくさんのお話に触れたり、いろいろな人に読んでもらったりする中で、ほっこりした楽しい時間となっている。また各年齢の参観（おはなし広場）時には図書館司書によるお話会を開催している。また夏季の貸し出しのない時期に絵本の修理を行っている。

②栽培活動

園畑で園児が季節に応じた野菜を栽培している。畑を耕す様子を見せたり、苗や種の植え方を教え一緒に植えたりと、野菜や花の育て方を伝え、成長の様子を一緒に楽しんでいる。

またさつまいもの収穫時期には園児と一緒に芋掘りをしてたくさんの芋が収穫でき、共に収穫の喜びを味わうことができた。

【おはなし大好き！】

③行事支援

やきいもや餅つき、食育活動などの行事の補助をする。特に食育については作る楽しさや食べる喜びを一緒に感じられるように、調理補助等を行う。

④保育教材作り（布製おもちゃ）

今年度は乳児の避難車のカバーを作成する。また昨年度に引き続き、人形の服や乳児の布製おもちゃ等の修理や作成なども行う。ごっこあそびの中で人形遊びをする子どもも多く、いくつかある衣服の中から季節や気分に合わせて選んだり、着せたりすることを楽しんだりしながら、人形に親しみをもって大切に扱う姿が見られる。

⑤あいさつ運動

毎月１日、15 日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら迎える。５歳児も挨拶運動に参加するようになり、保護者への啓発になっている。

【力を合わせてうんとこしょ！】

■　実施に当たっての工夫

〇保護者も未就園の子どもを連れての参加がしやすいように、職員でサポートし合う。
〇保育教材作りは園児と直接触れ合う機会が少ないので、出来上がった教材をボランティアが保育室に持っていき、園児に手渡したり、感謝の気持ちを園児が伝えたりする中で互いの存在感を感じられるようにしている。

■　事業の成果

〇毎月定期的に行っている絵本タイム等は「今日は誰が来てくれるの？」「どんな絵本かな？」と園児が心待ちにしたり、いろいろな人とのふれあいを楽しんだりする姿が見られ、継続的な取り組みの積み重ねを感じる。
〇行事支援や栽培活動などを通して、職員も知識や方法などを経験豊かな方から教えてもらい、日頃の保育の中に取り入れていくことができ、園児の興味・関心を高めることに繋がっている。
〇おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなかできないことに協力していただき、保育環境がよくなり園児の活動がより充実している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今年は保護者会総会時にボランティア活動参加への呼びかけをしたことで新たな参加者もあったが、それ以降の参加者は増えず、活動が思うように進まず、一部の人への負担が大きくなっている面もみられる。
〇行事支援に関してはクラス担任との打ち合わせで支援の内容をより明確にすることで、ボランティアの力がより発揮されると感じる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

子どもは地域の宝！　地域のみんなで育てよう！！　（ 八幡幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
八幡幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	38　人
関係する学校・園 八幡幼稚園	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・ボランティアは、保護者、地域の方をはじめ、専門的な分野で活動しておられる方などコーディネーターが核となりネットワークを広げている。園のニーズに応じて地域の方のもっておられる力を保育に取り入れることで、子どもたちの経験の幅を広げ、より楽しい園生活が送れるようにしていく。
・具体的には、　①３歳児の保育支援　②栽培活動支援　③歌唱指導　④江州音頭指導　⑤保育教材づくり（ピアノの椅子カバー、玩具の修理など）の活動に取り組む。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）歌指導　　月に１回、５歳児が歌の指導をしてもらうことで、歌う時の姿勢や心をこめて歌うことの大切さなどを学ぶことができた。また、学区の行事で歌の発表をして、地域の方にも聴いていただくことができた。

（２）江州音頭指導　　ゲストティーチャーを迎え、参観日に親子を対象に指導していただいた。運動会当日は、江州音頭の小学生ボランティアにも参加してもらった。初めて江州音頭を踊る方や懐かしさを感じる方もあり、地域の伝統文化に親しむ機会となった。

【歌指導】

■　実施に当たっての工夫

〇コミュニティセンターや園の保護者が集まる機会にチラシを配布し、地域から幅広くボランティアを募った。また、活動の内容をまとめたお便りを保護者向けに発信し、関心をもってもらえるようにした。
〇活動の時間を、登園時や降園前の１時間程度に設定し、保護者ボランティアが気軽に無理なく参加できるようにした。

■　事業の成果

〇初めての集団生活を送る３歳児にとって、地域の人たちに関わってもらうことで安心して幼稚園生活を過ごすことができた。
〇地域の行事に参加することで、子どもたちが自分の住んでいる地域に関心や親しみをもつことができた。（松明見学、左義長見学、文化の日の集い参加等）
〇地域の方との関わりの中で、子どもたちは「こんにちは」「ありがとう」等の言葉を交わしている。感謝の気持ちや社会のマナーが自然に育つ機会となっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアが固定化しないよう、現在活動してくださっているボランティアの方々を中心にしながら、支援ボランティアの参加拡大を図る。また、少しでも多くの方に参加してもらえるよう、時間帯の設定やチラシ配布などの工夫をする。
〇園の行事と支援していただける事業をうまくかみ合わせ、有効な人材活用ができるようにする。
〇継続的な地域の方々との関わりにより、やさしい心や感謝する気持ちがもてるよう、子どもの心を育てていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

～地域の子どもは地域みんなで育てる～　（岡山幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
岡山幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	35　人
関係する学校・園 岡山幼稚園	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■その他［　保育参加　］

■　活動の概要

「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いを大切にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てていこうという目的で事業を進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）環境整備・・・プランターの花苗植え、植え方指導では地域の方と幼稚園のＰＴＡ環境部の方が土づくり等の準備をしてくださり５月と 10 月に５歳児が花苗を植えた。野菜栽培指導は地域の方と園児の祖父母の方の協力でさつまいも、夏野菜、たまねぎ、ジャガイモ等の栽培活動を行い全園児が体験することができた。

（２）保育参加・・・地域の方をゲストティーチャーとして迎え特技披露と指導していただいた。今年度は木工教室、おてだま教室、おり紙教室、こままわし教室、お茶席教室、歌唱指導、フラワーアレンジメント教室を開催し、おりがみ教室、こままわし教室については連続して開催することでより地域の方に親しみを感じたり、活動への意欲につながったりしている。

【　４．５歳児　夏野菜植え　】

【　３歳児　おてだま教室　】

■　実施に当たっての工夫

〇地域の会議で活動を報告したり、コミュニテイセンターだよりで地域に活動内容を知らせたりしている。保護者には園長だより、クラスだより等で子どもの様子を知らせている。

■　事業の成果

〇「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いがあり、とても協力的で幼稚園事業を進めることができる。

〇地域に人材が豊富で毎年恒例になっているこままわし教室やおりがみ教室、おてだま教室といろいろな特技を持っておられる方々に丁寧に子どもたちと関わっていただくことができた。各教室とも単発で終わることなく定期的に継続した取組になったことで子どもたちもゲストティーチャーにあこがれたり、より一層親しみを感じ活動への意欲をもったりすることができた。

〇地域の方々に幼稚園に来ていただくことで子どもの姿を知っていただくことができ、また地域の方々の子育てへの思いや地域での子どもの様子を知る機会となっている。

〇毎年恒例になっている事業も多く地域の方が幼稚園に来るのを楽しみにしてくださっており互いに良い関係作りができていると感じている。特に今年度はボランテイアさんとＰＴＡの保護者、畑作業の時は園児の祖父母の協力もあったりしてボランテイアさんと保護者との交流の場となっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇継続的に地域の方に幼稚園に来ていただくことができたが、今後はさらに人材を発掘しいろいろな方に参加していただきたい。そのことで子どもたちの興味関心が高まり人とかかわり、感謝の気持ちを育んでいきたいと思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を　（桐原幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
桐原幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	40　人
関係する学校・園 桐原幼稚園	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

より多くの方に本事業を知ってもらえるように、月に一回程度、活動内容や成果をお便りにまとめ、「ボランティア通信」として配布している。主な活動としては子どもたちが野菜を育てる園庭の畑の土を耕す・畝を作る・マルチをかけるなどの下準備や除草、プランターや花壇への花苗植えの環境整備、子どもたちの遊びに使われるエプロンやお誕生会などで披露するパネルシアターの作成、PTA 総会や講演会、運動会前日準備の際の未就園児の託児支援、絵本の読み聞かせ、入園したばかりの子どもたちへの保育支援などがある。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）絵本の読み聞かせは、３歳児は午前中、４・５歳児は給食が終わって一息ついた時間に来て読んでくださる。ボランティアの方が読んでくださる間、目をキラキラさせて絵本に集中してくれる子どもたちに、次はどの本を読んであげようかとボランティアの方々も楽しみに来てくださる。昔から読み継がれた絵本や科学の絵本、季節にそった絵本、子どもたちとの掛け合いをしながら楽しむ絵本などさまざまな絵本を保護者や先生以外の方に読んでもらうのは子どもたちにとって良い経験になる。

（2）園庭の畑の下準備作業に参加してくださる地域の方は、農業をやっておられる方が多く、肥料の種類や量、土作りの仕方などを教えてもらいながら保護者ボランティアとも連携し作業している。保護者ボランティアは農作業になじみがないため、地域の方との交流にもなっている。耕運機での作業もあり、子どもたちは見たことのない機械を見て喜んでいた。

■　実施に当たっての工夫

〇エプロンやパネルシアター作りなどの活動は、時間をはっきり決めず保護者の気軽に参加しやすい雰囲気作りを心がける。

〇事業の活動内容・成果をお便りにまとめ月一回程度作成、配布し、活動の興味のあることから参加してもらえるようにした。成果を知らせることでボランティアの意欲も湧く。

【絵本の読み聞かせ】

■　事業の成果

〇地域の方や保護者が畑の作業をしている様子を子どもたちが見て、その畑に子どもたちが種を蒔く・苗を植える、水をあげるなどお世話することにより植物が生長するのを体験し、それを収穫し食べることの喜びを感じることができた

〇本園にボランティアに来てくださる地域の方は、スクールガードや小学校のボランティアとしても子どもたちと関わってくださる方も多いので、小学校に入学してからも見知った人が通学路などで見守ってくださることが、子どもたちの安心材料になっている。

〇PTA 総会や講演会の際の未就園児の託児支援は、普段ゆっくり話を聴けない保護者も集中して聴くことができたと喜んでいた。

〇環境整備の畑の下準備など、地域のボランティアの方を中心に農作業の経験のない保護者のボランティアがやり方を教えてもらいながら作業を進めるなど、保護者と地域の方との異世代交流にもつながった。

【畑の耕し作業】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアが固定化してきている。参加してくださる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないように支援ボランティアをどうやって増やしていくかが課題である。より地域や保護者に活動状況を発信していければと思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の人や自然とのふれ合いで心豊かに！自分が好き、人が好き、馬淵が好き、馬淵っこ。　（馬淵幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
馬淵幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	15　人
関係する学校・園 馬淵幼稚園	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・28 年度からの取組で今年度２年目となり、少しずつ地域や保護者の方に浸透しつつある。
・既存の絵本の読み聞かせ活動・在園児の祖父母ボランティアによる園畑での野菜の栽培活動に加えて、昨年度は託児と保育支援活動、今年度は未就園児への絵本貸し出しと保育環境づくりにも取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本の読み聞かせ
・毎月１回クラスごとにボランティア２名が交替で絵本の読み聞かせを行う。・絵本室の絵本修理
（２）未就園児への絵本貸し出し
・毎週月曜日に絵本を貸し出し、水曜日に返却。受付をする。
（３）畑の栽培支援
・在園児の祖父母からボランティアを募り、園畑での野菜栽培を行う。（　さつまいも苗植え・だいこんの苗植え　さつまいも掘り・玉ねぎと苺の苗植え）
（４）託児支援
・保護者が参加する園行事での未就園児のお子さんの託児（　学級懇談会・鉄棒教室・人権学習会・本部役員選挙　）
（５）保育支援
・３歳児の視力・聴力検査、水遊び時の着替え、給食の補助
（６）食育活動支援
・園の畑で栽培した野菜などを使ってのクッキング体験
（ごはんが炊けるまで・カレーパーティー・やきいもパーティー・おでんパーティー）
（７）保育環境づくり

【　元気ハウス看板作り１　】

【　元気ハウス看板作り２　】

■　実施に当たっての工夫

〇地域の方や保護者に園のボランティア支援活動を知ってもらうために活動報告を園内に展示し、文化祭でも展示をする。

■　事業の成果

〇コーディネーターさんの声かけで、新たに毎週行う未就園児対象の絵本貸し出しの受付をする方が来てくださるようになった。
〇昨年度絵本の修理をしてくださった方の提案で、絵本室の壁面に四季に応じた構成をしていただけるようになった。
〇参観などで託児をすることで、在園の幼児と保護者がじっくり向き合うことができ、研修などに熱心に参加していただくことができるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇託児や保育支援ボランティア数が少なく、あまり増加しない。
〇今年度は園行事支援においてボランティアを募ることができなかった。今後は園とコーディネーターが連携して地域や保護者のボランティア支援活動にしていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

保護者・地域の豊かな人材を保育のなかに・・・　（金田幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
金田幼稚園支援地域本部事業	ボランティア登録数	30　人
関係する学校・園 金田幼稚園	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・年度当初にボランティアを募り、支援の内容を登録する。
・引き続き活動するところは、コーディネーターが連携をとり、園の活動に合わせてつないでいく。
・手作りおもちゃ(ままごと用品等)、栽培活動、地域の人や自然とのかかわりを通して園の教育目標である≪キラッと輝く金田っ子≫へのお手伝いをする。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）昨年に引き続き、廊下にフックを設置していただいた。また、タイヤの収納場所を整えていただいたりして、子どもたちが気持ちよく安全に過ごせる環境づくりをしていただいた。週１回の読み聞かせ活動には、多人数の登録があり子どもたちも楽しみにしている。また、身近な材料でままごと用品等おもちゃを作っていただき、以前作っていただいた段ボールの滑り台の補修など物を大切にするという意識にもつなげていけた。

（2）園周辺の環境整備（生け垣の修理や除草）、１年を通しての栽培活動では、友だちのおじいちゃん・おばあちゃんとして親しみをもち、一緒に収穫を喜び、より栽培活動への関心も高めている。また、20 年以上続く栗林での栗拾いでは、事前に栗畑のお世話をしていてくださることを紙芝居にして子どもたちに伝えて、いろいろな方とのつながりが子どもたちの豊かな成長に繋がっている。篠田神社での花火の話を聞き、伝統文化にふれたり、コスモス畑へ出かけ地域の自然にふれる機会をもったりしている。学区内の保育園や八幡工業高校、コミセン(文化祭参加・独居老人の方々)との交流をしている。

■　実施に当たっての工夫

〇手芸分野では、ボランティアの方も得意分野を活かせるように子どもたちの姿から何が必要か聞いて作ってくださっている。
〇作ったおもちゃで一緒に遊んだり、遊び方を知らせたりすることで互いにわくわく感や感謝の気持ちが持てるようにと考えた。

■　事業の成果

〇地域に出かけることで、家庭からも出かけるきっかけとなり地域のよさを子どもも保護者も知る機会となった。
〇継続しての活動では、ボランティアの方から声をかけていただいたり、卒園児の保護者の中には、得意分野での支援をしていてくださったりと地域の力が活かされていることを感じる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇積極的に活動に参加してくださる方ばかりで進んでお手伝いをしてくださっているが、負担に思われていないだろうかと感じることもある。
〇ボランティアに参加したことがない保護者や地域の人材発掘や活かし方の工夫が必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

“心わくわく　みんなが輝く　ボランティア活動”　（北里幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
北里幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	25　人
関係する学校・園 北里幼稚園	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

主な活動としては、開始当時より活動の中心となっている**①絵本や紙芝居の読み聞かせ**がある。地域の方や保護者が中心となって毎月定期的に実施している。読み聞かせを通して子どもたちが地域の方とふれあう機会となり、親しみが持てるようになってきた。年間を通して**②園の行事への協力**をしてもらうことで、活動が豊かになり、園だけではできないことが実現できる。

また、北里商業協同組合のご協力をいただき、ボランティアをしていただいた方に、地域の商店街の買い物補助となる**③ポイント券**を渡している。このことは北里商店街の PR にもつながる取り組みとなっている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）絵本や紙芝居の読み聞かせ

地域ボランティアや保護者ボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせを毎月定期的に実施している。今年度は、読み聞かせの内容や方法などボランティアの方同士で、互いが聞く側になる機会を作り、意見交流ができた。

（2）食育活動のサポート（食育教室・やきいも・おでんパーティーなど）

地域交流で収穫させてもらったさつまいもを、ボランティアの方の協力でやきいもパーティーをすることができた。食育教室では、子どもたちがお米を洗い、ご飯が炊けるまでの経過を見たり、炊いたご飯を食べたりする活動をサポートしてもらい、子ども自身が調理に関わる経験ができた。おでんパーティーでは、父親サークルの方と一緒に、子どもたちのクッキングをサポートしてもらうことで、子どもたちの経験が豊かになると共に、地域の方同士が顔見知りになるきっかけになると考えている。

（3）託児

昨年度より、保育参観や講演会での託児サポートをしていただき、保護者からは「下の子を気にせず参加することができた」「知っている人なので安心できる」などの喜びの声を聞くことができ、地域の方との距離が縮まってきている。また育児相談の場にもなった。

（4）手芸

ボランティアの方を中心に、興味をもたれていた保護者の方を誘い、ままごと用のエプロンやスカート、かばんなどをつくってもらうことで、子どもたちの遊びのイメージが広がっている。今年度は、子どもたちが指先を使って遊べるおもちゃを提案したところ、会の中で工夫を加え、ボタンがけが楽しみながら繰り返してできるおもちゃを手づくりしてもらった。活動を通して作り方や技術を学ぶだけでなく、参加者同士が交流できる場となっている。

（5）その他（園芸活動・お茶会・英語であそぼう・昔遊びなど）

お茶会や花の苗植えなど園の行事に合わせて来ていただいたり、入園間もない頃には、新入児が安心して過ごせるよう保育のサポートをしてもらったりした。定期的に実施している“英語で遊ぼう”や、世代間交流のできる”昔遊び“は、子どもたちの興味や関心を広げる良い経験になり、地域の方に親しみがもてるようになってきている。

■　実施に当たっての工夫

〇幼稚園から発行している便り（地域向け、保護者向け）に記事を掲載し、情報発信をしている。その結果、記事を見て電話して下さるボランティア希望者もあった。

■　事業の成果

〇さまざまな人とのふれあう機会ができ、子どもたちにとっても良い経験となっている。
〇地域ボランティアと保護者ボランティアが共に活動することで顔見知りが増え、地域の中での交流にもつながっている。
〇園だけではできない行事や活動を支援していただくことで、内容や経験の幅が広がっている。（託児、おでん、やきいも等）

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇園の行事と支援していただける内容を合わせながら、地域の有効な人材活用ができるようにする。
〇活動を通して子どもや保護者が地域とふれあう機会が増え、その楽しさや心地よさ、大切さを感じてもらえるようにする。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

げんき・いきいき・あづちっ子　～つながる・ひろがる・ボランティアの輪～　（安土幼稚園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
安土幼稚園支援地域本部	ボランティア登録数	40　人
関係する学校・園 安土幼稚園	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

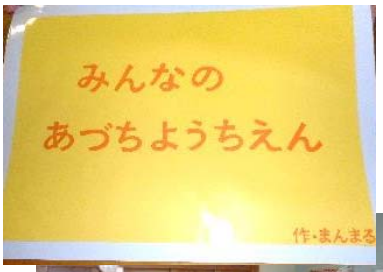
本園でのボランティア活動は６年目となり、園の活動の流れに自然と位置づけられるようになってきた。ボランティアは、保護者、地域の方々を始め、専門的な分野で活動しておられるグループの方々などが登録され、コーディネーターが核となりネットワークを広げている。活動としては、「託児」・「図書」・「環境」の３つの柱を中心に、地域の方のもっておられる力を園のニーズに応じて活動の中に入れ、保育をより充実させている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）紙芝居作り

園創立 60 周年の今年、様々な行事を行うにあたり、保護者や地域の方に見守られ、大切にされてきた幼稚園の歴史を感じている。また、ボランティア活動が子ども達の園生活を支え、見守られているということも実感している。

そこで、自分達がいろいろな方に守られ大切にされていることを改めて感じ、幼稚園や自分に、より愛着をもってほしいと紙芝居にしてもらうことにした。園の要望とボランティアの方々の思いがひとつになり、完成間近である。手作りの紙芝居を子ども達に披露する日が楽しみである。



【紙芝居作り】

（２）図書

おはなし会『まんまるさん』による月１回の子どもたちへの読み聞かせをしている。子ども達の興味関心に合ったものや季節感のあるものを選び、読み聞かせをすることで、楽しみな時間になっている。園のなつまつりでは、読み聞かせのコーナーを設け、親子で楽しんでもらうよい機会となった。また、絵本棚の整理をしたり、絵本の修繕やブックカバーをつけたりなど、温かく居心地のよい絵本室は、子どもたちがより親しめる環境になっている。

（３）託児

参観日等保護者が参加する園行事に、就園前の子どもの託児をすることで、安心して自分の子に向き合うことができている。また、次年度に入園する子どもと保護者が参加する行事に、幼稚園に在籍する幼児の託児も行っている。ボランティアの持ち味を生かしながら、子どもたちにかかわってくださることで、家庭とは違う人とのかかわりがもてる場ともなっている。

■　実施に当たっての工夫

〇幼児の姿を共通理解し、保育内容について見通しをたてながら、活動を工夫している。また、子どもたちのために尽力してくださっていることに感謝の気持ちをもちながら、つながっているように心がけていった。
〇誰でもができ、できる時に参加するボランティア活動ということをベースに、個々のキラッと光る持ち味や特技を生かせる場を模索していくことで、ボランティア自身がよりやりがいを感じながら、活動できるようにしていった。

■　事業の成果

〇園、コーディネーター、ボランティア、それぞれがもっている“幼稚園をよくしたい”“子どもたちのために”という思いが、園を支え子ども達の育ちにつながっている。ボランティアの温かいかかわりが、安心して幼稚園生活を送ることにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇現在位置付けられている活動だけでなく、地域の人材を発掘し、保育にどう活かしていけるかを探っていきたい。
〇活動の内容を広く知っていただくために、交流会をもつなどして、新たにボランティア登録をしてくださる方を広げていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

は・あ・と・が だいじ　～地域の方と心でつながる園教育を～　（老蘇こども園）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
老蘇こども園支援地域本部	ボランティア登録数	32 人
関係する学校・園 老蘇こども園	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業）②絵本読み聞かせ（月１回）③託児支援（保育参観・学級懇談会・保護者会研修会などの園行事における支援）を中心に保育・教育活動の支援をおこなっている。毎年新たなボランティアを募集し継続のボランティアの方と共に、できる方ができる時に活動に参加してくださるよう事業をすすめている。

■　地域と園が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）**『栽培活動』**…畑作りや苗植え、収穫を一緒に行ったり、地域の園芸店の方にプランターの土作りや花苗植えの指導をしていただいたりする。

（２）**『環境整備』**…運動会に向けて地域ボランティアの方・保護者・職員が協働し園庭の整備を行う。

（３）**『絵本読み聞かせ』**
…月１回地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただく。ポルトガル語を母国語とするボランティアの方にも来ていただき、多文化共生のきっかけつくりをする。

（４）**『園外保育付き添いおよび郷土文化の伝承』**
…安土山や観音正寺・奥石神社（老蘇の森）に同行していただき、地域の歴史やいわれなど郷土文化の伝承をしていただく。

（５）**『おいそビオトープまつり』**
…老蘇まちづくり協議会・老蘇小学校ビオトープ委員会・老蘇こども園が共催して本園の園庭を会場に開催している。地域の方・児童・園児が参加し、地域交流や地域のよさを感じられる場となっている。

（６）**『避難訓練：老蘇コミセンへ２次避難』**
…避難訓練時に老蘇コミュニティセンターと連携し第２次避難としてコミセンに避難し、防災についての話を聞き、避難所としての施設の見学をおこなう。

■　実施に当たっての工夫

〇地域の集会や会議の場に出向き地域支援ボランティアの説明・理解をいただけるよう努めている。また、保護者が集う場で連携・協働を働きかけたりし、地域の方と保護者・園が一緒に活動できるよう進める。
〇市の様々な活動グループにもボランティア協力を依頼し、地域住民以外の方にも老蘇地区を知ってもらえるようにする。
〇年度末に「ありがとうの会」をもち、一緒に遊んだり交流したりし、子どもたちがボランティアの方に感謝の気持ちを伝え、より園に対する理解を得られるようにする。

■　事業の成果

〇地域ボランティアの方だけでなく、保護者が自分にできることを申し出てくださるなど協働しやすいつながりができてきている。また、我が子が卒園してもボランティア登録をすることで園とつながっていられる喜びを感じてくださり、園行事などへの参画意欲が育っている。
〇栽培指導や土作り・植え方を地域の方に教えていただくことで、保護者を含め職員の知識向上につながった。
〇ボランティア活動を通して、園に親しみを持っていただくことができ、地域の方が来園しやすくなった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方が地域や多方面でも活躍され、ボランティアを募った日に先約があるなどして都合が合わないなど、人材確保が難しい。コーディネーターがより園や地域とつながり、地域の人材発掘やより幅広い人材確保に努める必要がある。
〇地域連携や地域との協働がより図れるよう、地域行事などに職員が参加するとともに、この活動を多くの地域の方に知っていただけるよう、積極的に園から地域への発信をしていきたい。

【　老蘇コミセンへ２次避難　】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共に育てよう“きらっと輝く笑顔の八保っ子　”　（八幡保育所）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八幡保育所支援地域本部	ボランティア登録数	登録制はとっていない
関係する学校・園・所 八幡保育所	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

「きらっと輝く笑顔をめざして！」をキャッチフレーズに、子ども達を地域の方と一緒に育てていこうという支援をいただきながら事業を進める。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）保育支援

・七夕の集い、笹飾り地域訪問・・・民生委員さんと一緒に七夕のつどいを通して子ども達との交流を図る。またコーディネーターの案内で保育所周辺の地域のお年寄りの方やグループホーム等にふれあい訪問に出かけ、地域探検をしながら地域の方との交流を図る。

・やきいも、餅つき等支援・・・・コーディネーターと一緒に活動を進め、行事を充実させる。

（2）環境整備

・栽培活動・・・畑の土づくりや花壇の花の朝夕の水やり、除草作業等

・絵本整理・・・絵本の破れ等の修理及び整理

【　笹飾り地域訪問　】

■　実施に当たっての工夫

〇八幡保育所保育運営委員会の協力を得て実施している。

■　事業の成果

〇コーディネーターを中心にしながらふれあい訪問に出かけることで、安心感をもって地域を探検し地域の方に触れ合い、自然な交流を図ることができた。また、行事等、いろいろな活動を一緒にすることで、人と関わることの心地よさを感じたり、身近な資源を大切にしたりする気持ちを持つきっかけになっている。

〇保育支援や環境整備を手伝っていただくことで、保育環境の充実につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今後も、子ども達が地域の方との交流の場でいろいろな人と関わり、どのような経験をし、何を感じてほしいかを、職員が共通理解していくとともに「自分自身や周りの人を大切にすること」また「ものを大切にすること」を丁寧に伝えていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域のみんなで育てよう　“　桐原っこ　”　（桐原保育所）

近江八幡市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
桐原保育所支援地域本部	ボランティア登録数	登録制はとっていない
関係する学校・園・所 桐原保育所	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・「自分がすき！友達がすき！保育所だ―いすき」そして「みーんな　桐原っこ」をキャッチフレーズに、子ども達を地域の方と一緒に育てていこうという支援をいただきながら事業を進める。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）保育支援

・交通安全指導・・・保幼交流事業での幼稚園や小学校への園外保育における道中の交通安全指導。
・人形劇鑑賞・・・人形劇公演やクリスマス会などを通して子ども達との交流をはかる。
・やきいもや餅つき、食育活動、千羽鶴作り、昔あそび等支援・・・ボランティアさんの支援で、交流し行事を充実させる。

（２）環境整備

・栽培活動・・・さつまいもと玉ねぎの栽培活動の畑の土づくりと畝作り
・夏の遊びの環境・・・日よけ用のテントの設営と撤去

【　園外保育の交通安全指導　】

■　実施に当たっての工夫

・桐原保育所保育運営委員会や桐原コミュニティセンターの協力を得て実施している。
・保護者には、一日保育士体験の希望を取り、その都度保育参加をしてもらう。

■　事業の成果

・学校支援地域本部事業としての取組としては、今年度からであるが、約３年前から桐原コミュニティセンターおよび桐原学校応援団の方々との交流があった。そのため、子ども達も以前から顔見知りの地域ボランティアさんも多く、安心感をもって自然な交流をはかり、人との関わりの心地よさ、感謝の気持ちを感じたり、社会性を身につけたりすることにつながっている。また、家庭に帰り、地域行事への参加などでボランティアさんに出会う機会があると、「あっ、知ってる人や。」と保護者に伝えたり、自ら「こんにちは。」とあいさつしたりする姿が見られている。ボランティアさんからは、子ども達との交流で、“桐原っこを育てたい”の思いが深まりつつある。
・保育支援をしていただくことで、保育環境等が充実し、ゆとりをもって保育活動ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・今後も、桐原保育所保育運営委員会や桐原コミュニティセンターの協力を得て、その都度調整しながら事業を実施したい。また、ボランティアさんの参加人数は少なくても、それぞれの得意分野で活躍していただき、双方が充実感を得られるように、調整していきたい。
・子どもを通して保護者の方と、ボランティアさんの交流が深まるように工夫したい。

■　その他

・子ども達のほとんどは、核家族で祖父母との同居ではないため、ボランティアさんとの交流は、世代間交流の一つとしても大切にしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

草津市における地域協働合校の取組

■　目指す姿

草津市では平成 10 年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげる。人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、子どもたちと共により良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。

今年度は、市内全 14 小学校の地域協働合校推進組織に地域コーディネーターを設置して２年目となり、「地域が支援する学校づくり」「地域で子どもが育つまちづくり」を活動目標とし、より充実した活動内容、人材の拡充を図る。

【情報交換会】

■　本年度の具体的活動

（１）運営委員会

第１回（４月 13 日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と地域学校協働本部事業との関連性と方向性について

第２回（８月 21 日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修討議

第３回（２月開催予定）

（２）地域コーディネーター

業務説明会（４月 26 日）地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会（７月 25 日）１学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換

総括会議（１月 18 日開催予定）

〇市全体で取り組むという意識を高めるために、地域協働合校推進事業に関する通信を年７回、庁内や草津市ホームページへの掲載、地域まちづくりセンターや市内小中学校へ配布し、事業理念や学校・家庭・地域が連携した学びの姿を周知した。

■　本年度の成果

〇地域コーディネーターは、悩まれている課題を出し合い、「自校なら～～している」と創意工夫された活動を紹介、アドバイスされるなどの情報交換を実施することができた。その結果、支援していただくボランティアの募り方を工夫され参加者が増えたり、子どもの活躍、成長が地域に伝わるようになった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇来年度、地域協働合校推進事業は 20 周年を迎えるが、市民の認知度は低い。活動に参加される方は多いが、それが地域協働合校と結びついていないと思われる。地域協働合校は、人と人とのつながり、地域のまちづくりにつながることから、理念を広く理解してもらえるようにしたい。

「地域の人に学び、地域で生きるわたしたち」　（志津小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
志津小学校地域協働合校	ボランティア登録数	400　人
関係する学校 草津市立志津小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

■　活動の概要

「地域の人に学び、地域で生きるわたしたち」をテーマに、「人・もの・地域」との関わりを大切にした『志』の教育活動に取り組んでいる。志津小学校区は、地域のお宝とも言うべき自然が豊かで、地域の方々や保護者の方々も子どもたちを温かく見守りながら、積極的にこの取り組みに参加・協力いただき、「地域資源」を活かした学習を進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）志津のお宝発見（３年生）

３年生は「志津のお宝発見」と題して、自分たちの住んでいる地域の学習を進めた。その中で、志津地区にはホタルの生息地が多いことがわかった。そこで「草津でホタルを楽しむ会」の代表の方に来ていただいて、ホタルの生態や生育環境について、映像を使い、クイズを交えながらお話しいただいた。

また、地域にあるバラ園やカーネーションハウスの花作りを見学させていただいたり、ふなずしをつくっておられる会社を訪ね、作業を見学させていただいたりした。草津市内に一つしかない企業が地域にあることを知り、その仕事について知ることができた。

【ホタルの生態について学ぼう】

（２）米作り体験（５年生）

５年生は校区内にある田んぼをお借りして、田植えから稲刈りまでの体験学習をさせていただいた。田んぼが学校の近くにあり、田植えから稲刈りまでの稲の様子を、何度も観に行くことができた。収穫祭では、田んぼのお世話をしてくださった方をお招きし、米について自分たちが調べたことを発表したり、新米を炊いて塩おにぎりをつくり、一緒にいただいたりする活動をした。食に対して関心を持ち、感謝の気持ちを持つ活動となった。

【お米感謝祭】

■　実施に当たっての工夫

〇地域のボランティアの方々には、活動の趣旨を理解していただくために、事前に直接お目にかかって細かく打ち合わせをしている。
〇活動後は、子どもたちが書いたお礼状や感想文をお渡しして、今後も交流を深めていけるようにしている。

■　事業の成果

〇地域の方々との交流を通じて子どもたちは地域のことを知り、いろいろな発見をすることができた。そのことから、地域の自然や人に関心を持つとともに、感謝する気持ちが育ってきている。
〇地域の方々から教えていただいたことで、子どもたちは自分たちにできることを見つけ、さらに意欲を持って学ぶきっかけとなった。
〇地域の方々に学校の活動を知っていただく機会となり、さらに協力していただけることが増えた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方の活動希望日時と、学校側の活動したい日時を調整することが難しい。
〇事業活動が、学年により偏りが生じる。

■　その他　　http://www.shizu-p.skc.ed.jp/tiiki.html

〇志津小学校のホームページで、地域協働合校事業の取り組みについて、写真などで紹介している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

子どもと大人の『共育ち』をめざして　（志津南小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
志津南小学校地域協働合校	ボランティア登録数	127　人
関係する学校 草津市立志津南小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域の専門家、活動家、高齢者の方などを指導者として学習に迎えたり、直接地域に出かけたりして、さまざまな場所やもの、人との触れ合い体験活動を通して自分が地域や地域の人々と関わりがあることや地域の素晴らしさに気づき、親しみや愛着を深めることを目指す。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「さつまいもを育てよう」（２年生）

さつまいもの植え方や世話の仕方、また収穫の仕方を教えていただいた。収穫祭には地域の方を招待し、共に収穫を喜んだ。

（２）「伯母川たんけん」（３年生）

伯母川に入ってたくさんの生き物に触れ、地域を流れている伯母川のよさを再発見した。

（３）「りょうぶの道たんけん」（３年生）

地域にある「りょうぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えていただいたりした。

【　伯母川たんけん　】

（４）「韓国について知ろう」（３年生）

国際理解教育として同志社大学の先生から韓国の言葉や、じゃんけんを教えていただきながら交流した。

（５）「たんぼのこ」（５年生）

地域の方の田んぼをお借りして、田植え、稲刈り、脱穀を田んぼの持ち主の方に指導していただきながら行った。脱穀においては、昔の足踏脱穀機を使って行った。収穫祭には、米作りでお世話になった方とともに日ごろ安全パトロールなどでお世話になっている地域の方を招待して感謝の気持ちを伝える機会を持った。

（６）「木瓜原遺跡見学」（６年生）

立命館大学敷地内にある木瓜原遺跡を見学し、地域の歴史を学んだ。

（７）「戦争体験に学ぶ」（６年生）

地域の方に戦争体験について語っていただき、戦争と平和について地域の方と共に考える機会になった。

（８）「立命館大学　学生サークル連携６DAYS！」（全学年）

学年ごとに、学生ボランティアの企画により紙飛行機作りやダンス、手作りプラネタリウムで星の学習、英語活動などを楽しみ、将来の夢や自分の進路を考えるきっかけとした。

【　たんぼのこ　稲刈り　】

■　実施に当たっての工夫

〇事前に地域コーディネーターとの打ち合わせを実施した。また、活動後もできるだけ懇談の時間を持ち、来ていただいた感想を話し合うなどボランティアの方の充実感や達成感、子どもたちとのつながりが深まるようにした。どの活動も、数年来継続して行っており、活動内容を充実させるため資料等を残すように心がけている。そして資料を基に毎年子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。

■　事業の成果

〇地域の自然に触れる機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたい、大切にしていきたいという思いが積み上がっている。近隣の立命館大学との活動も何年も継続して行われ、学生ボランティアに憧れを持つ児童も増えている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、子どもたちの学習が受け身になるだけでなく、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。また多様な学習を行っているが、地域における人材や資源の有効的活用を考え、地域の風土、環境、文化とともに安全、防災、ＩＣＴ、情報、英語などの専門的知識を持つ方また経験のある方等、地域コーディネーターを中心に確保するとともに、教育資源を活用し、学習教材を深め広げていき地域の活性化の一端を担うことが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふれあい、学び合い、心をひびかせる　草津っ子　（草津小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
草津小学校地域協働合校	ボランティア登録数	140　人
関係する学校 草津市立草津小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

歴史と伝統のある草津小学校では、温かい地域の支えにより、「ふれあい、学び合い、心をひびかせる草津っ子」を合言葉に、自分のよさ、学校のよさ、地域のよさを共に高め合う取り組みを続けてきた。草津市の市街地の中にある本校だが、校地内にある学校田や畑を活用したり、環境ボランティアなどの地域人材を活用したりしている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「はなややさいをそだてよう」

第１学年の生活科では、環境ボランティアの指導のもと、さつまいもを植え育てている。苗の植え方や、水のやり方などを教えていただき、植物のいのちを大切にしながら毎日の世話を行う。収穫後には、「おいもパーティー」を開催し、ボランティアの方を招いて共に収穫の喜びを味わい、交流を深めている。

（2）「水のめぐみ“米づくり”」

第５学年の総合的な学習では、敷地内にある学校田で稲を育て、土づくりから稲の収穫、食べるまでの「米作り」を学習している。特に田植え、稲刈りでは、子どもたち一人一人に、ボランティアさんが丁寧に指導していただいくことで、米作りに対する想いや願いを感じながら学習するよい機会となっている。また、収穫後の「お米パーティー」では、ボランティアの方を招き、学んだことを発表したり、収穫した米で作ったおにぎりを共にいただいたりして、交流を深めている。

■　実施に当たっての工夫

〇活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。子どもたちとの交流がその時限りではなく、学習後の発表会などでふれあうことで関わりを深め、感謝の気持ちを伝えることでボランティアの方のやりがいにつながるように取り組んだ。

〇事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺った。それを、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取組になるように話し合った。

■　事業の成果

〇何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。

〇継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。

〇学習のまとめである「おいもパーティー」や「お米パーティー」、運動会や歌声集会にも積極的に参加していただくことで、交流の機会も増え、関わりが深まることで、子どもたちは「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場をさらに設け、各学校職員に伝えることで、よりよい関係を目指したい。

〇ボランティアの方の熱心な支援で、一人ひとりの子どもに丁寧に指導していただいている。おかげで学習は予定通りに進むが、一方で、「子どもたちが試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指すことも必要である。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解しておくことが大切である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

【さつまいもの苗植え】

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！　（草津第二小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
草津第二小学校地域協働合校	ボランティア登録数	36　人
関係する学校 草津市立草津第二小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

平成 10 年度から続く地域協働合校事業を発展させ、コミュニティスクールくさつと連携し、地域コーディネーターを配置して活動を深めている。本校のスローガンとして、「『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！ ～地域と協働し活力のある学校をめざして～」を掲げ、各学年や全校で地域や保護者の方々と協働でさまざまな活動に取り組んでいる。
また、本校では道徳教育に力を注いでおり、「豊かな心」を養う実践的な学びの場として、地域に出かけて活動することや、地域の方々を学校に迎えて活動することを大切にし、常に地域とともにある学校・子どもを目指している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）きつね踊り（郷土学習、地域行事への参加）

地域に伝わる「きつね踊り」。一時期途絶えていたこの伝統芸能を復活させた方々の活動ぶりを学び、地域を愛する思いを受け止め、自分たちも地域の一員としてきつね踊りを教わる学習を、３年生の社会科と総合的な学習の時間に行っている。また、５年生の「たんぼのこ」の「収穫感謝の会」で、お米の収穫を祝ってきつね踊りを踊ったり、６年生では、大路区民祭りできつね踊りを地域の皆さんと一緒に踊って祭りを盛り上げたりする活動を行っている。

【きつね踊り】

（２）商店街との連携（地域人材によるキャリア教育、体験活動）

学区内に草津駅前商店街がある地の利を活かし、商店会の皆様と連携した教育活動を行っている。毎年、３年生では、児童が商店街のさまざまな商店でお店体験を行い、お店の方やお客さん（地域の方々）と積極的に関わり、交流しようとする態度を育てている。今年度から３年間の予定で商店街の再開発工事が始まり、お店体験が継続できるか心配されたが、地域コーディネーターと商店会とで連絡を取り合い、今年度から新たに協力していただくお店も見つけて、無事実施することができた。子どもたちは、お店体験を通して、お店の方がどのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて体験を通して学んでいる。

【学校図書館リニューアル】

（３）学校図書館リニューアル（図書室環境整備）

滋賀県立図書館と草津市立図書館のご指導のもと、図書館ボランティア「よもとライブラリー」の皆さんと募集したボランティアの皆さん（保護者・児童）の協力を得て、夏休み中に学校図書館をリニューアルした。図書の分類方法を改め、また書架の配置も変えて、使い勝手がずいぶんとよくなり、図書の利用が増加した。

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターと連携して、地域の方へ早めに連絡・予約をとり、スムーズに実施できるようにした。
〇保護者や地域へ取組を周知するために、ボランティア募集のお便りをだしたり、積極的に情報を記者提供したりした。

■　事業の成果

〇地域協働合校からの積み上げがあるうえに、地域コーディネーターが意欲的に活動していただいているので、地域との信頼関係が強く、変化にも柔軟に対応することができている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方の年齢層や分野が多岐に渡るように、広げていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

いいな　いいな　ともに学んでふれ合うまち　渋川　（渋川小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
渋川小学校地域協働合校	ボランティア登録数	250　人
関係する学校 草津市立渋川小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［

■　活動の概要

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「滋賀の郷土料理学習」

５年生は、漁師や農家の方、郷土料理の専門家など、様々な人に教わりながら、梅干し作りや味噌作りに取り組んだ。そして、学んだことをまとめ、ふるさとの食文化を継承していくために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。

（２）「世界農業遺産学習」

６年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。３クラスが、「農業」「漁業」「林業」というテーマで調べ学習を進め、最後に地域の方々を招いたシンポジウムを開いて学びを交流する。

■　実施に当たっての工夫

〇５年生の取組では、滋賀の郷土料理について調べるだけではなく、調理をして味わう体験を数多く取り入れた。また、滋賀の食文化を伝えるために、博物館づくりだけではなく、子どもたちが地域に出かけていって、地域の人々と交流を深めた。

〇６年生の取組では、農業・林業・漁業それぞれに携わる人をゲストティーチャーとして学校に招いて話を聞くことができた。農業の学習では、農家と連携し、学校の畑で大豆や６種類の近江の伝統カブの栽培に取り組んだ。林業の学習では、鹿害について考える中で、有害駆除した鹿肉を食する体験もできた。漁業の学習では、琵琶湖の現状を知るために、琵琶湖博物館、琵琶湖栽培漁業センター、醒井養鱒場、滋賀県水産試験場などと連携することができた。このように滋賀の農林水産業の現状に学ぶため、様々な人と協働する中で、多様な体験を取り入れることができた。また、県外の現状にも学ぶことをねらいとして、テレビ電話を使って、北海道、福島、千葉、大分、沖縄の方と遠隔授業を行うこともできた。

■　事業の成果

〇本報告では、２事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかり意識して取り組みたい。

■　その他

〇今年度、本校の地域協働合校の理念を生かした環境教育の取組が、コカ・コーラ環境教育賞において全国一位の『最優秀賞』を受賞した。また、生物多様性アクション大賞においては、特別賞の『ＳＤＧｓ賞』を受賞した。また、韓国・水原市で開催された日中韓３国の代表者による環境教育の国際会議でも、本校の事例を紹介することができた。

【　韓国の国際会議での事例報告　】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさと大好き！ 矢倉っ子　（矢倉小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
矢倉小学校地域協働合校	ボランティア登録数	90　人
関係する学校 草津市立矢倉小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

矢倉小学校では、「ふるさと大好き！ 矢倉っ子」を合い言葉に、地域の方々と連携し、様々な取組を進めている。本校は、保護者や老人クラブをはじめたくさんの地域の方々に支えられている。地域の方々との「出会い」を大切に、関わってくださった方々の思いや生き方、地域で守り受け継いでこられた歴史や伝統にふれる中で、自分たちが住んでいる「矢倉」のよさに目を向け、「矢倉」を誇りに思う心を育てていきたい。そして、大人になった時、今度は「自分」が地域のよさを受け継ぎ、広げていく一人となってくれることを願っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）３年生では、ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクトの方々に来ていただき、矢倉の魅力や地域の文化についてお話をいただいた後、「昔からのものづくり」・「物語･伝説」・「昔の学校」・「勉強の神さま」の４つのコースに分かれて、記憶絵プロジェクトの方々と一緒に校区内の探険に出かけた。町の中心にあったお寺や、矢橋と唐橋の分かれ道を示す道標など、校区にある建物や碑・道標などを巡る中で、自分たちの住んでいる地域の今と昔について話を聞きながら学び、矢倉のよさを知るよい機会となった。この活動が、６年生での「矢倉検定」の取組へとつながっていく。

【３年　町探検】

（２）６年生では、広島で被爆された方や滋賀県平和祈念館の方に来ていただき、被爆体験や戦時中の人々の思いなどを聞き取り、そのことを修学旅行（広島）での平和学習へとつないでいく。そして、修学旅行から戻ると、自分たちの住んでいる矢倉では当時どんなことがあったのか、地域の方から話を聞くとともに、女性部の方が作ってくださる「すいとん」を一緒にいただき、地域の方との交流を深めている。さらに、卒業を間近に控えた３学期には、ホテルの料理長をされている地域の方にお越しいただき、料理人をめざされたきっかけや料理に対する想い等をお聞かせいただいたり、実際に料理の実演をしていただいたりする中で、自分の将来を見つめる。

■　実施に当たっての工夫

〇活動を通して、地域の方々の思いが子どもたちにしっかりと伝わり、相互に学び合い、響き合えるよう、担任も交えた事前の打合わせをしっかり行うよう心掛けてきた。また、活動が単発の取組に終わるのではなく、事後の感想やお礼の手紙を届けたり、発表会や収穫祭等に来ていただいて学習の成果を見ていただいたりするなど、事後にも継続して関わり合う中で「つながり」を大切にしてきた。

■　事業の成果

〇ボランティアに関わってくださっている方の多くは、長年にわたって継続的に本校に関わってくださっている。そのため、学習のねらいやおおまかな流れを把握してくださっているので、毎年担任が交代してもスムーズに学習を進めることができ、大変助かっている。また、全国学力学習状況調査での質問項目「今住んでいる地域の行事に参加していますか」を見ると、本校児童は、全国あるいは全県に比べて毎年ポイントが高い。これは、学習を通して地域とのつながりがしっかりと築かれていることの証であると考えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目が高いことから、出会い、関わることが、自分のめざす将来の生き方像につながってきていると考えられる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方の高齢化が進み、活動によっては継続が危ぶまれるものもある。また、よりよい活動をと願うボランティアさんの思いが、学習時間の超過や学年相応でない学習活動につながることもあり、無理なく、限られた時間の中でより良いものにしていくためにも、事前の打ち合わせをしっかりとしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

手をつなぎ、心通わす　誘（ゆう）・融（ゆう）（融け合う）老上　（老上小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
老上小学校地域協働合校	ボランティア登録数	159　人
関係する学校 草津市立老上小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■その他［茶道体験・栽培体験・障碍者理解・人権学習］

■　活動の概要

本年度で創立 130 周年の歴史のある本校は、様々な場面で多くの地域の方から支えられてきた。平成 28 年４月に児童数増加により老上西小学校が新設され分離し、地域の様子は大きく変わったが、地域の方の本校に寄せる思いは引き続き熱いものがある。地域協働合校の取り組みの中で、子どもたちが身近な地域の方の考え方や人柄などにたくさん触れ、ふるさとを愛し、豊かな人間性を身につけてほしいと考え、実践している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）ふれあい老上まつり

「ふたつにわかれても思いはひとつ」のテーマのもと、学校分離後も老上西小学校区と共同開催されている。第１日は各校での学習発表、第２日は両校区挙げての「まつり」となり、子どもたちを中心に地域全体の「ふれあい」の場となった。

学習発表会の会場準備なども担ってくださり、華やかな会場で大勢の保護者・地域の方に来校いただいての「まつり」となっている。

（２）花ボランティア・ルンルン

今年度から子どもたちの委員会活動とも連携し、花の世話を一緒に進めていただいている。子どもたち自身が環境整備を進めながら、保護者や地域の方との触れ合いも増すことが期待され、今後も充実させていきたい取組となっている。

【　ふれあい老上まつり　】

【　花ボランティア・ルンルン　】

■　実施に当たっての工夫

〇ボランティア同士の交流も図れるよう、図書館サポーターと読み聞かせボランティアで、合同懇談会を開催している。

〇今年度からサポーターバンクを創設した。クラブ活動や家庭科など実習を伴う場面でのサポートをはじめ、校外の体験活動など様々な場面で支援していただけるようにしたい。

■　事業の成果

〇昨年度立ち上げていただいた「花ボランティア」や、今年度から始めた「サポーターバンク」のように、学校に関心を持ち「できることで少しずつサポートをしていこう」という形で関わってくださる支援の輪が広がっている。メンバーも少しずつ増えており、継続した取り組みに発展しつつある。

〇子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の人やものへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇取組を充実させるため、入念な打ち合わせが必要となる。学校・地域双方の負担感を軽減するため、地域コーディネーターの果たす役割が大きく、今後も継続した配置が必要である。

〇特に保護者層で、関心をもってくださる方とそうでない方の両極化が進んでいると感じる。より多くの方に関わってもらえるよう、次年度に向けて関連する学習などの見直しを図っている。

■　その他

学校ホームページ　http://www.oikami-p.skc.ed.jp

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

もっとチャレンジ！ ～地域とともに共同（協働）する学校～　（老上西小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
老上西小学校地域協働合校	ボランティア登録数	80　人
関係する学校 草津市立老上西小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

「もっとチャレンジ！」を合言葉に、めざす学校像の一つとして『地域とともに共同（協働）する学校』を掲げ、地域協働合校の推進に取り組んでいる。昨年度、「老上西小学校コミュニティ・スクール」を立ち上げ、「家庭や地域等のさまざまな力や資源が活かされる学校」「教育や子育てにかかわる課題にともに取り組む学校・家庭・地域」づくりを進めているところである。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

これまで行ってきた学習に関わる活動だけでなく、学習以外の場面や休み時間等を利用した活動を実施した。

（1）親子夏野菜栽培
校内にある学習園を活用し、老上西農業合校の方の協力を得ながら、なすやきゅうり、ピーマンなど夏野菜の苗を親子で植え、水やりなどの世話をしながら夏に収穫した。10組ほどの親子が参加し、野菜づくりを楽しむことができた。

（2）フラワークラブ
「老上西小を花の咲く学校にしたい」という方を募り、フラワークラブを立ち上げた。５名の方に参加いただき、メンバーで相談しながら花の花壇づくりや苗植えなどの活動を随時行われている。

（3）ミニコンサート　～まちに音楽家さんたちがやってきた！！～
老上西小ミニコンサート出演者を募ったところ、本年度は地域の方で音楽が得意な方々６組の参加があった。昼休みを利用して実施し、毎回、地域の方を含め 100 名程度の観覧があり、子どもたちと共に音楽の楽しさを味わうことができた。

■　実施に当たっての工夫

〇年間計画の作成とサポーター募集
昨年度の実績をもとに年間計画を作成し、保護者、地域に配布するとともに、サポーター募集を行い、サポーターバンクを作成している。保護者をはじめ、町内会の回覧等を活用し、地域の様々な方に知っていただくため、幅広くサポーター募集を行っている。

〇コミュニティ・スクール通信の発行、掲示板の作成
本校の取組を発信するため、地域コーディネーターを中心に、コミュニティ・スクール通信を発行したり、活動の様子を模造紙にまとめ、掲示したりしている。

【親子夏野菜栽培】

■　事業の成果

〇昨年の実績があり、見通しを持って活動を行うことがでた。
〇保護者、地域の方に徐々に浸透し、本年度の登録者数は 80 名を数え、11 月の活動まででのべ 150 名を超えるサポーターの方に協力をいただいた。
〇保護者のサポーターの中には、自分の子どものいる学年だけではなく、学年をこえて参加してくださる方が増え、サポーターさん同士の輪が広がっている。

【ミニコンサート】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇たくさんのサポーターの方に参加していただけるようになってきたが、参加していただくだけでなく、「フラワークラブ」のようにサポーター自らがアイデアを出し、参画していただけるような活動を増やしていきたい。また、今後さらに地域コーディネーターの方と連携を密にし、本校の課題や目標を明確にしながら、地域へ発信していけるようにしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

すきです玉川　わたしも参加　つくるよろこび　（玉川小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
玉川小学校地域協働合校	ボランティア登録数	130　人
関係する学校 草津市立玉川小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

ここ数年に渡り、駅前開発でマンション群が建ち並び新興地区と旧地区が混在した学区である。その中でも、本学区の方々はそれぞれが連携をとりながら、小学校の活動に対して非常に協力的であり、環境を整えていただいたり、子どもたちの学習を助けていただいたりしている。地域の特性を生かした活動は、地域の方にとっても、子どもたちにとっても有意義な取り組みとなるように仕組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）５月の苗植えや９月には稲刈りを体験している。５年生が育てたもち米は、玉川萩まつりで地域のみなさんにふるまわれている。また、米だけでなく、わらについても、昔の生活の中で生かされていたことを知るために、わらないなどの体験をしている。
１年生は５月に芋の苗植え、10 月に芋堀を体験している。

【　１年　いもほり　】

（２）３年・４年生のそろばん教室は、地域のそろばん教室の先生に教えていただいて今年で 18 年目になる。３年生になると、そろばんの先生と一緒に学習することを知っていて、楽しみにしている子どもがいる。今年は４年生にもきていただいた。

（３）１年生のけん玉教室・昔遊びでは、人との関わりを大切に取り組んでいる。地域のみなさんとの交流を楽しむことができるように仕組んでいる。昔遊びでは、メンコ、はねつき、あやとりなど十種類ほどの遊びを一緒に体験している。けん玉は、教えてもらった後、休み時間の人気の遊びになり、夢中で遊んでいる姿が見られる。さらなる上達のため、昼休みにも３回来ていただき、教えていただいている。

（４）玉川萩まつりは地域の方々、学校、企業など玉川学区の力を結集して行われている地域のお祭りである。本校を会場の中心として、午前中は幼稚園、小学校、中学校、高校の発表が行われている。午後からは、模擬店やふれあいコーナーなど子どもたちがとても楽しみにしている取り組みがある。子どもたちだけでなく地域の方も笑顔になるような内容になっており、子どもたちと大人が楽しくコミュニケーションが取れる場となっている。

■　実施に当たっての工夫

〇玉川小学校の地域協働合校の伝統として行われている活動を大事にしている。行事が終わった後に地域のみなさんと反省会をもち、来ていただいた方とその日のうちに話し合って次年度に生かすようにしてきた。毎年、必ず行事を見直しより良い取組になるようにしている。

■　事業の成果

〇子どもたちは地域の中で生活している。地域の中にはいろいろな技能を持った人がたくさんいるということを地域協働合校の行事を通して学んできた。地域の方とのつながりを持つよいきっかけになっており、登下校時には、挨拶を交わす姿も見られるようになった。中には、地域に帰った時に、地域で関わっていただいているみなさんに感謝の気持ちを直接伝えている子どももいた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇小学生と地域のみなさんとをつないで一緒に活動することで、玉川学区のよさや特徴を知り、玉川を愛する子どもたちが増えてほしいと願っている。玉川のことが大好きといえる子どもになるように今まで続いてきた伝統的な活動を継承しながら、新たな取組を取り入れていきたいと考えている。ただ、現在教えていただいている方たちの高齢化を懸念している。併せて、事業についても活動場所の見直しなども再考する時期に来ている。学校と地域を結ぶ力をもっと高められるようにコーディネートをしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東　～学びの場づくり～」　（南笠東小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
南笠東小学校地域協働合校	ボランティア登録数	60　人
関係する学校 草津市立南笠東小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■その他［　地域公開講座　］

■　活動の概要

本校における地域協働合校推進事業は、南笠東学区まちづくり協議会の中の事業として位置づけられている。そのキャッチフレーズである「素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東」の具体的実践をめざして、まちづくりセンターを軸に展開する事業と小学校を軸に展開する事業がすすめられている。主な活動としては、地域イベントの開催や子どもの環境を育む事業、体験を通じた子どもの成長支援、そして地域の支援を得てすすめる学習などがある。昨年度より、学校への支援を目的とした地域コーディネーターが配置され、新たな人材発掘と事業開拓を進めながら、学校へのボランティア活動の人材を地域から募り、学校支援ボランティアの組織、活動支援の調整を行っている。また、本校では、地域の人と共に学習する機会を設け、地域の人にも学校での学習を体験してもらう地域公開講座の取組を行っている。

【　学区敬老会　】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）まちづくり協議会の事業「学区敬老会」「地域で彩るコラボレーション」に参加

本校では、１・２年生の時に「おいも作り」や「昔遊び」といった行事でお世話になった老人クラブの方に感謝を伝えるとともに、お世話になった地域のお年寄りの方々への感謝の気持ちを育てるために、４年生では、「学区敬老会」にも参加している。

また、３年生は、地域の一員として、交流を図るとともに、日頃の学習の成果の場として「地域で彩るコラボレーション」に参加している。

（２）地域公開講座

一昨年より行っている学校における特徴的な教育活動を保護者や地域の方に体験していただくことで、地域の方々に企業の方と協力しながら本校の教育活動を広く知ってもらう活動である。今年度は、ロボットの簡単なプログラミングを行ったり、湖南企業生き物応援団の方々の協力を得ながら、狼川の水質調査や生き物調査を行ったりした。

また、理科実験では、様々な実験ブースを設けて実験を行った。

【　地域公開講座　】

■　実施に当たっての工夫

〇本校では、１年から６年生まで、老人クラブの方々と関わりを持てるように、どの学年でも交流をとれるようにしている。例えば、低学年では、「おいも作り」や「昔遊び」、中学年では「学区敬老会」や「地域で彩るコラボレーション」である。

■　事業の成果

〇昨年度より地域コーディネーターが配置されたことにより、様々な人材の紹介や地域の諸団体との橋渡しをしていただけた。
〇地域には様々な技能を持った人がいることを知ったり地域の伝統的なものに触れたりすることで地域の良さに気づく児童もいた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇打ち合わせの時間が多く必要になることがあり、その時間の確保をすることが課題となっている。学校・地域双方の良さを最大限に活かすためには、今後も地域コーディネーターの果たす役割が大きく、継続した配置が必要である。
〇今後も活動を充実していくために、地域の人材の発掘を行っていく必要がある。

■　その他

南笠東小学校ＨＰにて様々な活動を紹介しています。
http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

出会い・ふれあい・学び合い　～みんなで育てる山田の子～　（山田小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
山田小学校地域協働合校	ボランティア登録数	90　人
関係する学校 草津市立山田小学校	開　始　年　度	平成 28 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、地元特産野菜や近くの漁港などの地域の良さ、地域の人とのつながりを生かして、山田の子たちを育てる活動に取り組んでいる。また、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・・喜びあい・認め合うことを積み重ねながら、学校と地域が連携し『地域協働合校事業』を進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）ニゴロブナ稚魚の放流

山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、びわ湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。初めて魚に触れた子、初めて船からびわ湖を見た子もいる。この活動を通してびわ湖の環境を考えるきっかけとしたい。

【ニゴロブナ稚魚の放流】

（2）室戸台風殉難慰霊式

本校では、今から 83 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。被害にあわれた地域の方の話を聞き、亡くなられた方々を追悼するとともに、自然の偉大さについて考えさせるきっかけとしたい。
地域の方々とともに、全校で持ち寄った花で献花をし、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌う。

（3）その他

読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、ビニールハウスでのネギ植えと収穫など。

【読み聞かせ】

■　実施に当たっての工夫

〇これまで学年担任で調整などを行ってきた取組を、地域コーディネーターを窓口に移行していくことで、よりスムーズに調整が進み、より内容のある活動になるようにしている。
〇校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け、それぞれの学年の取組について広め、見通しが持てるようにしている。また、地域のボランティアさんの顔写真を掲示し、様々な場面でお世話になっている地域の方々の顔と名前がわかるようにしている。

■　事業の成果

〇掲示板を見つめる子どもの姿がよく見られる。「この人、知ってる！」「〇年になったらこんなことができる！」という歓声もあり、地域の方とのふれあいを楽しみにしている姿が見られた。
〇歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあるので、様々な体験ができる環境にあり、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。そのため、アンケート等で「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域の高齢化が進み、恒例の学習も実施が困難なケースがでてきている。学習自体は続けたいので、地域コーディネーターを窓口に人材発掘を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

協力して育つ　共に育つ　響いて育つ　子どもの夢育て　（笠縫小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
笠縫小学校地域協働合校	ボランティア登録数	85　人
関係する学校 草津市立笠縫小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

開校 140 年を過ぎ、歴史と伝統のある笠縫小学校では、「自育」「和協」「勤倹」を校訓に、また、「夢と笑顔いっぱい　生き生き学ぶ笠縫の子」をめざす子ども像として、温かく協力的な地域の方々の支えを得ながら教育活動を進めている。本校では、地域の方との活動を進めていくにあたり、「栽培体験合校」、「地域の人と学ぶ合校」、「読書推進合校」、「地域安全・学校安全合校」の４つを柱に据え、それぞれの活動において地域の方々の指導や支援をいただいている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験合校

３年生の総合的な学習の時間では、学区にお住いの「アオバナの先生」を招き、苗の植え方や世話の仕方を、実演を交えながら教えていただいた。子どもたちは先生の教えをしっかり守って熱心に世話を続けた。その甲斐があって７月には多くの花が咲き、摘んだ花でハンカチを染める活動を行うことができた。

（２）地域の人と学ぶ合校

６年生の総合的な学習の時間では、学区の伝統である「サンヤレ踊り」、「講踊り」、地域で生まれた日本画家の野添平米さんや横井金谷さんについて学ぶ機会を設けている。子どもたちを３つのグループに分け、実際に地域に出向いて地域の方より話を聞いたり実演を通したりして学んでいる。その後、学んだことをタブレットパソコンや画用紙などにまとめ、低学年の子どもたちに自分たちの学びを伝えている。

たんぽぽ学級（特別支援学級）の子どもたちは、年に１回、学区の民生委員児童委員さんと製作や調理などの交流を行っている。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備いただいたりと、積極的に関わってもらっている。

（３）読書推進合校

ＰＴＡで組織する読書ボランティア「お話の森」のみなさんによる読み聞かせを２～３週間に一度、朝学びの時間（15 分間）に各学級の教室で行っている。

（４）地域安全・学校安全合校

子ども見守り隊の方々による登下校の見守りを行っている。長年続けていただいている方も多く、見守るだけでなく指導もしていただいている。１年間の感謝とお礼を伝える場として、修了式に見守り隊の方をお招きしている。

【アオバナの世話の仕方を学ぶ】

■　実施に当たっての工夫

○地域のよさを感じたり学校や校区のことを詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かかさに触れたりするような活動を大切にしていきたいと考え、教科等との関連をふまえ、活動を仕組んでいる。

■　事業の成果

○コーディネーターの方をはじめ、継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、教員以上に活動を把握されており、主だった活動にスムースに取り組むことができている。民生委員児童委員さんのように、進んでアイデアを出していただくこともあり、地域の子どもたちの育ちに自分たちも積極的に関わっていこうとされる姿は、学校にとっても本当にありがたいことである。

【地域の方から講踊りを学ぶ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○継続してボランティア活動に取り組んでいただく方が多いものの、一方で新たな人材を見出していくことが課題である。その上で、コーディネーターとの連携は大変重要であるが、コーディネーターに任せきりになっている状況である。今後は、連携を密にして人材の発掘につとめていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ ○ ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子　（笠縫東小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
笠縫東小学校地域協働合校	ボランティア登録数	100　人
関係する学校 草津市立笠縫東小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は、学校横を流れる葉山川をはじめとする豊かな自然環境と、学校に協力的な地域住民が多いという人的環境とに恵まれた学校であり、これまでから、たくさんの地域の方々と協力して教育活動の充実に努めてきた。

全学年が取り組む「葉山川学習」（環境学習）や「東っ子句会」、３年生の民生委員さんとの交流会、５年生の田んぼの学習、６年生の自分で作った茶碗による茶会などの学習活動、高学年の「ようこそ先輩ただいま授業中」などの活動を通して、地域や家庭の教育力の向上を図るとともにふるさとを大切に思う子どもを育成しようと取り組んでいるところである。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

草津市は、俳諧の祖といわれる「山崎宗鑑生誕の地」であり、草津市も草津市教育委員会も「俳句のまち草津」の取組を行っている。それを受けて、本校では、全校の児童が日頃から季節ごとに俳句を詠む活動を行っている。これは、本校の環境学習「葉山川学習」ともリンクしており、葉山川沿い遊歩道で四季の移ろいを観察し言葉にすることを大切にしているのである。葉山川周辺だけでなく、身のまわりや日々の生活の中においても季節感を感じ、俳句で表現する子どもが増えてきた。そこで、地域住民も巻き込んだ「東っ子句会」を３年前から行っている。

・みんなで選ぶ「東っ子句会」

全校児童が春・夏・秋の季節ごとに詠んだ俳句の中から、学級ごとに季節別に５句ずつを選び、多数の来校者がある「地域ふれあい東まつり」の日をはさんだ 10 日間程度、校舎１階廊下に展示する。

俳句を鑑賞し、良いと思う俳句を 1 句選び投票する。

児童・・・学年部（１年生と２年生、３年生と４年生・・・）で互いに投票し合う。

地域住民・保護者・本校職員・・・各学年に１票を投票できる。

期間の終わりに開票・集計し、学年ごとに投票数の多かった句から順に金・銀・銅賞を与え、開票結果を知らせる。（校内・地域）

★渡り鳥オレンジキャンパス絵を描く（６年生　金賞）

★どんぐりにおちてきてねといいました（１年生　銀賞）

【お気に入りの俳句を選ぶ地域の方】

■　実施に当たっての工夫

〇「東っ子句会」の実施や方法について、学校便りなどで保護者・地域に広く知らせる。
〇多数の住民が来校する「地域ふれあい東まつり」の日に行い、地域住民が参加しやすくしている。
〇昨年度の優秀句や今年度の優秀句を広く知らせ、「東っ子句会」を定着させる。
〇句会に関わる作業のほとんどを地域コーディネーターが中心となり実施することで、担任等の負担が軽減されている。

【句会を盛り上げる掲示板】

■　事業の成果

〇俳句を詠むことがさらに楽しくなり、「東っ子句会」によって学校全体が活気づく。
〇児童・教職員・保護者・地域住民が協働して選んだ「今年の優秀句」が誕生し、学校の取組が地域の関心事となる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇「東っ子句会」において、地域住民の詠んだ俳句も展示し、内容のレベルアップを図るとともに地域住民と児童との関係をさらに深めたい。また、他の地域との協働活動の様子や成果も、地域コーディネーターが校内の掲示板を通して広報しており、活動が益々活性化する。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさと　大好き　常盤っ子　（常盤小学校）

草津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
常盤小学校地域協働合校	ボランティア登録数	200　人
関係する学校 草津市立常盤小学校	開　始　年　度	平成 27 年度 （地域協働合校事業は平成 10 年度から実施）

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

学校と家庭、地域が、一体となり、子どもたちを見守り、支えていくことを目標に活動を展開している。子どもたちが、地域の方との交流を通して、自分の生まれ育った場所（ふるさと）に愛着や誇りが持てるように取り組んだ。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「米づくりと環境学習」

５年生の総合的な学習の時間で、米作りを通して食べ物のありがたさや環境の大切さについて学んだ。地域の農家の方の協力を得ることで、学校の近くの場所で稲を見守り、成長の喜びを感じながら米作りをすることができた。また、田んぼにニゴロブナを放流し、田んぼとつながる水路の生態系を考えることを通して、食と環境のつながりについて学んだ。また、ふなずし作りを通して、滋賀の食文化を知り、その文化を守っていくことの大切さを学んだ。常盤学区には、伝統的なふなきり神事や家庭でふなずしを作る文化が、受け継がれている。子どもたちは、実際に伝統を受け継いできた方に思いを聞いたり、一緒にふなずしを作ったりする中で、地域に一層愛着を持ち、ふなずしなどの伝統的な食文化をより身近に感じることができた。

（2）「フラワープレゼント」

４年生の総合的な学習の時間に地域の高齢者に折り紙で折ったスイセンの花を表した色紙を届けている。30 年近く地域のみなさんの家を訪れプレゼントをしてきた。地域のみなさんは子どもたちが作った色紙をとても喜んでいただき毎年楽しみにしていただいている。子どもたちは自分の住んでいる地域のみなさんとの交流を通して地域コミュニティの大切さを学んでいる。

■　実施に当たっての工夫

〇学校のコーディネーター担当者と地域コーディネーターとの打ち合わせの時間をとり、担任とのパイプ役になるように心がけた。
〇担任から出てきた要望を地域コーディネーターに伝え、地域のみなさんとの連絡と調整にあたっていただいた。
〇子どもたちにとって有意義な活動を残していくために取組が終わった後、地域コーディネーターとボランティアのみなさんと一緒に反省会をもち、次年度に生かすことができるようにしている。また、反省の内容を記録し、誰もが地域協働合校の担当となってもよいようにしている。

■　事業の成果

〇たくさんの活動に地域の多くのみなさんに協力をしていただいた。そのおかげで子どもたちにとって関心を持つことの大切さ、やりきることの喜びが得られる体験が多くできた。
〇子どもたちと地域の方が様々な活動を通して交流することで、子どもたちには地域に対する愛着や地域のみなさんに支えられ助けられていることを実感することができた。また地域の方には子どもたちとの交流を楽しんでいただいた。そして、地元の学校として自分たちが学校を支えていくのだという意識を再確認していただくことができた。

【５年生　米づくりと環境学習】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域コーディネーターのおかげで、教師の負担が軽減されてきたが、子どもの実態にあわせた対応について細かく打合せる十分な時間を確保することが難しい。地域の方に多く関わってもらえばもらうほど、綿密な打ち合わせや連絡が必要になる。また、地域や学校のコーディネーターが変わる時期にも十分な時間をとり細かい点まで打ち合わせていないとうまくいかない。
〇外からの要因で今まで続けてきたことが縮小せざるを得ないときがある。全体的なカリキュラムの中で教科と関連づけてどのような計画を立て学習するのかという対応が早くから行うようにしていかなければならない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

栗東市における地域学校協働本部の取組

■　目指す姿

地域の方々のご理解、協力を得ながら、学校における諸活動において、健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は９小学校、３中学校を有しているが、そのうち１中学校において、地域学校協働本部を設置している。

本部設置校では、生徒指導面における学校支援を目的として、地域サポーターの方々により組織された団体が基幹となって活動を進められ、地域ぐるみで青少年の健全育成や、学校や家庭での教育活動支援に取り組んでいる。

この活動を通じて深まった地域と学校との連携が、青少年の育成に良い影響をもたらすとともに、他校へと広まっていくことにより、市全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上を目指したい。

■　本年度の具体的活動

（１）学習環境支援
（２）図書室支援
（３）環境整備支援
（４）通学マナーアップ
（５）学校行事支援
（６）栗中コミュニティガーデン
（７）部活動支援

【学習環境支援】

【栗中コミュニティガーデン】

■　本年度の成果

・４月 27 日、28 日、５月１日、２日、８日の、５日間、みんなの生活向上部活隊として部活に加入しているのべ約 300 名の生徒たち、および 30 名のサポーターが参加し、近隣のゴミ拾い清掃活動を実施し、地域の環境美化に取り組んだ。
・定期的に図書室の清掃と、本棚の整理を行なった。７月上旬に今年度の新書が入荷したことから夏休みの期間も整理作業を行なった。清掃ではカーペットに絡んだたくさんの髪の毛を、徹底的に取り除いた結果、床がきれいになった。
・６月、８月に野菜の苗植え、種まきを実施しました。収穫した野菜については 11 月のチャレンジウィーク起業体験で販売した。

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働本部が未設置の学校へどのように広めていくか、スタッフやボランティアの人材確保等に課題がある。

スタッフやボランティアを募集した際に、「学校関係の活動に対する協力」となると身構えてしまわれる方が多く、協力していただける方が少ない。ついては、地域住民に対して、この活動に対する理解を深めてもらえるような情報提供や、参加しやすい環境を整えることが重要である。

また、現状においてコーディネーターへの負担が大きくなっていることから、今後は、コーディネーターの負担軽減についての取り組みも必要である。

地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域事業本部「栗中サポーターズクラブ」　（栗東中学校）

栗東市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」	ボランティア登録数	40　人
関係する学校 栗東市立栗東中学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校の本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成 19 年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を増やす取り組みからスタートした。現在、40 名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と 38 社の本部をサポートする地域事業所「栗中ブースター」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く地域学校協働活動を実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）**学 習 環 境 支 援**　：　美化活動や危険箇所の点検を兼ねながら廊下から授業を見守る支援（月２回程度）
（2）**図 書 室 支 援**　：　新着図書の蔵書作業や、本の整理、環境整備など
（3）**環 境 整 備 支 援**　：　破損箇所修理や植栽伐採、ＰＴＡ環境整備支援、家庭部員との協働雑巾作りなど、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援
（4）**通学マナーアップ**　：　登下校時の危険箇所での立番活動
（5）**学 校 行 事 支 援**　：　生徒との地域ゴミ拾い活動、校外学習時の立番　チャレンジウィーク起業体験支援
（6）**栗中コミュニティガーデン**　：　生徒とサポーターさんとの協働運営菜園で野菜の栽培、収穫支援

■　実施に当たっての工夫

〇活動計画を、事前に、サポーター会議を開いたり、サポーター通信などで会員さんに周知。申し込み制。申し込み状況を把握しながら、事務局からも働きかけ、人数調整をする。
〇専用のユニフォームを着て、活動が一目でわかるようにする。保護者さんや地域の方にも、理解協力が得やすい。
〇月１回発行。保護者や地域の役員さんにも配布し、活動の様子を伝える。近隣の生徒が通信を届け、地域とのつながりの機会とする。
〇無理のない範囲で、生徒たちと一緒に活動することを心がけ、温かで心豊かな生徒の育成をめざす。
〇活動の様子を校長室前掲示板に掲載。来校されたお客様にも幅広く活動を知っていただく。
〇活動時だけでなく、活動の前後や、活動計画を立てるときに利用していただく。なごやかな雰囲気の中、交流も深まり、いろんな感想や意見を聞くことができる。

【雑巾づくり支援の様子　】

【近隣地域ゴミ拾い】

■　事業の成果

〇規律や安全面での支援

月１回から２回程度、通常時、授業の廊下からの見守り、三者懇談会中の放課後には駐輪場やグラウンドの巡回、校外学習時には駅周辺の見守りなど、学校行事で手薄になりがちな箇所を支援できている。また、樹木の伐採や側溝の溝掃除、校内環境整備など学校が求める支援ができている。

〇図書室支援による担当教員の負担軽減

図書室支援・・図書室の本の整理やカーテンレールの修理、じゅうたんの清掃などの環境整備、新着図書の蔵書作業支援により生徒たちが図書室を利用しやすい環境を作っている。

〇サポーターとの協働による生徒の心の醸成・サポーターの活躍の場の提供

種まきや苗植え、収穫した野菜を起業体験で出荷する作業を通して、野菜を育てる喜びを実感するとともにサポーターさんから温かいご支援をいただき心の醸成につなげている。近隣のゴミ清掃を通してゴミの多さに気づき、そのことについて考えるきっかけを提供、雑巾作りを通して校内環境整備に協力したり等、授業とは違った学びがある。ミシン掛けが苦手な生徒への支援にもなった。また、家庭部員との着付け教室や生け花指導、エコロジー委員との畑作業など、サポーターさんの専門知識を生かした活躍の場の提供にもなっている。

〇全体を通して

校内での活動と地域に目を向けた校外での活動を、長年にわたり、途切れることなく続けている。今までに関わってこられたたくさんの方々のご努力のたまものである。生徒たちは、ユニフォームを着たサポーターさんを自然な形で受け入れ、和やかな雰囲気であいさつをしたり会話を交わしたりできる。開かれた学校づくりに貢献していただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

サポーターさん自身の高齢化が課題である。徐々に引き継いでもらえるように取り組みたいが、体調面などで参加いただけないこともある。保護者の加入も呼びかけている。活動を続けていくうえで、幅広い年齢層の方に参加いただけるよう呼びかけていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

湖南市における地域学校協働本部の取組

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げている。「生きる力の根っこ」とは自尊感情であり、「学力向上プロジェクトによる学力保障」、「こころの教育の推進による仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。取組には、学校・家庭・地域が力を合わせて子育てにあたることが大切であることから、学校教育だけで子どもを育てるのではなく、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールとの協働を子ども育ての基本としている。そのため、「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

〇市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議　年３回

第１回　４月 25 日(火)　・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与　・地域学校協働活動推進事業等の進め方について

第２回　６月 13 日(火)～９月 29 日(金)　第３回　12 月５日(火)～１月 16 日(火)

・地域学校協働活動推進事業、コミュニティ・スクールの取組の動向について

・小中連携、小小連携、中高連携を重視した各校の事業取組の交流や情報交換等

〇学校評議員・学校運営協議会理事・地域学校協働本部委員、地域まちづくり協議会役員、教職員、地域ボランティア等合同研修会(兼：運営委員会、事業成果報告会)　平成 30 年２月 20 日(火)

１）功労者感謝状贈呈４年次　２）実践発表　下田小学校の取組発表

３）講演「これからの学校と地域の連携・協働の在り方」

講師　天理大学人間学部 准教授　佐々木　保孝 氏

■本年度の成果

・地域コーディネーター、事業コーディネーター、学校の管理職等を中心に４中学校区ごとに主な取組内容の情報交換、児童・生徒の姿から成果と課題の交流を行い、学校や地域の特性を生かし、児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組となるよう年々工夫・改善を加えている。

・地域学校協働活動の従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「学習支援」等に加え、学校が「つなぐ」役割を果たし、小学校で「土曜日の教育支援活動」、中学校で「放課後子ども教室」により、「学力補充、進路保障のための学習支援」や「体験活動」の取組を積極的に実施し、地域との協働による児童・生徒の学力保障に努めている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各地域学校協働本部の経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やＮＰＯ法人等との連携・協働を一層進めていきたい。

【地域の方に折り紙を教わる小学生】

【まちづくりフェスタへ参画する中学生】

感謝の気持ちを持って地域と共に米づくりにはげむ　いしべっ子　　（石部小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
石部小地域学校協働本部（石部小学校応援団）	ボランティア登録数	180　人
関係する学校 石部小学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標として、学校と地域が協働して活動を展開している。今年度、石部小学校学校運営協議会の体験的活動支援委員会では、５年生が取り組む田んぼの授業(米作り)を、子どもたちの生きる力となるように、学校と地域が連携・協働して活動が行われるようにした。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）田んぼの授業(米作り)

４月　肥料まき
５月　田植え
７月　草取り
11 月　稲刈り

（２）もちつき大会

日程　　平成 29 年 11 月 21 日(火)
場所　　石部小学校
〇支援員数：17 名
〇支援員の属性：体験的活動支援委員、ふれあい農業石部 21、地域、保護者

【事前学習の様子】

■　実施に当たっての工夫

〇児童が体験する前に、田んぼの準備、種まき、育苗、田植え、稲刈り、使用道具などを昨年度一年間の流れを写真で記録し、拡大資料を作成し、事前学習を行った。児童も自分たちで米づくりについて調べ、具体的な内容について質問等を行った。

〇収穫したもち米でのもちつき大会は、体験的活動委員会に学年の学級委員(保護者)に参加してもらい、スケジュール、使用道具、必要物品を確認し合い、保護者と協働して、児童にもちつきの体験をさせることができた。児童は収穫に感謝し、自分たちの活動を支えていただいた方々に感謝をしてもちつきを行った。

■　事業の成果

〇米作り１年間の拡大資料で事前学習を行ったので、子どもたちがこれから行う体験が米作りのどの部分か詳しく学習できた。

〇拡大資料は学校保管としたので、ふりかえりの授業でも確認することができた。

〇もちつき大会は、昨年度まで学校側が主となり活動を行っていたので、教職員の負担を軽減することができた。

〇杵と臼でのもちつきを行っている家庭が減少している中、貴重な体験となった。

【もちつき大会の様子】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今後も体験だけではなく、一歩進んだ体験学習にするために、学校と地域が連携・協働することが大切である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

森林環境学習　～みどりのバトンタッチとともに～　（石部南小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
みなみっこ地域学校協働本部（みなみっこ応援団）	ボランティア登録数	175　人
関係する学校 石部南小学校	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要
・市有林・学校林を活用し、身近な環境に親しむ。
・森林の学習や木を活用した製作活動ならびに森林緑化活動を通して、環境と自然保護の精神を養う。
・地域の多くの人材を活用し、森林ボランティアを組織して地域住民の交流の場と憩いの場をつくる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）間伐体験　（２）シイタケの駒打ち体験（３）木工教室

■　実施に当たっての工夫
〇間伐体験（４年生）
・事前学習の実施・・・間伐がなぜ必要なのかを学び、間伐するための手順を学習。
木を切り倒すという作業を行うため、十分な説明が行われた。
・間伐作業・・・・・・各グループに、2～3名のボランティアが入って、指導・支援を行う。
櫛形の切り込みの入れ方や倒れる方向などそれぞれの作業過程で丁寧な説明がされた。
〇シイタケの駒打ち体験（３年生）
・事前学習の実施・・・シイタケ駒打ち体験が行われるまでに、事前学習の時間を確保。
・駒打ち作業・・・・・ホダ木に穴を開ける作業では、電動ドリルを使用するため、使い方や持ち方など危険がないように
ボランティアが指導・支援を行った。
当日は、一人１本ずつホダ木に穴を開けて、シイタケ菌を木づちで打ち込んだ。
ホダ木は裏山で１年間寝かせた後、４年生の冬に移動させ、春の収穫を待つ。
〇木工教室（４年生）
・計画・・・・・・・・子どもたちが作りたいものを話し合って決定した。
・製作・・・・・・・・材料は、製材した間伐材。今年度は学校農園へ渡る橋と、百葉箱の柵を製作。

■　事業の成果
・本事業を３年生・４年生の教育課程の中に位置づけることで、本校の児童は必ず森林に親しむ体験活動を行うことができる。
・間伐体験では、間伐の大切さを知ることはもちろん、仲間とともにやり遂げることの喜びを味わうことができた。
・木の皮をむくへらや、ホダ木に穴を開ける電動ドリルなど、初めての道具も体験することでうまく使えるようになった。
・４年生木工教室では、自分たちが作りたいものを考えることができ、製作したものは全校のために役立つものとなった。
・活動を通して、地域ボランティアとのよりよい関係が結ばれた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・木工教室の作業工程が４年生の発達段階には難しいところもあり、作業時間が足りず時間内に完成できないことがある。
・ボランティアさんの高齢化・・・技術をもったボランティアの育成が必要

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　〇　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　〇　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

【　木工教室でベンチの製作　】

【　力を合わせて！間伐体験　】

心豊かに育て みくもっ子　～地域の皆さまのあたたかいまなざしのなかで～　（三雲小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	３　人
みくもっ子地域学校協働本部	ボランティア登録数	290　人
関係する学校 三雲小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

歴史と伝統のある三雲小学校では、各世代に卒業生が多く、学校教育に理解のある人材が多い。その中から、登下校の安全、環境整備と学習に関わる支援をいただいている。また、その人材を中学校へつなぎ、子どもたちの９か年を見据えた支援活動となっている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）スクールガード等　　登下校時の危険箇所の見守り、同行、あいさつ

（２）教育環境の整備　　【環境ボランティア】花壇植栽（委員会活動と連携して）草刈、遊具の修繕など
【掃除ボランティア】掃除方法の指導
【図書ボランティア】図書室の整理整頓、読み語り、おはなし会（掲示、放送委員会と連携して）
【昼休みの見守り】　折り紙教室等　（掲示、放送委員会と連携して）

（３）学習の支援　　【田んぼの応援団】　【町たんけん】　【家庭科ミシン】　【持久走大会危険箇所見守り】
【ふれあい食育教室】

【アスレチック遊具の修理】

■　実施に当たっての工夫

○各ボランティアの中から代表の方に立っていただき､円滑に活動ができるように、一方的な支援の依頼にしないよう心がけた。

○児童の委員会活動の時間を利用するなど、子どもたちと一緒の時間に活動できるよう働きかけた。

○単純にボランティアの人数を増やすのではなく、普段から子どもたちをよく知り関わっている地域の方と繋がっていくことを心がけている。

■　事業の成果

○三雲小学校でボランティアに関わった方が、甲西中学校での読み語りや放課後学習の支援に入るなど、子どもに寄り添う９か年の見守りができている。

○地域ボランティアと一緒に活動し、交流することをきっかけに、校内外で子どもたちとボランティアが声を掛け合う間柄となった。

○活動を地域に知らせる広報誌により、地域の方に理解していただき、ボランティアに参加する人材を得た。

【昼休み 折り紙教室】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○一足飛びに双方向の活動に持っていくことは難しいが、ボランティアの代表者会や懇親会を持ち、地域の願いを取り上げていきたい。
○息の長い活動になるよう、定番のスタイルで無理なく続けていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域との情報交換で共通理解を深め、子どもの見守り活動に工夫をプラス　（三雲東小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
東っ子地域学校協働本部（東っ子応援団）	ボランティア登録数	130　人
関係する学校 三雲東小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■その他［　農園活動　］

■　活動の概要

ここ数年の間、校区内の道路工事等に伴って危険箇所が増え、通学路を変更することが度々である。地域で立ち当番をしてくださる方からも交通事情や児童の安全な登下校を心配する声を伺うことがある。児童を取り巻く交通事情の変化を地域にも伝え、学校・地域・保護者みんなで安全への取組を続けている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

登下校時の安全見守りは東っ子地域学校協働本部が立ち上がる以前から地域の協力により有志の間で始まった。本部が立ち上がってから各区長、交通アドバイザーと連携し、週に一度、１年生だけで下校する日は各区から付き添って帰ってくださるスクールガードの皆さんが学校まで児童を迎えに来てくださっている。

校区内、全地域から支援していただけるようになって５年目になる。

■　実施に当たっての工夫

〇学校・地域（各区長）・交通アドバイザー・スクールガードの皆さんとの情報交換を心がけた。
〇地域から協力者の少ない日などは、保護者の協力を募集した。
〇「応援団だより」で協力の様子を伝え、今後の協力者募集の呼びかけに力を入れた。
〇地域コーディネーターがスクールガードの皆さんや立ち当番の方の窓口になって連絡・調整を行い、スムーズに連携を行えるようにした。
〇学校まで迎えに来てくださるスクールガードの皆さんが高齢化により減少しつつあるので、自宅近くで登下校時に見守り立ち当番をしてくださるようお願いした。

【スクールガードの皆さんのお迎え　】

■　事業の成果

〇つながりが増えることで各方面から協力者を募ることができた。
〇地域コーディネーターが窓口になることで協力してくださる方との情報交換がしやすくなった。
〇１年生の児童が自分の地区担当のスクールガードの皆さんの顔や名前を覚えるきっかけになった。地域ボランティアからも声をかけやすくなった。
〇高齢化によりメンバーが減少しつつも、各方面から声かけできるようになり、継続参加してくださる新メンバーも増えてきた。

【　登校時の子どもの安全見守り活動　】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域（各区）の区長さんが２年で交代する。スクールガード募集の声かけの引き継ぎがうまくいく年もあれば４月、５月につまずく年度もある。年度初めからスムーズに連携できるようなシステムを定着させたい。
〇スクールガードの皆さんの多くは、数年にわたり継続参加してくださっている。年々減少しつつあるので、学校、地域とも話し合い、無理なく参加していただけるように年々見直していくことが必要になっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　〇　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　〇　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」を地域とともに　（岩根小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
岩根小地域学校協働本部（ 根っこ応援団 ）	ボランティア登録数	220　人
関係する学校 岩根小学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

岩根小学校は、開校 143 年目の歴史ある学校であり、今年はコミュニティ・スクール 11 年目にあたる。「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小教育方針の合い言葉として定着している。ボランティアの皆さんもそれぞれの活動のなかで「どのようにしんどい子によりそうのか」、「子どもをお客さんにしないためにはどうすればよいのか」を考えて行動していただいている。地域の教育力を生かしながら、子どもたちの今日的課題の解決と豊かな学びの実現をめざしている。昨年度、学校に支援してくださった地域ボランティアはのべ 3,500 人にのぼる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）11 あるクラブ活動の全てが地域の先生であることが特徴としてあげられる。手話やお茶（茶道）では、日曜日に行われるまちづくりフェアにも参加し、子どもたちは、まちづくりにも貢献した。

（2）ホタルまつりでは、ホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会を開催し、地域の方とともに、子どもたちに郷土愛・自然環境保護の思いを育てる活動を展開した。「ホタルまつり」当日は地域の方も多数お越しになり、６年生が「お店活動」「ホタル学習の成果発表」で活躍し、自分たちで「やりきった達成感」を得ることができた。このホタルまつりには、子ども、保護者、教師、地域の方、岩根まちづくり協議会の方、学校運営協議会理事などがそれぞれの良さを活かして運営しており、その姿は、岩根小学校が災害の避難場所になった場合に、そのまま当てはめて活動できるものとしても価値がある。

■　実施に当たっての工夫

〇日頃、子どもとのかかわりで、気になる行動があった時に、ボランティアや教員としてどう対処していけばよいかについて、意見を交換する場を持った。「暴言を吐いてしまう子がいたとき」「何でも一番でないとすねてしまうとき」「ボランティアをしているのに目の前の活動を嫌そうにして参加しようとしないとき」など実際にあった場面例をもとに、子どもとのかかわりのあり方や普段の苦労など自由に話し合った。

〇ホタルまつりの実行委員会は夜に行うが、児童の意見を反映するために学級で事前に話し合いを行い、その内容を実行委員会で活かすようにしている。

■　事業の成果

〇昨年度から上記の活動に加えて、その時に必要なボランティアを集める「根っこ応援団」を募集し、活動を始めた。運動会の玉入れの玉づくりと持久走大会のスタッフボランティアを募集した。玉づくりでは、子どもたちと一緒に玄関ホールで笑顔いっぱいでふれあいながらつくる姿が見られた。運動会では、地域の方も参加していただき楽しい玉入れを行うことができた。

〇まちづくり協議会との連携を持ち、運動会で防災の種目を取り入れることができた。親子種目で低学年は防災バケツリレー、中学年は防災担架リレー、高学年は防災二人三脚リレーを行い、地域防災の意識を高めた。

【防災二人三脚リレー】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇すべての保護者、すべての地域の方に、こうした活動や理念を理解してもらっているとはまだ言えない状況がある。今後、新たな理解者・協力者を作り出していきたい。

〇まちづくり協議会との連携により、今年度から防災の種目を取り入れた運動会、長期休業中の学習会を実施することができたが、さらに連携・協働を深めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ボランティア活動を通して子どもを支え、見守り、育てる　（菩提寺小学校）

湖南市 菩っこを育てる会	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
菩っこ地域学校協働本部（菩っこを育てる会）	ボランティア登録数	220　人
関係する学校 菩提寺小学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

「菩っこを育てる会」を組織（学習、環境整備、安全見守、広報）。４つの支援にリーダー・副リーダーを設置し、学校と地域の連携をしやすくした。

【きらめき遠足　危険箇所での見守り】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）きらめき遠足

全校児童で実施する遠足。学校から目的地（希望が丘文化公園）までの行き帰り、400 名以上の大人数での移動になる。危険箇所がいくつも有り、児童の安全はもちろんだが、公道を利用する方たちに迷惑がかからないよう、チェックポイントに多くの地域ボランティアが立ち見守ってくださった。

全児童を 18 班（たてわり）に分け、上級生が下級生のサポートをしながら活動する 遠足だが、担当の職員だけでは安全に見守ることが難しいため、地域や保護者にも活動中の見守りを手伝ってもらう同行ボランティアを募り、多くの方に協力していただいた。

（２）緊急時児童引き渡し訓練

実際の災害を想定しての訓練のため、学校だけでなく家庭や地域の協力が必要とした。「菩っこを育てる会」を中心に地域の皆さんに声かけをし、当日のサポーターを募ることができた。

【緊急時児童引き渡し訓練
県道からの進入を制限】

■　実施に当たっての工夫

○タウンメールを利用し、保護者だけでなく地域の人にもボランティア登録（学習・環境整備・安全安心・広報）をしていただいた。
○遠足のボランティアを募る際、地域を中心に案内を出していたが、全児童（保護者宛）配布も実施した。
○学校側がお願いするだけでなくボランティア側からの意見を伺い、よりより活動になるように努めた。

■　事業の成果

○きらめき遠足

遠足コースの危ない箇所に立ち児童を見守ってくださる姿を見て、自分たちは地域の人たちに見守ってもらっていると益々実感することができた。同行してもらったボランティアの人には、一日一緒に活動したことで、普段ではわからない子どもたちの様子を知ってもらうことができた。

○緊急時児童引き渡し訓練

一本道の坂道を登り切った場所に本校があるため、車が乗り入れると車の往来と人の流れとで危険だと、以前から参加のボランティアの皆さんの考えで、県道からの車の進入を制限した。その際、乗り入れ口付近では地域ボランティアの皆さんが対応してくださった。また、保護者も進入禁止の件は充分に理解し協力的だったため、引き渡し訓練はスムーズに終えることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○タウンメールでの活動予定情報やボランティア依頼を充実させるためには、多くの地域の方に登録してもらえるような発信をしないといけない。
○学校・家庭・地域のお互いの顔を知るための場づくりを充実させたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域・学校の協働でふるさとづくり　あすなろカーニバル＆夏休み減災キャンプ　（菩提寺北小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
あすなろ地域学校協働本部（あすなろ応援団）	ボランティア登録数	120　人
関係する学校 菩提寺北小学校	開　始　年　度	平成 21 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校は、新興住宅地の中にある小学校で、住民は全国さまざまな所から集まってきている。ここで生まれ育つ子どもたちに、学校を核としたふるさとづくりをしよう、ということから始まった「あすなろカーニバル」も第９回目を迎え、そこに集う、児童・保護者・地域・教職員の親睦の輪が毎年広がってきている。また、減災キャンプは災害が起こった時に避難所となる小学校で減災キャンプを行うことで準備の訓練をした。

【　あすなろカーニバルの様子　】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）あすなろカーニバル・・児童もお客さんではなく、模擬店やバザーや工作の指導なども担当しボランティアとして活動する

（2）あすなろ減災キャンプ・・レクリエーションキャンプではなく、実践に即したキャンプを夏休みを利用して避難所に指定されている菩提寺北小学校で開催した。なるべく親子での参加を促進している

【　かまど作り＆起震車体験　】

■　実施に当たっての工夫

〇あすなろカーニバルは、年々盛大になり、ボランティアの人数も 100 人を超えるようになってきた。地域の老人会などにも声をかけ普段あまり小学校に馴染みのない人も昔遊びやもちつきなどにボランティアとしてとして参加してもらっている。

〇減災キャンプは、食事もサバ缶詰だけでつくるサバカレーや、朝も冷や汁にするなどして、我慢をすることも体験するようにしている
お風呂はドラム缶風呂である。子どもは大喜び！

■　事業の成果

〇あすなろカーニバルも減災キャンプの準備も運営も全て、学校を拠点に集まった地域の方である。ここで顔見知りになり、いろいろな場面で、交流が生まれてきている。実際災害などが起こっても、ともに体験してきた仲間であれば、避難所などの運営もスムーズにいくはずである。また、子どもたちは地域の人々に守られ育っていく。大人になって今度は自分が地域を守ろうと思ってくれれば、このプロジェクトは成功だと言える。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇来年度は、あすなろカーニバルを始めて 10 年になる。少しマンネリ化してきた感もあるので、続けていく事の大事さは当然なこととし、さらに実のあるものにするための精査が必要だと思われる。減災キャンプは、参加者をもっと増やしたいと思う。告知を行い、魅力ある内容にしたい。

■　その他　　菩提寺北小学校　　http://www.edu-konan..jp/bodaijikita-el

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

～「地域の思い」を学校に ～　下田っ子応援隊 なすびぃずの取組　　（下田小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
下田小地域学校協働本部（下田っ子応援隊 なすびぃず）	ボランティア登録数	70　人
関係する学校 下田小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

下田小学校では、多数のボランティアによる活動が行われてきた。これまでもボランティア活動のなかで気が付いたことや、改善してほしいことなど、コーディネーターを通じて学校に伝えていたが、今年度よりコミュニティ・スクールとなったことで、地域の方々の思いや意見を学校運営協議会理事会や各委員会で話していただく機会が増え、学校に「地域の思い」が届きやすくなった。

それに伴って「地域の思い」が反映されたボランティア活動が実施されるようになった。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）掃除ボランティア「コメットさん☆彡」の活動
- 掃除の時間（13：30 ～ 13：50）での掃除方法の指導や、補助
- 担当場所の掃除方法や順序などのマニュアルの提案、作成
- 掃除道具の管理についての提案　　等

（２）「暗唱チャレンジタイム」での暗唱チェックボランティア
- 月に１度の暗唱週間で覚えた『ことばの宝石箱』の詩を「暗唱チャレンジタイム」で暗唱し、各項目ができているかのチェックをする

【チェック項目の例】
○あいさつができている
○大きな声ではっきり言うことができる
○一文字も間違えず言うことができる　　等

【暗唱チェックボランティア】

■　実施に当たっての工夫

（１）・マニュアルを作成するためにボランティア活動で気になったこと等を話し合った。
・常にボランティアが活動できるわけではないので、子どもたちの様子や、気が付いたことを記入できるように日誌を置いている。

（２）・先生方と同じ基準でチェックができるように地域ボランティア対象に説明会を実施した。
・毎回活動後、コーディネーターとボランティアとで反省会を実施し、気になったことや改善した方が良いと感じたことなどを話し合っている。

■　事業の成果

（１）・ボランティアが同じ掃除方法や順序を指導できるので、子どもたちが混乱することなく掃除ができるようになってきた。
・ボランティアが日誌に気が付いたことを記入し、読むことで、子どもたちの様子を把握できるようになった。

（２）・以前は担任が子どもたち全員の暗唱を聞かなければならなかったが、ボランティアがチェックすることで、担任の負担が少し減ったのではないかと思う。
・暗唱を聞いてもらえる場が増えたことで、子どもたちの、取組に対する意欲も高まってきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○「地域の思い（ボランティアの思い）」と「学校の思い、考え」に違いがあることもあり、どちらの思いも大切にしながら、意見のすり合わせをしていく必要がある。

○「先生（学校）が**しなければならない**こと」と「ボランティア（地域）に**任せてもよい**こと」の線引きをし、先生（学校）とボランティア（地域）のどちらもが活動しやすい環境を整えていかなければならない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

心のふるさとづくり　～Furusato　Mito の魅力ある学校へ～　（水戸小学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２人
水戸小地域学校協働本部　（みとっこ応援団）	ボランティア登録数	70 人
関係する学校 水戸小学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

平成 22 年度より取組を開始してから８年目となり、これまでの経験を生かしながら活動を続けている。本校は工業団地にできた新しい学校なので日本全国からさまざまな文化を持って集まってきた子どもたちや、外国にルーツを持つ子どもたちも多いことから多文化交流が自然と行われている。平成 31 年度にコミュニティ・スクールとなるための導入推進委員会を発足している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）九九教室や算数教室、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語支援、読み聞かせなど学力向上のための活動。

（２）まちたんけん、茶釜川の水質検査、地域の方へのインタビューなどのふるさと学習や稲刈り、田植え、茶道、餅つきなどの体験学習とマラソン大会の見守り。

■　実施に当たっての工夫

〇教職員・地域ボランティアの交流会(夏休み）と事業報告会(３月)。
図書ボランティアのミーティング(月に１回)、水戸まつりに「みとっこカフェ」を実施し、情報交換の場を作っている。
〇保護者向けに「子育ち・親育ち講演会」を継続しており子どもと向き合うためのヒントを得て、豊かな心育ちの場を作っている。

【　５年生ミシン学習　】

■　事業の成果

〇地域ボランティアの見守りや声かけがあり、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。
〇コーディネーターとボランティア、学校と地域を結ぶコーディネート担当が継続して活動をしてきたことで学校と地域の壁がなくなり、子どもたちも教職員もボランティアがいることがよい意味で当たり前と感じられている。
〇交流会では、コミュニティ・スクールに向けて子どもたちにどんな力をつけてほしいかを議論した。やはり多文化という特徴を生かし「認める・受け入れる・共に育ち合う」人間に育ってほしいということや「Furusato Mito」の学校づくりのためにできることは何か、教職員とボランティアそれぞれの思いの理解を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今年久しぶりに５、６年生のミシンの学習にボランティアをお願いすることになった。担任によって授業の進め方が異なることもあったが、学年としての意向をまとめてもらうとスムーズだった。反省会では、ボランティアの子どもとの関わり方がこれでよかったのだろうか？子どもの力が本当についているのか？先生を超えてはいけないし・・・と考えながら活動してくださっていたことを聞いた。交流会など実施しているものの、大勢の中では話しにくく、その時には忘れてしまっていて・・と活動によってはお互いが慣れてしまって細かい打合せや反省会をしないこともあり、それがボランティアを不安にさせてしまっていたようだった。担任が、学習の始めに学習のめあてや、流れを明確にボランティアに伝えることの重要性を感じた。
活動後のボランティアの声を学校にもしっかり伝え、コーディネーターで留めておくことのないようにしたい。
〇開校当時から続いている「水戸まつり」には、卒業生の関心も高く地域の方もみこしの練り歩きを楽しみにされている。開校当時の保護者がボランティアにも多く参加していただいているが、地域の行事や清掃活動などに子どもたちも一緒に活動してほしいという声もあった。「学校を核とした地域づくり」に向けて「支援から連携・協働へ」という今後の連携・協働のあり方を地域の方と一緒に考えていかなければならない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

先輩から後輩へのメッセージ　～ 中学生の思いを届ける･つなぐ地域学校協働本部 ～　（石部中学校）

湖南市 活動名　「先輩から後輩へのメッセージ」	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
石部中地域学校協働本部	ボランティア登録数	36　人
関係する学校 石部中学校	開　始　年　度	平成 26 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

平成 26 年度から学校支援地域本部として活動を開始、継続して地域学校協働本部の活動に取り組んでいる。「地域の力を学校へ」「生徒の力を地域へ」を標榜する活動はそれぞれに軌道に乗りつつあり、今年度は理事の中から「さらに新たな活動を」との提案がなされ、その実現をめざしてきた。一つが、中学生の悩みや疑問を解決するために卒業生のアドバイスを生かそうという計画であり、もう一つが、来年度の「ふれあいまつり」に中学生が主宰するブースを設け、中学生が主体的に地域にかかわる場づくりをしていこうという提案であった。

いずれも、「自主・自立・進取の気構えを持ち、誠意と思いやりのある生徒を育てる」と設定している学校教育目標の実現を地域としても応援していこうという気持ちの表れであり、「昨年は〇〇したから今年も････」という安易な発想に流されないようにしようという意欲に満ちた行動である。しかも、これらは理事の思いだけで進んでいくことのないように生徒の意見を聞く機会を持ち、中学生の声を生かしていくことをモットーに進められている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「教えてください、先輩！」の発行（中学３年生対象）
（2）「ガンバレ、後輩！　～３年生からのメッセージ～」の発行（中学１･２年生対象）

■　実施に当たっての工夫

〇湖南市には、各学校の特色ある教育活動の推進を応援する「きらめき学校づくり事業」がある。本年度第１回理事会において、「我々が仲介して、現中３生に対する卒業生からのアドバイスを届けたい」との意見が出され、その必要費用（卒業生へのアンケート郵送料・卒業生からの返送料）を同事業から支出することとした。発行にいたるまでの経緯は次のとおりである。

・４月 18 日　第１回理事会　今年度の新事業に関する話し合い（その中で卒業生へのアンケートが発案される）
・６月６日　第２回理事会　予算が認められたことにより、理事の中の「きらめき部会」で案を具体化
・６月７～12 日　３年生の各学級でアンケート「先輩に聞いてみたいこと（特に、勉強のしかた、進路選択で考えたこと）」
・６月 12 日　きらめき部会で、先輩への質問事項を集約・精査（その後、卒業生に発送 → 返信）
・６月 29 日　きらめき部会で、卒業生からの回答を分類・精査（その後、手分けして原稿をＰＣ入力 → 編集 → 印刷）
・７月 10 日　発行（夏休みの勉強までに間に合わせたいとの思いでスケジュールを組み、実現した）

〇「教えてください、先輩！」が発案された当初から「現中３生から１･２年生へのメッセージも送ってはどうか」と計画されていたが、部活動への取組や生徒会活動について３年生に聞いた「ガンバレ、後輩！　～３年生からのメッセージ～」も発行した。おおよその流れは上記と同じで、８月から準備に入り、10 月の秋季総体前に１･２年生に届けることができた。

〇今後、卒業をひかえた３年生に再度アンケートを行い、「教えてください、先輩！」を充実させていく予定である。

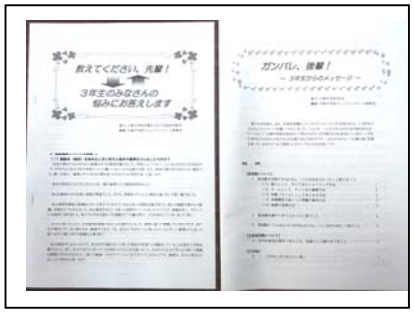
■　事業の成果

〇卒業生からの回答率は約 36 パーセントと決して高くはなかったが、寄せられたものは真摯に後輩を思う体験談ばかりで、３年生には大きな参考資料になったと思われる。実際に「教えてください、先輩！」を読んだ３年生からは「身近な先輩からのアドバイスは、とても貴重でした。これからもがんばります」「受験勉強はすぐに使えることだったので、とても良かったです」「わからなかったこと、不安なことがわかるようになりました」など、好意的な意見が多かった。

〇それを受けて３年生が回答した「ガンバレ、後輩！」も、「今度は自分たちの番」と考えたかのような参考になる意見が多かった。こうした絆のできたことがうれしい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【 先輩から後輩へのメッセージ集 】

生徒が地域の皆さんと　ともに伸びていく関係を築く　（甲西中学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２人
甲西中地域学校協働本部	ボランティア登録数	80 人
関係する学校 甲西中学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

生徒の持つ力を地域に生かし、地域が持つ力を学校に生かし、ともに伸びていく関係を築くことを目指して活動を行う。

そして、地域に根ざす生徒の育成につなげていきたい。そこで、１年生のふるさと再発見で、地域の良さを見つけ興味関心を喚起させ、その後、地域の大きな取組である「旧東海道清掃：みちくさコンパス」に中学生ボランティアとして参加し、生徒の自主性と自発性を尊重し生徒の活動を支援していただく。また、本校文化祭では、体験講座を開設し、地域の方に講師として来ていただき、地域の伝統や文化にかかることや地域のサークル活動を体験する。地域の皆さんの思いを感じながら体験をする。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「文化体験講座」（学校行事）・・・・・地域ボランティア講師が学校へ
（地域の方 約 60 名参加）

（２）「湖南市東海道ウオークみちくさコンパス」（地域行事）
・・・中学生ボランティアが地域へ（中学生　のべ 293 名参加）

【甲西中　みちくさコンパス】
中学生が地域で活躍

■　実施に当たっての工夫

○「みちくさコンパス」：生徒の自主性を重視し、ボランティア募集という形で生徒に呼びかけた。「ボランティアをする」という構えではなく、「自分磨きのために自分がさせていただく」という気持ちを持たせた。また、ボランティア募集用紙の形式を定め、この用紙はボランティア募集のものだという意識付けを行った。また、地域の主催者の人に学校で直接話していただき、手伝いではなく地域スタッフの一員だという自覚を促すようにした。

○「文化祭体験講座」：講座は 20 講座を用意。希望制にし、生徒全員が体験する。体験後に成果を披露する場を設けていることで体験内容の充実を図った。11 月の取組ではあるが、５月からボランティア講師の依頼などの準備を始めている。

■　事業の成果

○５年目を迎える「みちくさコンパス」には、のべ 293 名の生徒が積極的に参加、地域の方々と共に来客の受付や接待など地域スタッフの一員として活躍できた。「みちくさコンパス」の事前に行われる旧東海道の清掃活動には 25 名の参加があった。

○「文化体験講座」では、指導者も受講者も発表を目指して熱心に楽しく取り組めた。完成した作品は、教室に飾って大切にする生徒が多かった。講師が地域の方々なので、色々なところで出会うことも多く、元気にあいさつができている。

○その他の活動として１，２年への朝読書における読み語り、図書室開設支援、書写の授業、音楽の授業支援、ホームページ更新作業、本の帯コンクール作業支援、職場体験事前学習（キャリア教育支援）、まち協と中学生によるまちづくり懇談会開催

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○11 月に開催された「みちくさコンパス」は、高校の体験入学や他の地域での行事とも重なり生徒の参加が制限され、自由にボランティア活動が出来ない状況もあった。

○地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南市の一員であることに誇りを持ってくれればと願っている。

○朝読書時に同じボランティアが校区の小学校でも中学校でも読み語りをすることで、９年間にわたる小中連携の支援になっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　　※該当する項目全てに○印

（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　○　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　○　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の力を学校へ　中学生の力を地域へ　（甲西北中学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２人
甲西北中地域学校協働本部	ボランティア登録数	23 人
関係する学校 甲西北中学校	開　始　年　度	平成 26 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■その他［　保護者の相談活動　］

■　活動の概要

４年目を迎えた地域学校協働活動。岩根と菩提寺の小学校区からそれぞれ１名ずつ、計２名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら、さまざまな活動に取り組んできた。学校と、ボランティアと学校とつなぐ役割を担う２名のコーディネーターとは、定期的に打合せ会議を持ち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるよう心がけた。今年度は４年目を迎えたこともあり、今までの成果と課題をさらに明確化するとともに学校としての意図や思い、願いをボランティアの方々に再確認していただき活動をスタートさせた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【木材加工（デザインチェストキット）制作における生徒への支援】

１年生の技術科授業において、小物入れを制作する上で、「側板と棚板の加工と接合」「底板の加工と接合」「背板と裏板の加工と接合」「引き出しの加工と接合」をボランティアの方に支援していただき授業を進めた。具体的な内容としては、「引き出しの作り方」と「本体の組み立て方」を組立図や部品図、木取り図を見ながら組み立てていく。ボランティアの方による支援の主な内容は鋸や金槌等、道具の使い方における技術的な指導をお願いした。

１回の授業におけるボランティアの人数が平均４～５名で、１グループに１名の割合でボランティアの支援を受けることができ、鋸を引く生徒や金槌を手にする生徒にとっても心強い存在となった。11 月から１月まででのべ 30 回木材加工ボランティアさんに来校を願い、多いときには８名のボランティアさんが来校してくださる日もあった。継続的に来校したいただくことで子どもたちとの関係も築け、よりスムーズな支援につながった。そのことが最終的には、生徒一人ひとりの興味や関心、そして何よりも作品完成という達成感にもつながり、次の時間への意欲向上にもなっている。

■　実施に当たっての工夫

技術科における木工授業のボランティア支援では、担当教師とボランティアの方による事前打合せを可能な限り実施した。具体的な打ち合わせ内容としては、生徒の現状把握と制作工程の確認をした。また、担当教師とボランティアの方の打合せが日程都合上実施できない場合については、地域コーディネーターを通して行うようにした。このように細かな事前の打ち合わせを可能な限り実施することで、スムーズに授業を進めることができた。また、生徒を個別に支援する際、ボランティアの方が仕上げていくのではなく、生徒の力を引き出し、生徒自身が完成させることができるような支援をボランティアの方にお願いした。

■　事業の成果

教師の説明だけでは理解が難しく、道具を上手く使いこなすことができない生徒に対して、教師の補助としてボランティアの方が丁寧に教え、傍らで励ましてくださった。このことにより、木材加工の制作を途中であきらめてしまうことなく、最後までやりきろうとする生徒が増え、その結果、生徒の達成感や満足感を高める援助につながったと思う。また、担当教師からは、木材加工という機会そのものが少なくなってきている中で、作業そのものが大変スムーズに進んだという感想があった。

１グループに１名の割合でボランティアの方に支援を受けることができたことは、木材加工を苦手とする生徒にとっても大変心強い存在となっているだけではなく、木材加工そのものに対する苦手意識を少しでも払拭することにつながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

授業が始まり子どもとの関わり合いや、授業担当者との事前の打ち合わせや確認作業を丁寧に重ねていく中で、スムーズな支援につなげることができた。ボランティアの方の中にはご高齢の方も多く、学校までの移動手段に市のバスを使用されている方もおられ、授業時間の変更が生じた際にボランティアの方に伝えることができず迷惑をかけた。

【　技術科の授業における、木材加工ボランティアさんによる学習支援の様子　】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　○　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共に考え、共に子どもを育てる～地域は学校へ 子どもは地域へ～　（日枝中学校）

湖南市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
日枝中地域学校協働本部（日枝中学校応援団）	ボランティア登録数	24　人
関係する学校 日枝中学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域のさまざまな方に中学校に足を運んでいただき、生徒の生きる力を身につけるために必要な技術や思考力を伸ばし、自己肯定の気持ちを育めるように声かけをいただける人材発掘と確保を行う。また、生徒は地元意識を持ち地域で活躍することで達成感と自己肯定感・チャレンジ精神を身につけることを目標に、地域の活動や事業への参画や小中連携活動の推進・サポートを行う。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）３年生 お弁当教室・・・校区の健康推進員の方々と協力し、高校に入学しお弁当生活が始まる３年生を対象にお弁当教室を開催。各班に校区の健康推進員に入っていただき、「食べることは生きること」をキャッチフレーズに、丈夫な体と心を作るため栄養バランスの良いお弁当の作り方と、効率よく作業を進めるコツや技術をレクチャーしていただいた。

（２）まちづくりフェスタへの参加・・・学区内で行われるまちづくりの祭りに、中学生が企画から参加し飲食ブースを担当させていただく活動を継続して行っている。その他、物販ブースや子どもの工作ブースの参加を通じて地域の人とのふれあい、「今自分にできることは何か」を考えて行動できる力と挑戦する姿勢を学ぶ活動を行う。

■　実施に当たっての工夫

（１）お弁当教室について・・・校区の健康推進員より栄養面の事を考えた中学生にも作れるメニューの提案をいただき、いろどりなどのバランスも良いお弁当作りをこころがけた。一人一人に「卵一個でできる卵焼き」を作る作業をさせて「できた！」という達成感を味わってもらい、それぞれが家に帰っても自信をもってもう一度自分で作ることが出来る様に声かけを行った。また、お弁当教室開催後に参加生徒たちにアンケートをとり、回答を次年度への改善につなげる様にミーティングを行った。

（２）まちづくりフェスタの参加について・・・飲食ブースの企画についてはメニュー決めから試作まで様々な制限がある中、参加する生徒の意見を聞いて反映させ生徒の考える力を伸ばせるよう心がけた。一緒に協働するまちづくり協議会の方々と連絡をとりながら「地域貢献を学び、自分で考えて行動できる子ども」を目標に、生徒が無理をせず参加できるよう配慮した。

■　事業の成果

上記活動に携わってくださった地域の方々からは、「素直な生徒が多く褒めることでのびのびと活動できている様子が伺えて良かった」「町で偶然会った時に生徒から『先日は教えてくれてありがとう』と声をかけてくれた」と報告があり、子どもたちを良い方向に伸ばすことに意欲を持って活動してくださる方が増えた。

中学生には関わりにくいと感じる大人もおられるが、これからも活動を通して生徒の成長を支える地域の力を伸ばしていきたい。また、生徒もこういった活動に参加することで、積極的にさまざまなことに挑戦する姿勢が見られるようになった。

【　お弁当教室の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域学校協働活動については、携わる教師の負担にならないように配慮が必要だと感じる。しかし、生徒の活動に関しては教師との連携・協働が必要になることも多々あり、なるべくシンプルな形で次年度へ引き継ぎを行うように改善したい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

【　まちづくりフェスタの様子　】

高島市における地域学校協働活動の取組

■　目指す姿

高島市における地域と学校の協働・連携活動は、学校を核として子どもたちの健やかな成長を支える「地域学校協働活動」と、地域が学校運営に参画する持続可能な仕組みである「学校運営協議会」の二つを「地域とともにある学校」の柱とし機能させることを目指す。今年度、既存の学校支援活動を充実させる形で、地域学校協働活動が高島中学校区においてスタートした。今後はこれをモデルとして円滑に地域学校協働活動が進められるよう、また持続可能な組織となるよう取り組んでいきたい。

■　本年度の具体的活動

（１）高島学園において地域学校協働活動を実施

本年度よりモデル的に高島学園（高島小中学校）において取組を始め、地域学校協働活動推進員１名を学園内の一室に配置し、主に学校支援活動を行う地域ボランティアとの連絡・調整を行った。

（２）学校・家庭・地域をつなぐプロジェクト会議等の実施

市教育委員会事務局の関係部署による横断的な会議を行い、地域学校協働活動の在り方や学校運営協議会についての調査・研究し、高島の良さを生かした地域・学校づくりの検討を進めた。地域に向けては地域学校協働活動の目的や市内における現状についての広報や研修会の実施、また学校への働きかけとしては、校長会で「地域とともにある学校づくり」の説明や協議の場を設けて受け入れの基盤づくりを図るなど、市内に活動を広げるための準備を進めた。

■　本年度の成果

〇地域の教育力の向上

高島学園の学校協力員（＝学校支援ボランティア）からは、「これまで人前で話すことは苦手だったが、子どもたちが熱心に聞いてくれてよかった。」とか「学校ボランティアに参加したことで、地域でも子どもから声掛けをしてくれた」等の声があり、活動に参加することで地域の大人の学びにつながり、また地域における子どもへの関心が高まった。

〇学校における新たなボランティア人材の発掘、学校理解の深まりと支援体制の強化

ボランティアの確保が年々難しくなっている中、地域事情に精通した地域学校協働活動推進員が仲介することで、より多くの地域の方の支援をいただくことができた。また、協働活動の拠点が校内にあることで、地域の方が学校を気軽に訪れるようになり、学校への理解が深まり、新たな支援や協力につながった。

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇地域学校協働活動推進員人材の確保、既存の支援活動との連携

今年度、試行的に中学校区で地域学校協働活動を始動したが、今後市内に広げていくにあたって重要な役割を担うのが地域学校協働活動推進員である。地域と学校の事情に詳しい人材を、公民館や学校から推薦していただき、円滑にスタートさせたい。また、これまで学校支援活動をされている団体や個人の方ともよりよい形で連携し、地域全体で子どもを育成する環境づくりを進めたい。

つながり響きあう教育を目指して　～高島学園地域学校協働活動～　（高島小学校、高島中学校）

高島市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
高島学園地域学校協働活動	ボランティア登録数	291　人
関係する学校 高島学園高島小学校・高島中学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本年度よりモデル的に高島学園（高島小中学校）において取組を始め、地域学校協働活動推進員１名を学園内の一室に配置し、主に学校支援活動を行う地域ボランティアとの連絡・調整を行っている。支援活動の内容は、大きく分けて「学習支援」、「学校行事への支援」、「環境整備」、「登下校時の支援」があり、学習支援では、地域学習の講師のほか、家庭科等の実技指導補助を行った。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）九九道場（小学２年　学習支援）

九九道場は地域の方などに九九暗唱を確認してもらうもので、小学校の昼休み時間を利用して実施している。児童はスタンプカードを持参し、合格すればシールを貼ってもらい、地域の方たちに励まされながらやる気を育む場となっている。小中一貫校の良さも活かし、中学生にも確認役に加わってもらい、学びを通した交流が図られている。

（２）ドリームプロジェクト（中学３年　キャリア教育における外部講師）

学校支援ボランティアの多くが地域の 60 代以上の方たちだが、生徒たちと年代の近い若者から実体験を聞くことで自らの進路を具体的に考える機会を与えたいと、地域学校協働活動推進員から同学園出身者を中心に呼びかけをしてもらい、仕事への思いを語ってもらった。外部講師からは「生徒たちの前で話すことで自分の自信にもつながる」などの声が聞かれた。

（３）地域行事への参加（中学生）

地域の伝統行事である、大溝祭りは後継者が不足してきているが、中学生や教職員が曳山の曳き手として参加して祭りを盛り上げることができた。また、夏祭りにおいては中学生がスタッフＴシャツやチラシのデザインを担当するなど、地域の一員として参画することができた。

■　実施に当たっての工夫

本年度から地域学校協働活動を実施するに当たり、地域や関係団体へ趣旨説明などの働きかけが必要であったが、地域学校協働活動推進員が年度初めに行われる各団体の総会に出席し活動のＰＲを行った。ただし、関係団体長を組織化して本部体制を作ることはあえてせず、持続した組織とするため、推進員からボランティア個々に活動趣旨を説明し、支援者（＝学校協力員）が集まって少しずつ広がりを見せている。新規事業は少ないものの小さくスタートし、既存の支援活動を大切にし、より充実させる形で今後協働活動を大きく育てていくことを目指している。また、学校だよりや市広報でも地域学校協働活動の取り組みを紹介した。

■　事業の成果

〇子ども　地域への理解・関心の深まり
　　コミュニケーション能力の向上
〇学校　新たなボランティア人材の発掘
　　円滑な学校行事の実施
〇地域　地域の教育力の向上、地域の活性化
　　世代を超えたコミュニティの形成

【　昼休みの九九道場　】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

一過性に終わっていた支援関係を継続したものとし、学校に関わっていただくすべての住民の方や団体をつないで、響きあう教育を目指していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

東近江市における学校支援地域本部の取組

■　目指す姿

心豊かな児童・生徒の育成を目的として、市内全小中学校に学校支援地域本部を設置し、円滑に学校と地域及び保護者、関係諸団体等がつながり、連携協働による地域全体での継続的な学校教育支援活動の充実を目指し推進していく。

■　本年度の活動

〇東近江市学校支援地域本部地域コーディネーター連絡会開催（毎月／於：市役所）

・各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答

・研修会の開催（12 月）

・少人数でのグループワーク　（６月）テーマ「各本部における支援の内容について」
（７月）テーマ「地域住民を学校に呼び込むための方策」
（８月）テーマ「地域コーディネーターから学校に伝えたいこと」
（10 月）テーマ「各本部における秋の事業交流」

〇県教育委員会主催の研修会への参加、および報告

〇講演会の開催（東近江市学校支援地域本部、東近江市地域教育協議会の共催　参加者 47 人）

平成 29 年 11 月８日（水）午後７時 30 分～午後９時　（会場：てんびんの里文化学習センター）

講演会テーマ：地域で行う「ひと」づくり・「まち」づくり

演　題：「生涯学習とまちづくり　～あなたの学びと活動が“まち”をつくる～」

講　師：滋賀大学社会連携研究センター教授　横山　幸司　氏

【講演会の様子】

〇学習支援（地域未来塾）の活動内容　※実施本部のみ記載

「東近江アミーゴ教室」　国語、算数、社会等の学習支援及び日本語の習得

・活動の概要と目的

「地域に根づき育つ子」をテーマとし、日本語の指導が必要な児童・生徒の学習支援

・支援員数：７人

・支援員の属性：日本語支援相談員及び地域住民

・学習形態：個別学習

・教室のもち方と実施日数：毎週土曜日の午後２時から午後４時（社会福祉センター　ハートピアで開催）
八日市南小学校、箕作小学校、御園小学校、玉緒小学校、布引小学校の児童を中心に市内全域からの参加を募っている。

・子どもの平均参加人数：10 人

■　本年度の成果

・毎月、地域コーディネーター連絡会を開催し、各本部における取組の報告や情報交換を行い、成功事例や課題等を地域コーディネーター全員で共有することができた。12 月に開催した連絡会では、東近江市社会教育委員を講師に招いて、「地域とともに」をテーマに講話いただき、地域と学校の連携・協働に向けて、意見交流の場を持った。

・地域コーディネーター連絡会では、毎回テーマを設定してグループワークを取り入れた。少人数で交流することにより、具体的な方策へのきっかけとなり、疑問の解決に有効であった。

【地域コーディネーター連絡会
グループワークの様子】

・資質向上を目的とし、地域コーディネーターと共に県教育委員会主催の研修会に参加した。市で開催する地域コーディネーター連絡会で事後報告の場を設定した。

■今後の課題

本年度は８本部が新たに学校支援地域本部を設置し、平成 29 年度で市内全小中学校に本部が設置された。東近江市においては、平成 30 年度から、これまでの「東近江市学校支援地域本部」を「東近江市地域学校協働本部」に変更し、これまでの学校支援地域本部の主目的であった地域の方々による学校支援に留まらず、地域と学校が双方向に連携する活動を充実させていきたい。また、各本部の特徴を生かし、現在の組織をベースとして、地域と学校が相互補完的に連携・協働していく関係に発展させていきたいと考える。

地域につくられた学校・子ども応援団　（玉緒小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
玉緒小学校支援地域本部	ボランティア登録数	52　人
関係する学校 玉緒小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域の方々のつながりを深める「地域につくられた学校・子ども応援団」と言える。玉緒小学校では、以前から登下校の見守りや、読み語りボランティアの方々の活動が行われてきたが、この事業が始まってから生活科、社会科、家庭科の学習や総合的な学習の時間などの支援を行っている。今年度も学習効果が上がることを目指し、地域のボランティアが子どもの学習活動に関わり、応援団の役割を十分に果たすことができた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）（クラス数・ボランティア数）

・生活科（１年生・２年生）（２クラス・１人）

「さつまいもを育てよう」苗の植え方、育て方、ほりかたなどをわかりやすく教えてもらった。また、年間を通してお世話などもしていただいた。

「さつまいも収穫祭」１、２年生合同でホットプレートを使って大学芋をつくって、お世話していただいた方に手紙を添えて渡した。

・社会科・総合的な学習（３年生・４年生・５年生・６年生）

３年生「地域探検」校区にある工場や牛舎、キュウリハウスなどを見学し、子どもたちへの説明質問に対しての応答などをしていただいた。（２クラス・１０人）

４年生「里山探検隊」地域にある、大森の里山に出かけ自然の中で薪割りや、のこぎりを使って木を切る体験などをすることで、学校の中ではできない貴重な体験学習ができた。その後、学校で、倒木を使って小屋を作った。（１クラス・９人）

５年生「田んぼの学習」「感謝祭の準備・料理づくり」の支援。ボランティアを招いての「感謝祭」を開催した。（２クラス・５人）

６年生　「キャリア教育」今年度は、幼稚園の保育士、池田牧場の方、大工、薬剤師、美容師を招いてそれぞれの方の仕事に対する思いや姿勢などの話をしていただき、その後実際に仕事を体験することができた。（１クラス・１２人）

【ミシンを使って】

・家庭科（５年生）（２クラス・１０人）

５年生「初めてのソーイング」「ミシンを使って」では、個々の児童にきめ細やかな指導助言ができた。

・その他　図書室の環境整備・飾り（月２回程度・６人）、読み語り（月１～２回・６人）

図書室開放（週２回　４人）　登下校の見守り（毎日 15 人程度・年間を通して）図工に使う木切れ・布の調達など

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的　冬休みの宿題及び書初めの指導を通して、子どもの育ちを支える。〇支援員数：２人
〇支援員の属性：習字の先生　〇学習形態：個別指導　〇教室のもち方と実施日数：参加者を募り、冬休みの３日間
〇子どもの平均参加人数：10 人から 15 人

■　実施に当たっての工夫

〇今年度で６年目になり、ボランティアの方々も少しずつ増えてきて、支援内容に適した人材を依頼できるようになった。
〇ボランティアの方々がやりがいを感じられる活動内容を心がけた。

■　事業の成果

〇何度か支援していただくことにより子どもたちとも顔見知りになり、活動がスムーズにで
〇来て頂く活動内容が決まっているので、打ち合わせも短時間で済ますことができた。
〇ボランティアから新しい人材を紹介していただいた。

【６年生　キャリア教育「大工さんを招いて」】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校の都合とボランティアの都合が合わないことがあった。
〇ボランティアの特技を生かしての支援活動ができなかった。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

日本語支援ボランティア団体との連携による日本語学習支援活動　（御園小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
御園小学校支援地域本部	ボランティア登録数	15　人
関係する学校 御園小学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校に在籍する外国籍児童・帰国子女等、日本語指導が必要な児童に対し、基本的な会話や読み書きの基礎学習に対して地域のボランティアが学習支援を行い、日常生活や学習活動に日本語で取り組むことができるようにすることを目的とした活動を行っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

日本語支援地域ボランティア団体に所属する方が、当番制により週に２日、月曜日・木曜日午前中に来校され基礎的な日本語指導が必要な児童への個別学習支援に取り組んでいる。主な活動内容は、絵カードなどを用いた読み書きの学習を基本としながら、文部科学省や文化庁が発行している教材等を使用し学習支援を行っている。

【　ボランティアによる学習支援風景　】

■　実施に当たっての工夫

一人一人の生活環境や経験、言語環境が大きく異なる中、効果的な日本語指導のあり方について検討している。１学期当初は、自作の教材、絵カード等を使って文字の正しい書き方と読み方の定着をはかることを目標に取り組んだ。その後文字に沿った単語を書かせて語彙の習得を目指した。また、ひらがなからカタカナへの展開を図った。単純な読み書きの学習が連続するため、集中させて学習を継続させることが難しく、意欲・関心を高めながら進めた。

■　事業の成果

日本語指導が必要な児童にとって学習支援も大切であるが、日本の文化に慣れ基本的な生活習慣を身につけていくことも大切なポイントである。そのため、日々児童とのコミュニケーションを積極的に行い、信頼関係を築けるよう心がけた。また、できたことをたくさん褒め、自尊感情が育つよう努めた。その結果、外国籍児童に行ったアンケート結果では、在籍学級での学習と日本語指導教室での学習を比較したところ、４ポイント以上日本語指導教室での評価が高かった。今後も、引き続き外国籍児童が安心して過ごせるよう取り組んでいきたいと考えている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域ボランティアの方々が支援活動を行うにあたって一番大切なことは、地域ボランティアと学校関係者が情報交換を密に行い、互いに話しやすい雰囲気づくりに努めることだと考えている。そのため少なくとも学期に１回程度、情報交換会をもち互いの考えや児童の様子について交流することが必要である。また、教材づくりを教員と共に行うことでボランティアの方々に楽しく気軽に関わってもらえるようにしていく必要があると考える。

■　その他

お問い合わせ

東近江市立御園小学校　ホームページアドレス

http://www2.higashiomi.ed.jp/misonosho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

輝け南っ子！！　～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～　（八日市南小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八日市南小学校支援地域本部	ボランティア登録数	38　人
関係する学校 八日市南小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■クラブ活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、平成 24 年度から本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子ども達の学習や活動の支援として、たくさんのボランティアのみなさんに協力いただき、事業を進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）滋賀学園高校陸上部による市陸上記録会に向けた練習指導
（２）なかよしの畑で先生と野菜作り
（３）八日市南高校生徒と一緒にさつまいも植え、収穫
（４）大凧保存会による大凧作りの指導

【　陸上記録会練習　】

■学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的：宿題やドリルなど、予習や復習など学習習慣を身につける。
〇支援員数：16 人
〇支援員の属性：高校生、地域住民、元教員
〇学習形態：宿題、ドリル
〇教室のもち方と実施日数：長期休暇にコミュニティセンターにて行う。
　夏休み（４日）、冬休み（２日）、春休み（２日）
〇子どもの平均参加人数：20 人

■　実施に当たっての工夫

〇市陸上記録会の練習では、高校生が事前に練習計画を考え、限られた時間の中でどのように指導すればいいか考えていただいている。
〇なかよしの畑では、子どもたちと地域の畑の先生が一緒に植えたり収穫したりしているが、学校がお休みの間は地域の方にお世話になっている。

【　畑の作業　】

■　事業の成果

〇陸上部の先生から、高校生の勉強になると喜んでいただいている。
〇子ども達も、年齢の近い先輩からの指導にもっと教えてほしいとの声があった。
〇毎年畑で野菜を作っているが、次はこんな野菜も作ってみたいなどの声が子ども達から出るようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇市陸の練習は、雨の日は中止になっているので、今後はどのようにしていくのか。
〇畑の作業では、草ひきなどの作業がなかなかできずにボランティアの方に任せっきりになっている。今後、一緒に活動できるようにするにはどうすればよいか。

■　その他

〇今年度、江州音頭の発祥地としての歴史や踊りを高学年が地域の方にご指導いただいた。
　来年度は、学校独自の歌詞で江州音頭を踊り、地域のお祭りなどにも参加していけたらと思っている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに歩む学校　（箕作小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
箕作小学校支援地域本部	ボランティア登録数	145　人
関係する学校 箕作小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を生かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区内には、「清水小脇街づくり委員会」、「太郎坊応援団」、「中野地区まちづくり協議会」が組織され、学校を支援する活動が行われている。各学年の様々な教育活動や芝生化された運動場の保全、校庭整備に支援の継続、充実がみられる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践は全学年を通し、町探検（太郎坊山登り、ビニールハウス、商店街、町工房、公共施設等見学）、大凧製作などの経験をし、地域の自然、文化にふれる機会を大切にして取り組んできた。
・５、６年生の家庭科授業においてボランティアの支援を受け、「僕の私のエプロン」、「僕の私のナップサック」を作ることができた。
・全学年を通じて〝野菜栽培のゲストティーチャー〟〝田んぼのゲストティーチャー〟を招いて様々な作物づくりを基礎から学び、野菜や米を収穫することができた。
・６年生が、東近江大凧保存会の協力を得て伝統文化の大凧を制作した。大凧に判じもんで、子ども達が考えた文字（夢、超、新、時、団、蒼、自、友）を入れ、大凧保存会の指導を受け、２畳敷大凧をグラウンドで大空高く揚げることができた。
・ボランティアによる読み語りを年間通じて 全学年対象に実施し、日本・世界の名作に親しむ機会を得ることができた。
・持久走大会で保護者と共に地域の人達が、力走する全児童に声援を送り子ども達を励ました。
・２年生は、町たんけんで「ジーンズ工房、皮製品工房、おり紙名人、日本ちょうちん工房、太郎坊山お田植えおどり地域民芸」を見学した。
・３年生は、町調べで「ハートピア」「地域スーパー」「アンスリューム花栽培ビニールハウス」「みたらしだんご工場」を見学したり、地域の方から町の歴史、文化について話を聞いたり、多くの質問をすることにより地域から様々なことを学ぶ機会を得た。
・１月には、ボランティアの協力を得て、６年生対象にスキー教室が行われる予定である。
・１年生は昔からの遊び（けん玉、はねつき、竹とんぼ、あやとり、お手玉）を箕作小応援団の方と一緒に体験をする予定である。

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的：子ども達が地域の大人とかかわりながら様々な体験活動を行うことで子どもたちの社会性、自主性、創造性を育むことを目的とする。
〇支援員数：14 人　〇支援員の属性：元教師、元公務員、薬剤師、塾指導員　〇学習形態：個人指導
〇教室の持ち方と実施日数：夏期休業期間４日　〇子どもの平均参加人数：４人

■　実施に当たっての工夫

〇各学年の学習のねらいや学習の取組のテーマ〝見て・聞いて・やってみる〟をモットーにした学習活動について地域コーディネーターが地域と学校との連携を密にし、適切な支援活動がなされるように努めた。
〇支援内容に適したボランティア人材を依頼・確保できるよう、各所、各団体他、個々の方にも幅広く連携を図るように努めている。
〇これまでの取組を継続し、学校、地域、ボランティア三者が共に安心感、親近感、信頼感がもてるように、日ごろからできる限り互いの思い、考えが伝わる連携を積み重ねている。

■　事業の成果

〇学区が広範囲であるため、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、公的機関、各種団体などと細やかに連携を図ることにより、個々のボランティアからボランティアへと支援の輪に広がりがみられ、適材適所のボランティアを依頼することができてきている。
〇自分たちの住む町を見て歩き、町の人々に多くのことを教えてもらい地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚や地域への親近感をもてるようになった。地域の人々も子どもたちとのかかわりの積み重ねにより、その成長を見守ることに充実感をもつことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆が深まり、子ども、学校、地域にとって各々が充実したものになるには、打ち合せや相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、課題解決方法の探求など、発展的に循環した取組となるよう考えていくことが必要である。
〇子ども達が様々な人々と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう学校と地域との連携充実が不可欠である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域との繋がりを深め・広げる活動　（八日市北小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八日市北小学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 八日市北小学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

①学習支援：図書ボランティア・家庭科指導補助・河辺いきものの森学習指導（補助）・校外学習引率補助・田んぼの学校学習補助　など
②ゲストティーチャー：アイマスク体験・盲導犬の学習・手話サークル・職業体験学習　など
③そ の 他：マラソン大会立番サポート・通学路防蜂対策　など

【河辺いきものの森での 体験学習】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）４年生　総合的な学習「河辺いきものの森での体験学習（通年）」
・それぞれの季節に応じた森の中での様々な体験学習を通して、自然や生きものについて学ぶ。
・学んだことを生かし、３年生を招待してやまのこイベントを企画・運営する。
・所員さんが専門的な知識を教えてくださるので、目で見て肌で感じて学習できた。

（2）５年生　総合的な学習「田んぼの学習」
・ＪＡの方、田んぼの地主さん、ボランティアにサポートしていただき、米ができるまでの学習を行う。
・昔の米作りの様子が分かる写真を提供していただき、米の様子を間近で観察できるよう、鉢植えにした稲を提供していただいた。

（3）全学年　読み聞かせ・図書室経営のサポート
・毎週火曜日の朝、ボランティアによる読み聞かせを全クラス実施している。
・行事ごとに図書室の飾り付けをしていただいたり、お話会などのイベントも企画していただいている。

【図書ボランティアによる読み聞かせ】

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

詳細は、箕作小学校支援地域本部で掲載（P106）

■　実施に当たっての工夫

○　担当の先生とボランティアの間に入り、うまく連携できるようサポートに努めた。
○　支援していただけてよかった内容は今後も継続しつつ、新たな関わりがもてないかを模索しながら活動を進めるようにした。
○　ボランティアとの連絡を、こまめにとるようにした。

■　事業の成果

○　専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習がより深まった。
○　サポートしていただく中で、次年度に向けてできることが見えてきて、サポートの幅が広がった。次年度に向けてしっかり申し送りをし、より深まった学習ができるよう支援していく。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・新たなボランティアの発掘と、関わっていただく新たな学習を探る。
・学校教育にたくさんのボランティアが関わってくださっていることを、保護者や地域の方に広く知っていただく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～　（八日市西小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
八日市西小学校支援地域本部	ボランティア登録数	224　人
関係する学校 八日市西小学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

○「子ども見守り隊」による登下校の児童の安全確保と事件事故の未然防止
○教育環境の整備（樹木の剪定、除草作業等）
○教育活動の支援　・学校行事への支援（たてわり遠足の引率、マラソン大会の立哨、スキー教室での技術指導等）
　　・日々の教育活動支援（校外学習の引率、田植えや稲刈りの支援、読み語り）
○学校図書館の貸し出し業務

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「子ども見守り隊」の活動

11 地区で「子ども見守り隊」を結成し、児童の登下校を見守っていただいている。日常の声かけや、交通量の多いところでの立哨をしていただいている。日常の子どもたちの様子を学校へ知らせてくださるので登下校の様子がよく分かる状態である。また「子ども見守り隊」の皆さんを招待して交流・感謝の集いを開き、子どもたちは感謝の気持ちを表すとともに、地区の取組事例や情報を交換している。

（2）田んぼの学校での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援

５年生児童が、年間をとおしてお米作りの学習を行っている。その中で、田植えと稲刈りについては、実際に体験をしている。稲の植え方や、刈り方をボランティアから丁寧に教えていただいている。稲刈り時には、同時に脱穀作業も行い、昔の道具（足踏み脱穀機、千歯こき）にも触れている。

【見守り隊さん　感謝の集い】

■　実施に当たっての工夫

○教育活動支援については、どのような支援が必要か事前にコーディネーターと打合せを行い、詳しい内容が各ボランティアに伝わるようにしている。
○学校便り等で、活動内容や学習の取組を地域に発信している。
○各種人材のデータをファイリングすることで、各学年からの依頼をしやすくしている。

【脱穀作業】

■　事業の成果

○子どもたちは様々な方々に声をかけていただいたり、支援していただいたりすることで、地域の人との関わり方を学ぶことができた。
○地域や保護者の方が積極的に教育活動に関わる場を設定することで、地域に開かれた学校づくりに繋げることができた。
○教員以外にもたくさんの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、よりきめ細かに対応することができた。
○学校司書と連携しながら、学校図書館に関わっていただいているおかげで、子どもたちの図書室への来室回数が増え、貸し出し冊数が増えた。子どもたちの読書意欲を高めている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○登下校だけに関わってくださっている「子ども見守り隊」の方が多く、すべての方を学校が把握しているかというとそうではない。教育活動の中で子どもたちとより関わっていただくことも、考えていく必要があるのではないかと思う。どのような活動が仕組め、どのような支援が何人ぐらい必要なのか、学校側が明確にし、要請していけるようなシステムの構築が必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（○）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域で学び、地域で育つ布小っ子　　（布引小学校　）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
布引小学校支援地域本部	ボランティア登録数	28　人
関係する学校 布引小学校	開　始　年　度	H29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

今年度から地域コーディネーターが配置され、地域学習における出前授業や校外活動の相談、教材の発掘など、学習支援ボランティアの充実に取り組んだ。地域からの声が地域コーディネーターを通して届くようになり、体験学習や出前授業につながる事例もあった。年間を通して、地域学習の講師や学校支援ボランティアの掘り起こし、登下校の見守り活動など、幅広く取り組むことができるようになった。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

通年　　ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、登下校の見守り支援
４～５月　５年生「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え
６月　　３年生　地域学習「布施公園調べ」、「出前授業　布施の溜・城」
　　５年生「田んぼの学校」田んぼの虫学習支援、学習支援「家庭科裁縫」
　　６年生　地域学習「八日市壺焼谷遺跡調べ」、「出前授業　布施山城」
７～９月　５年生「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
　　６年生　防災学習「出前講座　防災紙芝居」
１０月　　２年生　地域交流学習「さつま芋掘り」
　　３年生　地域学習「社会科工場見学」
　　５年生「田んぼの学校」収穫感謝祭、学習支援「家庭科ミシン」
１１月　　５年生　地域学習「国語科出前授業　和菓子」

【６年生　地域学習　出前授業 】

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターの出勤日を固定し、教員との円滑な打合せを進めた。
〇学校だより等で、地域と学校が連携・協働している事例を取り上げて広報に努めた。
〇地域コーディネーターが地域やコミュニティセンターを訪問して、人材の掘り起こしに取り組んだ。

■　事業の成果

〇地域コーディネーターが学校に常駐することで、教員が地域学習やゲストティーチャー、学習支援ボランティアについて相談できる環境が整い、新たな取組が増えた。
〇地域コーディネーターが、地域から聞き取った声を学校に伝える窓口となった。
〇学習支援ボランティアが充実し、校外活動の引率補助や交通指導、地域学習などの出前授業の講師、見学施設などが増えて、地域との連携が進んだ。

【５年生　地域学習　国語科出前授業 】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇事業実施２年目にむけて、支援地域本部の活動を「見える化」し、校内体制の充実を図る。
〇支援ボランティアの継続性のために名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
〇学習環境の整備のための地域ボランティアの充実を図る。
〇支援地域本部の活動について、地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり」（市原小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
市原小学校支援地域本部	ボランティア登録数	90　人
関係する学校 市原小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要
・「いつも身近に本を置こうプロジェクト」（地区集合場所に本があるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書）
・「花いっぱいの地域にしようプロジェクト」（花で地域がますます明るく、輝きますように）
・「おとなの学習時間」（地域の方々とビジョンや目標を共有する時間、空間を設定し相互理解を目指す。学校を地域の活動拠点化）
・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業

■　特徴的な活動内容
・ミニ図書館設置（地域の公民館・集会所等に設置）　・ボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備
・ｅライブラリ体験会（学力向上）・認知症こどもサポーター養成講座ｄｅ学ぶ（福祉教育）・講演会・映画会など
・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境　読み語り　創作クラフト等のイベントなど）

■学習支援（地域未来塾）の活動内容
・活動の概要と目的（１）子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性をじっくり涵養
（２）子どもたちの学力向上の一助　学びの時間の拡張　学びの機会の選択肢を増やす
・支援員数：４人　・支援員の属性：地域Ｃ、スクールサポーター、学習支援ボランティア、教育活動サポーター
・学習形態：個別学習・ペア学習・グループ学習（ＩＣＴタブレット活用・プリント学習など）
・教室のもち方と実施日数：毎月第２第４木曜日に各２コマが基本であり、長期休暇中の開催は不定期である。
・子どもの平均参加人数：全校児童数の 35%～55%

■　実施に当たっての工夫
・ぬくもり（手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
・持続可能な視点をもって続けることを大事にする。（持続可能な教育環境づくりを目指す）

■　事業の成果
・保護者や地域の方々の来校者数が地区住民数の２倍以上となっている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
・ホームページのアクセス数が平成 29 年 11 月では、毎日平均およそ 310 アクセスである。（学校認知度アップ・情報提供加速）
・地域の人と児童の絆が深まった。学校全体が笑顔と活気に溢れている。挨拶が自然に出てくるようになった。
・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいＯＪＴとなっている。

■　事業実施上の課題
・「おとなの学習時間」等の機会増で情報の共有化、学校と地域の目標の共有化を図りもっとお互いが理解する必要がある。
・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。（ＨＰや広報紙等うまく組合せて周知の徹底をさらに図っていく）。

■　その他
●特色ある活動（一期一会、邂逅（かいこう）。より多くの人との出会いを大切にしてきた。）●大阪市立鷺洲小学校との交流（フローティングスクールの出会いから２年目）●認知症こどもサポーター養成講座（市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等。多くの方々が支えてくださり、近隣のグループホーム「やすらぎの里」訪問２年目）●６年生モビリティマネジメント教育（国土交通省、市役所等との連携事業３年目）●全校マラソン大会の安全な運営（当該地区の安全委員による見守り活動３年目）●読み語りボランティアによる創作クラフト活動（毎年開催中）●公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」●「地域の日」毎月第２水曜日の昼休みを自由参観の日に設定。地域住民・保護者の皆様が来校している。隣接する幼稚園からは毎月５歳児を中心に年間を通して定期的に来校している。

【　６年生グループホーム「やすらぎの里」訪問　】

【　図書館祭り＊読書の日（ｽﾄｰﾘｰﾃｰﾘﾝｸﾞ）　】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

郷土の魅力発見！　～地域の力を生かし、わくわくしながら学び合える山小っ子を目指して～（山上小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
山上小学校支援地域本部	ボランティア登録数	23　人
関係する学校 山上小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本年度から本事業がスタートした。これまでの地域の方々による学校教育支援をより充実させ、地域の力を生かした「連携・協働」体制を作り、共に子どものたちのよりよい成長を目指して取組を進めている。今年度から、総合的な学習の時間と生活科を窓口に、「わくわくしながら学び合える子どもの育成」をテーマに、校内研究に取り組んでいる。恵まれた郷土の自然と心温かな地域社会の魅力に触れ、主体的に学び合える子どもを育てられるよう、地域コーディネーターを中心に、支援体制の拡大・さらなる充実に努めている。

【４年生　稲荷山探検】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【４年生　「稲荷山のひみつをさぐろう！」（総合的な学習の時間）】

学校裏にある稲荷山に出かけ、身近な自然に何度も触れることで、興味関心を持って学習を進めた。ボランティアには、稲荷山散策のガイドや地域の歴史の紹介、調べ学習のお手伝いなど、単元全体を通して関わっていただくことで、体験学習を中心とした、主体的な学習活動につながった。

【教職員　「フィールドワーク」（職員研修）】

地域に眠る様々な歴史や文化、人々とふれあうことで、今後の地域学習のヒントを得るため、夏季休業期間中に教職員の研修として、フィールドワークを行った。地域コーディネーターには、打合せ・調整に協力してもらい、有意義な研修になるよう相談にのっていただいた。新しい地域の魅力を発見し、新たな地域社会との接点を持つことができ、大変貴重な経験となった。

■　実施に当たっての工夫

〇今年度から事業が始まったこともあり､まずは少しでもボランティアとのつながりを広げるため､教職員にアンケートを行った。いつ、どの教科で、どんな目的で支援を必要としているのか、年度初めと２学期中頃に聞き取りをし、必要な支援を把握した。アンケートをもとに、必要な支援を明確にし、それをもとに地域コーディネーターからボランティアをお願いすることで、支援の輪を広げられるようにした。

〇フィールドワークを実施することで、教職員自身が地域をより身近に感じることができた。お世話になった講師の方からも、「子どもたちにぜひ体験してほしい。今後の学習に生かしてほしい。」という声を聞かせてもらい、今後の地域学習の充実、その可能性を広げることができた。

■　事業の成果

〇地域との新たなつながりを創出し、広げることで、学校教育活動の中に地域の力を生かす取組を位置づけることができた。
〇本物に触れ、体験を重ねることで、わくわくしながら主体的に学習に取り組む子どもの姿が見られるようになった。
〇学校に様々な人が集まり、それぞれの経験や知識を生かした活動を展開していくことで、支援をしてくださる地域の方々にとっても自分を生かす場となり、活発な地域づくりにつながる、学校と地域双方にメリットがある活動になった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校が求める支援内容を十分に理解してもらえるよう、十分な打合せが必要である。
〇地域の高齢化も進み、今後新たなボランティアをどう創出していくか、持続可能な方法の検討を重ねていくことが重要である。

■　その他

山上小学校 HP：http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の方に支えられて、地域の方とともに学ぶ　（五個荘小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
五個荘小学校支援地域本部	ボランティア登録数	120　人
関係する学校 五個荘小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では平成 25 年度から本事業に参画し、地域コーディネーターを中心に学校教育活動や環境整備に協力していただける地域の方を探していただき、活動を進めている。毎年お世話になっているボランティアの活動の定着とともに、支えていただいている活動にも広がりが見られる。継続した取組により、ボランティアの子どもへの関わり方や支援の仕方についても、慣れた様子でサポートしていただけている。これにより、ボランティアと学校とのつながりも強まり、学校理解へとつながっているようにも感じる。また地域コーディネーターの精力的な動きによって、学校からの要望に対して惜しみなく全面的にバックアップしていただき、学校の教育活動がより充実したものとなっている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）授業補助
- 総合的な学習の時間「ふるさと学習」で、地域の歴史や取組を話していただいた。お話をもとに学習を深め、学習発表会で地域の方や保護者に発信した。
- 五個荘の郷土料理「泥亀汁」作りにおける支援
- 茶道、生け花、和太鼓などを使ったクラブ活動における支援
- 家庭科での、手縫い、ミシンの学習支援
- 本の読み聞かせ

（2）学校行事支援
- 校外学習やたてわり遠足等の引率補助や交通安全見守り
- マラソン大会にむけて、試走・当日の交通安全見守り

（3）学校周辺環境整備
- 学校周りの植木の剪定

【　ふるさと学習　】

■　実施に当たっての工夫

○職員への周知を図るため、いつ、誰が、どんな目的で来校されたかがわかるように、ホワイトボードを設置した。また、年間でどのような活動があったかがわかるようにした。
○地域コーディネーターと教職員が打合せをする時間を設定した。
○多くの人に活動をしてもらえるよう、「学校だより」やホームページでボランティア活動の紹介をした。
○参加してくださったボランティアを学校行事に招待して、日頃の子どもたちの様子を参観していただいた。

【　泥亀汁作り　】

■　事業の成果

○地域コーディネーターの積極的な働きかけにより、新たな事業について協力をお願いすることができた。
○事業が定着しつつあり、スムーズに活動を行うことができた。
○専門的な知識を持ったボランティアに直接教えていただくことにより、子どもたちにとって満足のいく活動となった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○従来の連携した活動はすることができたが、協働的な活動にまでは、なかなか至っていない。
○今後も、より地域に根ざした活動を展開していく必要がある。

■　その他

学校ホームページ　http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校を核としたビジョンの共有「みんなで育てよう　愛東南の子どもたち」（愛東南小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
愛東南小学校支援地域本部	ボランティア登録数	25　人
関係する学校 愛東南小学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校の学校支援地域本部は昨年度に発足し、従来の学校ボランティアの考え方を継続整理しながら拡充を模索している段階である。今年度、地域コーディネーターが代わり、新たに選出されてから日が浅く、十分に軌道に乗っているとは言えないが、本校ならではの利点を生かしつつ将来的な方向性を探り活動を進めている。地域は学校に協力的であり、子どもたちを大切にする土地柄であるので、「愛南小応援団」として連携を図り、更なる活動の幅を広げていきたいと考えている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇「ブッくんの会」による読み聞かせ

毎週火曜日と木曜日の「本の時間」の 15 分間、ボランティアグループ「ブッくんの会」の皆さんが全校各クラスで読み聞かせを行っている。

〇くだもの名人さんに学ぼう

あいとうメロンをはじめ、道の駅「あいとうマーガレットステーション」で直売されている果物や野菜は、市内外だけでなく、県外からも多くのお客さんが来て買っていかれる。このような活況にある現在に至るまでの地域の人びとの努力やそれを維持する農家の皆さんの取組を、地元のゲストティーチャーをお迎えして３年生の総合的な学習の時間に系統的に学んでいる。

〇ＰＴＡ子どもを語る懇談会

本校では、育成部の活動として、以前からＰＴＡ役員と教職員とが膝をつき合わせて話し合う「子どもを語る懇談会」が設定されている。例年、様々なテーマを掲げつつ、役員同士の子育ての悩みや地域での子どもたちの様子等、情報交換や支援協力を行い、学校と地域の親交を図ってきた。

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

詳細は、愛東北小学校支援地域本部で掲載（P114）

■　実施に当たっての工夫

〇学校が地域にどのような支援を求めるのかを今後さらに明らかにしていかなければならない。また、学校側が求めても、実際に地域が応えられるのか定かでない。学校のニーズに合わせ、地域コーディネーターを中心に地域の人員調整ができるように心がけている。

〇今年度は、ＰＴＡ役員と教職員が、同じ視点で目標を持って子どもたちを見ていけるように、学校目標に照らし合わせて子どもたちの現状や課題を共通理解し、今後の方向性について考えた。

【ワークショップ　本部グループ　】

■　事業の成果

〇子どもたちは「ブックんの会」のみなさんに感謝の気持ちを伝え、プレゼントを渡した。名人さんに学んだことを学習の成果としてまとめ、くすのきまつりで発表した。ボランティアの皆さんは、子どもたちの姿に、「うれしかった。」「もっとこうすればよかった。」と次につながる感想を持ってくださり、双方に良い活動として成熟してきている。

〇ＰＴＡ役員との懇談会では、「とても楽しかった。」「先生たちがそんな思いを持っていたことを知らなかった。」という感想を持ってくださり、今後、同じビジョンを持つ素地作りとして、期待が持てる活動であった。

【くだもの名人さんに学ぶ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校目標を基盤とした、持続可能な活動にしていきたい。小さな学校で職員の人数に余裕がない中で、絶えず年間を見通した連絡調整やボランティアの発掘、人員確保に気を配る必要がある。

〇「子どもを語る懇談会」は、同じ方向性を持ったビジョンを形成していくことに有効であった。今後この活動を継続していくことによって、視点や考え方が整理できると考えている。また、メンバーが地域コーディネーターや民生委員・児童委員などを核として構成されていくと、学校を核としてさらに組織的で地域を大きく巻き込んだ活動にしていくことが可能である。将来を見据え、計画的に取り組んでいきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

前例・慣例にとらわれず、依頼・提言があれば、地域の力を借りて　（愛東北小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
愛東北小学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 愛東北小学校	開　始　年　度	平成 26 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

十年単位で長期間継続されている支援活動（環境学習・福祉学習など）と、その年度あるいはその年の担任の先生の依頼に基づく単発的な活動を両輪として進めている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）１年生「むかしの遊び」用お手玉作りについて

長年使用してきたことで、「お手玉」に汚れや痛みが目立つようになり、新しいものが必要となった。地域コーディネーターに依頼したところ、お手玉の中身となる小豆や大豆を提供していただける方、子どもの手に合う少し小型のお手玉を作ってくださる方の情報収集を行っていただき、直売館のある「あいとうマーガレットステーション」や「愛東図書館」に快く依頼を引き受けていただいた。

５個単位で異なる柄の布でできた袋付きのお手玉を 50 個作っていただき、１月の授業を待つことなく、昼休みには子どもたちのお気に入りの遊び道具となっている。

【カラフルお手玉大人気】

（2）５年生「田んぼの子」の体験学習について

従来当校では、「田んぼの子」は２年生の授業であったが、平成 29 年度からは一般的である５年生へと変更した。新たな取組となったその一つが、除草機を使った除草作業の体験である。除草機の借用は「能登川博物館」に、その使用方法の説明や人材情報は「あいとうエコプラザ菜の花館」に協力をお願いした。いずれもすぐに対応していただき、無事体験を実施することができた。

また収穫体験では、定番の鎌での作業のみの予定であったが、横にあったコンバインを見たボランティアスタッフの方から、コンバインでの刈り入れ・脱穀の提案があり、子どもたちが昔と現在の作業内容を比較体験できた成果が、学習発表会の場で遺憾なく発揮された。

【すぐにコツをつかんだ除草作業】

当本部では、学校側の依頼に対し、登録ボランティアの方々の中から適切な方にお願いするスタイルをとっており、上記のようにその依頼に対し、情報などを集約的に持っておられるところへの協力依頼を第一としている。また、先生や地域の方々の子どもたちへの思いをできる限り実現できるように心がけている。

■　学校支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的：お互いに教え合い、異年齢集団での関わりを広げる。学力の向上。地域の方々との関わりを深める。
〇支援員数：宿題教室４人、イングリッシュ教室４人
〇支援員の属性：大学生及びＡＬＴ
〇学習形態：宿題教室（３グループによる少人数指導）、イングリッシュ教室（一斉指導及びグループ学習）
〇教室のもち方と実施日数：宿題教室（夏休み３日）、イングリッシュ教室（夏休み２日）　〇子どもの平均参加人数：30 人

■　実施に当たっての工夫

〇関わっていただく地域の方々も、学校側の先生方も、お互い負担にならない関係・距離感を保持することに留意している。
〇直接子どもたちと接していない関係で協力してくださる方々にも、子どもたちが感謝の気持ちを持つように、そしてそれを伝えられることを心がけている。

■　事業の成果

〇毎年行っている支援活動も多くあるが、実績を検証した上、改善する取組が見られた。小さなことも多いが、今後も支援活動は大切にしていきたい。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇すでに一部検討・実施されているが、学校側の需要を整理することが出発点であると考えており、これを受けて、地域で実施可能なもの、また創り上げることができるものなどを洗い出し、その需要に応えていくことが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさとの宝・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」　（湖東第一小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
湖東第一小学校学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 湖東第一小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校では、「やる気をもち　やさしく　たくましい子どもの育成」を学校目標に掲げて、『三方よし』の学校経営理念で子どもたちのよりよい成長を願って教育活動に取り組んでいる。理念の一つである「社会よし（社会貢献）」は地域の人・自然・文化に学び、ふるさと「湖東」の教育力を生かす教育活動である。地域の年配の方も若い方も本校に対して「地域の学校」という意識を強く持っていただき、子どもたちに優しく丁寧に支援をしてくださっている。湖東第一小学校は、地域と共にある学校・地域コミュニティーの核となる学校を目指している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）田園地帯の広がる自然豊かな地域に立つ本校は、「田んぼの学校」の取組で、３年生・４年生・５年生は、毎年、地域の方々の力を借りて、田植えや稲刈りを体験している。また、５年生は収穫したお米を使ってアイデア料理を調理し、お世話になった方々をお招きして『収穫祭』を開き、交流を深めている。

（２）校区は古くから愛知郡東押立村としての文化の中心であった名残がたくさん残っている地域である。３年生の社会科「発見！！私たちの町の宝物」では、校区の町の自慢や宝物を見つける学習をしている。今年度も北花沢・南花沢町の「ハナノキ」、読合堂町の「半鐘」など地域に残る文化について学習した。また、６年生は社会科の歴史学習で大沢町の戦争疎開体験者から「校区の戦争中の話」を聞かせていただいている。

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的

本校では、毎年、夏季休業中に、国語・算数を中心に基礎基本の定着と理解を深めることを目的として、全校児童希望者を対象に学習教室を実施している。単級で教職員の数が少ない本校は、夏季休業中は特に出張や水泳の指導が重なるため、学習教室の指導にあたる指導者を確保することが困難である。今年度は、少しでも多くの指導者を確保するために、地域に住んでおられる教員ＯＢの方に協力を得て実施することができた。

〇支援員数：１人
〇支援員の属性：地域在住の教職員ＯＢ
〇学習形態：少人数（４～５人）指導、プリント学習
〇教室のもち方と実施日数：図書室に学年ごとに集まり学習を進める。３日間２時間程度
〇子どもの平均参加人数：26 人

【３年生　発見！！私たちの町の宝物】

■　実施に当たっての工夫

〇子どもにとってもボランティアの方々にとっても、どちらも取り組んでよかったと思える活動にするために互いに過度の負担にならないように、連絡調整を行い、計画を立てることが大切である。
〇学習支援活動については、一人ひとりの子どもに寄り添い、学習支援がしやすいように、できる限り支援員の方に指導しやすい学年を受け持っていただいた。

【６年生　校区の戦争中の話】

■　事業の成果

〇子どもたちにとって地域の人とのつながりを大切にし、実体験を積み重ねることを通して、多くの感動を得ることは学習意欲と自尊感情を高めることができた。
〇学習支援活動においては指導者の確保により、一人ひとりの子どもに寄り添い、丁寧な学習支援ができたので、児童にとって有意義な学習ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇短期的に各担任が個別にボランティアの方々とつながるのではなく、学校全体としてのつながりを大切にしながら長期的な関わりを持ち続けていきたい。
〇学習支援活動においてはより多くの指導者（支援員）を確保したいが、学習支援に特化した支援員を確保しようと思うと教職員ＯＢのような指導の経験のある方でないと難しいこともある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

育てよう湖二っ子！（ありがとう　素直な気持ちを大切に）　（湖東第二小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
湖東第二小学校支援地域本部	ボランティア登録数	38　人
関係する学校 湖東第二小学校	開　始　年　度	平成 23 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

（1）学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・ピアノ伴奏・スキー指導補助・夏休み宿題教室・九九暗唱支援等
（2）ゲストティーチャー：地域見学（お寺・石材店・史跡・料理店・工務店・介護タクシーなど）・茶道・華道・釘打ち指導
（3）環境ボランティア：松などの剪定・校舎周辺の草刈り
（4）その他：サッカーチーム依頼・交通安全教室依頼・自転車大会指導依頼

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）
　毎月第２・第４火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。10 年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。また、男性の方にも参加していただいている。

（2）音楽ボランティア
　音楽会に向け、合奏の補助やピアノ伴奏に何度も来ていただいた。パートの練習やリコーダーが苦手な子を支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

（3）茶道・華道
　６年生の総合的な学習で、日本の伝統文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導していただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやおもてなしの心も教えていただけてよかった。この経験をもとに、湖二っ子フェスティバル（生活科・総合的な学習の発表会）でお茶の接待をして、保護者や地域の方に喜んでいただいた。

（4）夏休み宿題教室
　長期休業中の学習支援として、今年度から宿題教室を実施している。
　地域の社会人や高校生に協力を得て、学習支援を行った。

【夏休み宿題教室】

■　学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の概要と目的　夏休み宿題教室
〇支援員数：８人　〇支援員の属性：社会人、高校生
〇学習形態：夏休みの宿題の指導（個別指導）
〇教室のもち方と実施日数：夏休み２日間
〇子どもの平均参加人数：20 人

■　実施に当たっての工夫

　学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用　・保護者からの人材情報および地域コーディネーター交流会での情報活用

■　事業の成果

（1）学習支援ボランティア
・保護者や地域の方の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・子どもの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっており保護者の喜ぶ声もある。
・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

（2）ゲストティーチャー
・学習ニーズに合わせて専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
・地域の方からは「子どもたちにわかる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

（3）環境ボランティア
・昨年度に引き続き、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。このことも長年取り組んできた成果であるといえる。

（4）地域とともにある学校づくり
・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組もうとする気運も高まっている。

【１年生　あさがお植え】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

　地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■　その他

（湖東第二小学校）　http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

体験を通して根拠ある考えを持ち、「学び」あう活動を目指して　（湖東第三小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
湖東第三小学校支援地域本部	ボランティア登録数	23　人
関係する学校 湖東第三小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□ 学校行事支援　□ 子どもの安全確保見守り　□ 部活動支援　■学校周辺環境整備
□学びによるまちづくり　□ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■郷土学習　■地域行事への参加
□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本年度も、校内研究のテーマが「社会・生活科」となったことで、さらに家庭や地域との連携をより深め、効果的な取組となるように努めてきた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）２年生の生活科「まち探検」３年生の社会科「地域学習」において、より広がりと深みを持たせた。地域コーディネーターも積極的にその方針に参画して、『愛知井（えちゆ）を辿る』を意識した「まち探検」とした。

（２）本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施するなど、熱心に取り組んだ。昼休みに定期的に発表活動をしている。さらに、研修会も実施した。「朝読書」には、一般の読書ボランティアも巻き込んで毎月「読み語り」も実施した。

（３）伝統の花壇づくりを継承すべく、新たなボランティアが加わり年間を通して児童に活発な活動を生み、成果も現れた。

【元湖東図書館長を招いての読み語り講習会】

■　実施に当たっての工夫

○ 子どもたちが地域のよさに気づき愛着を持てるよう「まち探検」では、新たな訪問地（パナホーム敷地内）を開拓して、４年生の学習につながる『愛知井』の箇所や、各町の高低差に注意を促して、この地が「扇状地」にあることを意識させた。

○ ５年生の田んぼの学校では、かねてからの田んぼ提供協力者や農業委員と協力して、「昔の刈り取り・脱穀」の体験学習を意識的に取り入れた。

○ ６年生の平和学習（歴史学習）で、この地域の昔の写真やその他の戦時中の写真などを提供して、出前授業に至るまでの学習に厚みを持たせ、疎開時代の経験を語るゲストティーチャーを招聘（しょうへい）した授業につなげることができた。

○ 今年度は、昨年度末から発行を始めた地域コーディネーター通信を月刊で発行した。

■　事業の成果

○ 読書ボランティアや園芸ボランティアとして募集をしたところ、かねてから登録していただいている方の紹介で新たなメンバーが加わり、活動内容が広がった。

○ 担任とコーディネーターが連携することで、新たな取り組みも生まれ、今年度の「生活・社会科の研究」に深まりが生まれる一助となった。

○ ２年生の生活科では、「昔あそび」や「まち探検」で印象的だった「達人さん」を 再度訪問するという学習ができた。

○ ３年生「まち探検」では、地元大企業の内部に入らせていただいて古墳の存在を知り、以後の学習への発展も考慮できた。

○ 『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなり、近くの「こもれ日『小田苅家（こたかりや）』」での「ひまわり食堂（子ども食堂）」への参加者も徐々に増え、連携を深めている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○ コーディネーターと各担任の連絡調整には放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。

○ 「こもれび『小田苅家』」での活動と地域での活動を有機的につなげ、さらに深めるために、放課後や土曜日の活動のルール作りを模索していかなければならない。

【金寿堂でのイボ作り体験（３年生）】

■　「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（○）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（○）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。（蒲生東小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
蒲生東小学校支援地域本部	ボランティア登録数	27　人
関係する学校 蒲生東小学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■その他［あかね通学合宿ボランティア　］

■　活動の概要

毎月のボランティア会議で、活動いただいたことについての気づきや感想などを出していただき、今後の支援活動に生かすようにしている。また、今後の支援活動の予定をお知らせし、参加者に活動のねらいや日程、内容などを把握していただいている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材を生かしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、地域住民ならではの経験を生かしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施した。

今年度は、朝タイムの読みきかせ、１年生の生活科「さんぽ」「昔の遊び」、２年生の生活科「お店探検」「生きもの探検」、総合的な学習の時間では、３年生の「町探検」「農場見学」、４年生の「環境学習」「福祉シニア体験」、５年生の「田んぼの学習」「児童会フェスティバルのだんごづくり」、他に６年生の社会科「あかね古墳見学」「平和学習」、理科「地層見学」、あかね通学合宿などへの支援をした。

【６年生の総合的な学習「地域歴史探険」】

■　実施に当たっての工夫

蒲生東小学校支援地域本部は、平成 13 年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続している。

「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けている。

毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合い、２～３ヶ月先を見通して参加者を募っている。今年度は、この会議で出された意見から、発表会の参観を取り入れた。担任との連携を細やかに支援できるようにした。

【３年生の社会科「地域の探険」発表会】

■　事業の成果

地域の方々の専門性や技能を生かした支援や安全への配慮をし、豊かな学習活動を展開することができている。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながった。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができた。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動している。今年度、体験活動した子どもたちの学習の成果物や発表会も参観する機会を増やしたことで、学習のねらいに応じた支援の在り方や体験活動の生かし方についても感じることができた。

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を生かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの参加や育成、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題となっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう　（蒲生西小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
蒲生西小学校支援地域本部	ボランティア登録数	83　人
関係する学校 蒲生西小学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・読み聞かせと図書ボランティア
・登校旗の修理や環境整備
・田んぼの学校
・栽培活動を中心とした生活科学習
・九九聞き取りボランティア
・町探検などの地域学習
・あかね通学合宿
・登下校時の見守り
・スキー実習ボランティア

【田んぼの学習ボランティア】

【通学合宿ボランティアしおり作り】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」と言うキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。

（２）「田んぼの学校」や「栽培活動」は地域団体等のボランティアに協力してもらい、個別指導や小グループ毎の指導を行っている。「あかね通学合宿」は、校区の６年生を対象に実施している。自治会公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々の見守りの中、自立した生活を目指している。地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業を行い、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。

■　実施に当たっての工夫

〇支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。

〇「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことをこの合宿で経験する場としている。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。

■　事業の成果

〇「あかね通学合宿」は参加児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見を多く聞くことができている。地域の方と児童の年齢を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。

〇農業団体と学校との継続的なパイプができつつあり、様々な活動に協力してもらえる関係となっている。

〇地域の学習を通して、地域理解が深まるとともに、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。

〇地域の大きな行事、イベントに児童が参加することは、地域の一員であることの意識づけになっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの多くが固定化されつつあるとともに、高齢化もみられる。

〇「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、自治会の施設に頼る面が多く、受け入れてもらえる自治体が少なくなっている。学校やＰＴＡ組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見がある。

■　その他

参考ＵＲＬ　蒲生西小学校ＨＰ　http://www2.higashiomi.ed.jp/ganishisho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう！　（蒲生北小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
蒲生北小学校支援地域本部	ボランティア登録数	55　人
関係する学校 蒲生北小学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　**活動の概要**

平成 20 年度から、蒲生地区(１中学校、３小学校)で学校支援地域本部事業がスタートした。一人のコーディネーターが中心になり、各種社会教育団体やボランティアグループと連携し、様々な実践が繰り広げられた。そして一昨年度に、４校を担当していたコーディネーターが２校を担当することになり、昨年度からは、各校一人のコーディネーターが配置された。そのため学校に来て、教職員と交流する時間が格段に増え、学習の支援や担任の事務負担の軽減、環境整備等で地域の支援を受けることができ、地域とのつながりが感じられるようになった。

■　**特徴的な活動内容**

・田んぼの学習

田植えや稲刈り、収穫祭等に参加していただけるボランティアを募るチラシを作成し、老人会などの組織を通じてお願いした。田植えや稲刈りは、３年生と５年生が体験することもあり、多くのボランティアに参加していただき、慣れない手つきの子どもたちに、昔ながらの方法を優しく教えていただいた。収穫した米は、関係した学年がＰＴＡとも協議し、それぞれ工夫して、３年生は五平餅、５年生はおはぎをつくった。また、５年生は感謝の意味も込めて田んぼに関する様々な学びの発表会にボランティアを招待した。

【５年生　田んぼの学習】

・あかね通学合宿

６年生の希望者を対象に、今年度は今までと異なる自治会の公民館で、地域のボランティアの見守りの中、３泊４日の自立した生活を目指して開催した。毎日、夜には地域のゲストティーチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えていただく「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会を設けた。今年は 23 人が参加した。

・３年生のまち探検

地域コーディネーターが、子どもたちに地域の特徴や歴史などを教えられる方を探した。そして、子どもたちがその地域を訪ね、地域の変遷や自慢できることなどを伝えていただいた。人とのふれあいも加味され、より深く地域を学ぶことができた。子どもたちの希望で再度訪れた地域もあった。

【３年生のまち探検】

・環境整備

本校にも草刈機や耕運機があるが、古くて十分に使えない状態であった。そこで、地域の詳しい人に相談して、メンテナンスをしてもらった。また、草刈りボランティアを募り、学校周辺の気になるところを定期的にきれいにしていただいている。今後このメンバーが増えると教職員の負担が軽減されるので期待している。

・図書ボランティア

図書館の壁面の飾り付け、本棚の整理、傷んだ本の修繕など、学校図書館の環境を整えていただいている。また、毎月休み時間に読み語りもしていただいていて低学年を中心に楽しむ子どもが増えてきている。壁面飾りのレベルが上がり、学校支援地域本部の支援がとても役立っている。

■　**実施に当たっての工夫**

・教職員が事業の本質と内容を理解できるよう、折を見て職員会議で伝え続けた。
・コーディネーターと連携・連絡を円滑にするため、来校日を週１回ほぼ固定し、メモ等を入れるトレーを設置した。

■　**事業の成果**

・地域の方との連携により、教職員の意識が変容し、事業への理解が高まり、本事業を利用する学年が増えてきた。
・毎年楽しみにして、積極的に参加されるボランティアが増えてきた。
・草刈りボランティアなど、環境整備に関する活動に参加していただける方が増えた。

■　**事業実施上の課題**

・年間を通じてボランティアをしていただく方は固定化しつつあるが年齢が高くなってきており、新しい方の発掘が必要である。
・ボランティア組織をしっかりとしたものにできるように、呼びかける機会を多くつくるようにしていきたい。

■　その他　　参考ＵＲＬ（蒲生北小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/gakitasho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～（能登川東小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
能登川東小学校支援地域本部	ボランティア登録数	40　人
関係する学校 能登川東小学校	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

人とのかかわりを通して、子どもたちの体験をより豊かなものにし、将来をたくましく生きるための学びが深まることや、何よりも子どもたちにとっての「安心・安全」な居場所づくりのために、直接子どもたちにかかわる学習支援を中心に活動を継続している。　＜キーワード＞…「かかわる」「見える」「つながる」＆「熟議と協働」

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）【校外学習引率補助】
◇特別支援学級＜苗買い　校外学習＞　◇１年生＜校外学習＞　◇２年生＜生活科町探検　図書館見学　校外学習＞
◇３年生＜社会科地区探検　お店・工場見学　農業体験学習　市内巡り＞
◇４年生＜森林環境学習　福祉交流学習＞　◇５年生＜幼稚園児との交流学習　校外学習＞
◇６年生＜施設見学　校外学習＞　◇５，６年生＜市陸上記録会＞

（2）【学習支援・その他】
◇特別支援学級＜苗植え　調理実習　抹茶体験　物づくり＞
◇１年生＜歯科保健指導＞　◇２年生＜苗植え　調理実習＞　◇３年生＜図工釘打ち＞
◇４年生＜しめ縄作り＞　◇５年生＜家庭科ソーイング　ミシンで製作　調理実習　図工製作＞　◇６年生＜ミシンで製作　調理実習＞　＊能体験学習
◎全校マラソン大会（試走）の立哨補助　◎５、６年生委員会活動＜苗植え＞

（3）【環境整備】
◇ミシン点検　◇カバー作り　◇ゼッケン、けん玉修理　◇玄関環境整備
◇家庭科室整備

【５年生　家庭科ソーイング】

■　実施に当たっての工夫

・年度当初に、「本事業のお知らせと学校ボランティア登録のお願い」文書を、また各学期末に「ボランティアだより」を全戸配付し、保護者、学区民に理解と協力が得られるようにした。また、職員にも朝の打ち合わせで発信を行い、活動が見えるように心がけた。
・コーディネーターのネットワークやボランティアのつながりを活用しながら、支援者を広げるとともに、お互いの交流を大事にするようにした。（会議や交流会の開催）

■　事業の成果

・今年度も新たに６人の方が登録してくださり、40 人のボランティアで様々な支援活動をしていただくことができた。
・学校として事業が位置づくようになり、全学級、全校にかかわっての支援ができた。
・校外学習では、多人数の大人がいることで、より子どもたちの安全確保につながった。
・学習支援では、個別支援がより多くなり、子どもたちの安心感や達成感が増した。また、わからないことや困ったことがあれば、自分たちからボランティアに声かけができるようになり、かかわりの中で挨拶ができたり、お礼の言葉が自然に出るようになった。
・ボランティア自身の学ぶ場にもなり、またお互いの交流もさらに深まった。
・ボランティアからの提案で、自主的に活動していただくことが増え、子どもたちの学習環境を多方面で整えていただいた。

【６年生　能体験学習】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校がめざす子ども像を明確にし、そのために教育活動にどのように位置づけ、活用、運用していくのかの熟議が必要である。
・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「つながり」を大事にしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして　（能登川西小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
能登川西小学校支援地域本部	ボランティア登録数	60　人
関係する学校 能登川西小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

能登川西小学校区のコミュニティーには、１世紀前からの「共生共育」の歴史があり、11 自治会と同窓会、教育推進会の関わりの基、平成 16 年に能登川西小学校区地域教育協議会が発足し、家庭や地域の教育力を上げるための活動に賛同したボランティアから学校支援が始まった。従来から根づいている「共生共育」の理念を受け継ぎ、学校から子どもたちが地域に積極的に関わっていくことで、地域と学校が連携・協働し「ふるさとを大切にする子」「地域社会に貢献できる人材」「将来の地域の宝」の育成をめざしている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）ふるさと発見

２年生「町たんけん」、３年生「地域学習」、４年生「ごみ学習」５年生「みずっこ調査隊」６年生「ふるさと発見」において、地域コーディネーターが担任や児童を支援し、地域の自然や人、歴史を発掘し、資料を提供したり打ち合わせをしたりなど、連携を取りながら主体的な学習を行った。６年生は自分たちで取材許可を取り、調べた史跡や歴史のパンフレットをつくり地域に発信した。取材先から感謝され返事をいただいたことで、自信を持ち地域に誇りを持つことができた。

（2）花ボランティア

コーディネーターが環境ボランティアを募集して、園芸委員会やＰＴＡ生活環境部とともに、ＦＢＣに参加する花壇の苗植えや、草取りを行った。また運動会には、花いっぱいのプランターを本部席前などにおいて、地域と児童の連携による花いっぱい運動をすすめた。

（3）マラソンとさわやかロードボランティア

コーディネーターが立哨ボランティアを募集して、マラソン試走日とマラソン大会で、コースの安全立哨と応援を依頼した。沿道に立って見守り、励ましてくださったことで、子どもたちのやる気が高まった。朝の交通立哨やあいさつ運動など、日常的な取組が、子どもたちの安心につながった。

【　伊庭「謹節館」にて地域学習　】

（4）ふれあい福祉訪問

長年にわたり、６年生が自分の住む地域の一人暮らし老人宅を訪問している。児童は下校時にそれぞれの集会所などに集まり、地域の日赤奉仕団の方に案内していただき、数件の家を回っている。１回目は、運動会の案内パンフレットと手紙を持って訪れ、２回目は、園芸委員会が育てラッピングしたパンジーの鉢植えを持ち、３年生と共にプレゼントに訪れる予定をしている。語らい交流をすることで子どもたちは、思いやりの心を育てている。

【　ふれあい福祉訪問　】

■　実施に当たっての工夫

○夏休みに「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」の文書を全戸配付して、学区の方々に理解と協力が得られるようにした。
○西小学校区地域教育協議会の定例会と、地域教育協議会のネットワークを利用し活用して、さらに支援者を広げる努力をしている。
○心が通い合う場（手づくり感）を大事にして、子どもたちから地域に発信させるようにしている。

■　事業の成果

○地域コーディネーターの働きにより、持続可能な発展が期待できる事業となった。
○人との関わりを通して、子どもたちの体験が「ほんもの」の体験になり「感動」の共鳴になり、いろいろな人から認められ、ほめられる場面が増えることで、子どもたちの自尊感情が高まり、ふるさとが好きになり、地域や自分に自信と誇りを持つことができている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○これからも持続可能で発展する取組になるように、丁寧に引き継ぎを行い、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動に結びつくようにしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域に感謝　子ども応援隊　（能登川南小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
能登川南小学校支援地域本部	ボランティア登録数	150　人
関係する学校 能登川南小学校	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校のめざす子ども像は「よく考える子」「感謝する子」「ねばり強い子」である。中でも「感謝する子」は、相手の気持ちを大切にし、進んで人に関わる子どもに育てることをめざしている。学校だけでなく、地域の方々との交流の中で効果的な向上を期待し、より多くの人に学校へ来てもらい、子どもと交流できるように取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）芝生応援隊

校庭が芝生化されて３年目となり、子どもたちは、ボール遊びだけでなく様々な遊びを楽しんでいる。子どもたちの怪我は減少し、運動量が増えた。芝生管理については、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に芝生刈りや施肥をしていただいている。今年度は、学校支援地域本部事業における、中核的な組織として活動している。

（２）猪子山活動

本校は、環境学習にも力を入れている。学校のすぐ近くにある猪子山をフィールドとして、年間を通して全学年が活動している。その際のお手伝いとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、子どもたちへアドバイスをしていただいたりすることができた。

【　剪定作業　】

（３）剪定作業

敷地が広い本校においては、職員だけでの世話が不可能なものとなっている。そこで、庭木の剪定作業を地域コーディネーターにお願いし、レイカディア大学の受講者を中心にして、およそ 10 人のボランティアを集めていただいた。学習された知識と技能を生かし、大変きれいに仕上げていただいた。夏だけの予定だったが、参加者の意欲が高く冬にも作業をしていただく予定である。

■　実施に当たっての工夫

〇今年度は、地域コーディネーターにも芝生応援隊の活動に参加いただいた。定期的に学校に集まる組織なので、そこで他の活動の依頼をすることもできた。また、この事業のよさを教職員に浸透できるよう、水曜日の昼休みは、職員室で地域コーディネーターと先生方が話せるようにした。さらに、４月に年間計画を立て、どの場面で地域の方に支援を求めるかについて共通理解して取り組んだ。

〇昨年は、ゲストティーチャーとして、地域の方に来ていただくことが多かったが、今年は、より多くの方に参加してもらうことを大切にし、校外学習の引率やマラソン大会の立哨等気軽に参加できるような場面を工夫した。

■　事業の成果

〇地域の方との連携により、子どもたちのためだけでなく、教師の事務負担の軽減にもつながった。こうした取組を経験することにより、教職員の意識が変容し、事業への理解が高まり、浸透しつつある。

〇ミシンボランティアなど新しく参加していただける方が増えた。

〇専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習内容が豊かになった。

【　ミシンボランティア　】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアとして支援いただく方は、地域で何かしらの活躍をしておられる人が多い。新しい方の発掘が大切である。先を見据えボランティア組織をしっかりとしたものにしていく必要がある。

〇保護者ボランティアとして学校行事等で支援してもらっている伝統がある。スクールガードとして長年活躍されている方もいる。協働活動へ高めていけるよう、それぞれの組織の連携を強化していく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共に歩む学校！地域の力を学校に！ボランティアによる安心・安全の学習サポート！　（能登川北小学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
能登川北小学校支援地域本部	ボランティア登録数	17　人
関係する学校 能登川北小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・本校は全校児童 82 人、県費教職員 12 人の小規模校である。校区には４つの自治会があり、大中町をはじめ農業の盛んな地域である。地域の課題としては、少子高齢化が進み、人口の減少が問題となっている。外部からの移住者は少なく、地域には本校出身の方が多い。地域の方々は、「おらが学校」という意識が強く、学校教育に対して大変協力的である。

・本年度から学校支援地域本部事業を実施し、コーディネーターを中心に活動に取り組んできた。地域との協働事業はこれまで通り実施し、１年目は、学習サポーターとしてのボランティアスタッフの整備充実を図ることで、教科学習や行事において安全で豊かな学びが保障できるように取組を進めた。

・４月にはボランティアスタッフ募集のチラシを保護者や地域の方々に配布した。また、５月のＰＴＡ総会において保護者を対象にボランティアとしての協力をお願いした。

・書面による募集では、ほとんど登録を申し出る方がおられないため、これまでのボランティアの方に再度依頼したり、協力していただけそうな方に依頼したりすることで登録者を増やしていくことができた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇学校支援地域本部事業

（１）読み語りサークル「大きなかぶＬａさん」による読書活動

・毎週月曜日、６人のメンバーが朝自習の時間に読み語りを実施

・学期に１回「ちょっと豪華なお話し会」と題して、大型紙芝居やペープサート等で読み語りを実施

（２）学習サポーターによる学習指導・学習支援

・社会科　米作り体験（５年生）・家庭科　ミシン・調理実習（５年生）・総合的な学習の時間　ハウス野菜の栽培（６年生）

・社会科　地域学習引率補助（３・４年生）　等

〇継続的に実施している地域と学校の連携・協働事業（学校支援地域本部事業以外）

（１）くりみフェスタ（全校）

今年で第 13 回目となる学区最大のイベントである。午前中は音楽会、午後は食や遊びのブースを設営し、地域の方々が互いに交流を深めた。（学区地域教育協議会・自治会長・ＰＴＡ・スポーツ推進委員・老人クラブ・婦人会・地区体育協会等）

（２）ほんわかサロン（５年生）

総合的な学習の一環として、約 80 人の地域の高齢者の方をお招きし、音楽発表、高齢者の方とクイズやゲーム、会食などで交流を深めた。（自治会長・民生委員児童委員・デイサービス職員・日赤奉仕団）

（３）魚のゆりかご米料理教室（４年生）

ゆりかご米の米粉を使った料理教室を実施することで、地域の米作りや米を使った調理に関心を持つことができた。

（栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会・ＪＡグリーン近江能登川支店）

■　実施に当たっての工夫

〇ボランティアの募集を学習サポーターに限定することで、無理のない事業実施につながった。

〇地域と本校の教育課程によく通じている元本校職員に地域コーディネーターを委嘱し、スムーズに活動が実施できた。

■　事業の成果

〇学習サポーターの専門的な指導や個別指導により知識や技能の定着が確実になった。

〇新規のボランティアの発掘とボランティア名簿の整理ができ、学習のサポート体制が整備できた。

〇ボランティアとの連絡調整など、担任の業務の負担軽減につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域コーディネーターと担任との打ち合わせの時間が確保できなかった。担任からの積極的な声かけが必要である。

〇樹木の剪定や校地の除草等、ボランティアを組織して学校の環境整備を実施する。

〇これまでからある組織や連携事業を、今後いかに地域と学校の協働事業へと発展させていくのかが課題である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域に根ざし、地域と共に育つ学校の創造を目指して　（玉園中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
玉園中学校支援地域本部	ボランティア登録数	８　人
関係する学校 玉園中学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

（１）主に玉緒地区・御園地区に在住の人に地域ボランティアとして学校行事や学習活動等の支援をしていただく。
（２）地域に根ざしている「あいさつ運動」を推進する拠点として、学校の正門や近くの交差点等で活動をしていただく。
（３）部活動の技術指導等ができる地域ボランティアの方の協力をいただき、子どもと地域のつながりを深めていく
（４）特別活動や総合的な学習の時間において、地域ボランティアの方に、専門的な知識や技能等を紹介していただく。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）文化祭における八風太鼓の演奏
・御園地区の八風太鼓を、３年生の文化祭の活動の一部に加え、地域の八風太鼓の指導者の方に指導をしていただき地域文化を広め、地域の良さを確認する。また、地域で八風太鼓を習っている生徒が、他の生徒に太鼓の演奏を指導することでより地域との関係が深まった。
・文化祭の合唱の練習、当日の審査等に地域の音楽専門的な技能をお持ちの方に依頼して活動をしていただいている。
（２）部活動（軟式野球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、吹奏楽）の指導において、専門的な技術指導をしていただいている。
（３）性教育や薬物乱用防止の授業など、専門的な知識を持ち合わせている地域の教育機関（大学等）の専門家を招聘して授業をしていただく。
（４）３年生の２学期から地域の学生に放課後学習ボランティアとして生徒の学習支援をお願いしている。また、特別支援学級学習指導ボランティアとして大学生に来てもらって学習支援をおこなっている。
（５）平和学習においては、愛東地区の県立平和祈念館のスタッフにお願いして、地域に根ざした平和学習を展開している。

■　実施に当たっての工夫

〇地域のコミュニティーセンターとの連携をより深くする。
〇校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘に努める。
〇学校だより、ホームページ、ＰＴＡ広報等を通じて、保護者、地域に発信をしている。

【３年生　「八風太鼓」】

■　事業の成果

〇特に今年度は、地域コーディネーターを中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏に取り組むことができた。地域の文化と学校の融合を考え、今後の中学校と地域の関わりの柱となる第一歩を築くことができた。
〇３年生の受験期を迎える２学期の放課後に、自主的な学習の時間を設け、その時間に地域の学生（玉園中学校の卒業生）を学習ボランティアとして迎え、活動することができた。さらに、特別支援学級の学習支援としても地域の学生をボランティアとして受け入れ効果があった。
〇部活動指導においては、生徒が専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇放課後の学習支援ボランティアについては、十分な広報ができておらず、個人的な依頼で行っている現状であり、今後、計画的、組織的に実施していく必要がある。
〇ボランティア人材の発掘については、今後、地域のコミュニティセンターなどとより連携を深め、継続的に推進していかなければならない。
〇今後の「連携・協働」を視野に入れると、学習支援などの単なるボランティアではなく、学校と地域がひとつのものを創り上げていく活動を創造することが必要である。学校と地域が共に活動することによって、地域が活性化するような取り組みを創造することが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域からの支援を受け、歩み続ける聖徳中学校　（聖徳中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
聖徳中学校支援地域本部	ボランティア登録数	３　人
関係する学校 聖徳中学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

聖徳中学校は、今年度に学校支援地域本部を設置した。本中学校区内にある４つの小学校にも、それぞれ学校支援地域本部が設置されており、各本部が連携と協働を念頭に置いて諸活動に取り組んでいかなければならないと考えている。

また、平成 30 年度は、東近江市教育委員会が、毎年度中学校区を単位として指定している「幼小中連携推進事業」に取り組む予定であり、このことを契機に、幼小中連携推進会議、校区研究会、さらには管理職会議においても、幼児園・幼稚園、小学校、中学校の連携が大切であるという認識を持ち、諸活動を推し進めていこうと考えている。

そこで、本支援地域本部では、今後取り組む幼小中連携推進事業と連動させた取組や活動を見い出そうとしており、試行錯誤をしながらではあるが次年度に向けてさらに追究していきたい。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域に根ざしている「あいさつ運動」を推進する拠点として、学校の正門や近くの交差点等で活動していただいている。
（２）「聖一会」（中野地区）や「聖樹会」（八日市地区）等の卒業生（同窓会）組織を活用し、校地内環境整備（除草、枝葉の伐採等）を行っていただいている。
（３）部活動の技術指導等ができる教育活動推進員の方に支援していただき、子どもと地域のつながりを深めている。
（４）ＰＴＡと連携した事業（資源回収等）を行い、地域と学校が連携・協働できる取組を見い出そうとしている。

【校地内環境整備】

■　実施に当たっての工夫

〇地域のコミュニティセンター等との連携を密にし、新たな事業展開の見通しを持つ。
〇ＰＴＡ広報等を通して、保護者や地域への発信をする。（本事業の内容周知、ボランティア協力依頼等）

■　事業の成果

〇毎週月曜日には、ＰＴＡ役員をはじめ、生徒会役員や教員が「あいさつ運動」を行っている。地域の方も一緒に「あいさつ運動」をしていただいたことで、子どもたちが日々の学校生活において充実感を持つことができた。
〇部活動（サッカー部、ソフトテニス部、吹奏楽部等）の指導において、専門的な技術指導等を支援していただいたことで、子どもたちの練習意欲の向上につながっている。

【部活動支援】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校が、まさに必要とする内容と時期に応じることができる地域ボランティアを確保していく。
〇校区内の小学校での学校支援地域本部の活動内容を知り、さらに小学校と連動させた中学校での活動内容を策定していく。
〇校区の実情に合致した継続的な内容の構築を考えていく。
〇主に校区在住の地域ボランティアの方に、中学校の学校行事や学習活動等で連携・協働していく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

船岡中学校　地域とつながろうプロジェクト　（船岡中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
船岡中学校支援地域本部	ボランティア登録数	５　人
関係する学校 船岡中学校	開　始　年　度	平成 24 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

船岡中学校支援地域本部は、地域コーディネーター１人が八日市西小学校と船岡中学校を兼務し、学校と地域の教育力(教育資源)をつなぐ取組を行っている。本年度も、地域の方による学校支援活動と中学校生徒による地域づくり貢献活動の２つの活動に重点的に取り組んだ。

船岡中学校は以前から「地域とつながろうプロジェクト」を推進しており、生徒会や部活動等として、希望者らが、地域の様々な行事にボランティアスタッフとして多数参加している。本年度も延べ 120 人を超える生徒が、地域の様々な行事にボランティアスタッフや出場者として参加をした。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域の方による学校支援活動

〇１年生を対象とした「紙芝居授業」の実施
・地域の方による紙芝居「すみれ島」の読み聞かせをしていただいた。
（修学旅行で訪れる沖縄の平和学習導入としての位置づけ）

〇教育活動推進員による部活動支援の実施
・ソフトテニス部の外部指導者に土・日曜日に指導を行っていただいた。

〇中学生１～３年を対象とした「ようこそ先輩授業」の実施
・地域の方に、御自身の経験をお話しいただき、キャリア教育を行った。

（２）中学校の生徒による地域づくり貢献活動

〇中学生の地域行事への参加
・校区にある２つのコミュニティセンターを通じて紹介のあった地域行事にボランティアスタッフや出場者として参加をした。

【夏まつりでの司会の様子】

■　実施に当たっての工夫

〇地域の教育資源を有効に活用するための工夫
・学校と地域コーディネーターが密に連携することで、学校の要望を的確につかみ、適切な人材を紹介できるように努めた。
・学校と地域の支援員との打合せを丁寧に行い、学校の「ねらい」を実現するように努めた。

〇中学生の地域行事参加を推進するための工夫
・年度当初に学校とコミュニティセンターとで地域行事の日程調整を行い、中学生が参加しやすいように努めた。
・地域ボランティア参加の呼びかけを、中学校の全校体制で行い、参加しやすいように努めた。
・校区を形成する２つの地区の市民運動会の日程を同一日に設定していただき、その日の部活動を全面中止にすることで、中学生が参加しやすいように努めた。

■　事業の成果

〇地域の方々や保護者が学校にかかわっていただく機会を積極的に設定することで、中学校の教育活動への理解が深まり、地域に根ざした開かれた学校づくりができた。

〇様々な経験や専門的な知識をお持ちの方からの指導を受けられたことから、授業の内容に広がりと深まりが加わり、生徒の目が輝く授業となった。

〇自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な取組に参画することは、地域に対して誇りを持つことにもつながり、「自尊感情の育成」を支える要素になっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域コーディネーターが学校の要望を的確に把握し、タイムリーに適切な人材を紹介するためには、学校と十分な打合せの時間が必要である。今後さらに連携を密に取り、効果的な協働活動を行いたいと考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに歩み、育つ永源寺中学校生　（永源寺中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
永源寺中学校支援地域本部	ボランティア登録数	4　人
関係する学校 永源寺中学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

おもに、各学年の総合的な学習の時間における活動、地域行事における生徒活躍の場の設定、部活動の指導支援において地域と連携した活動を行っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）福祉体験活動：東近江市役所永源寺支所、福祉総合支援課、東近江市社会福祉協議会、永源寺地区認知症キャラバンメイトに協力いただいて生徒の体験活動を行い、福祉の精神について学ぶとともに今後住みたい町づくりについて考えた。
（２）栽培活動：総合的な学習の一環として、地域ボランティアやたけのこ作業所の方の協力を得ながら生徒による椎茸栽培活動を３年間通して行っている。（梅農家の方の指導による学校敷地内の梅林の整備）
（３）地域行事における生徒活躍の場の設定：永源寺地区大運動会における司会やバザー、種目への参加。永源寺地区青少年育成会における司会や意見発表、疾風による太鼓演奏。みんなのふるさとまつりにおける疾風の太鼓演奏や作品展示。

■　実施に当たっての工夫

〇各活動に際しては、事前の打合せを行った。日時、活動の概要はもちろんのこと、目的の共有や、配慮を要すること、当日までの準備、具体的に誰がいつ、何を行うのかについても打合せをした。また、必要に応じて事前のリハーサルも行った。
〇地域行事への参加は生徒会が中心になって行うことで、生徒会役員の一員としての自覚と使命の向上につなげている。

■　事業の成果

〇保護者や地域住民の、学校との連携や支援に対する認識が深まった。
〇学校の教職員のみで行うより、多様な活動を安全に行うことができ、生徒の活動の幅が広がった。
〇地域行事への参加により、生徒のボランティアや地域貢献の意識が高まった。また、地域の方に認められたり声をかけられたりすることで自信にもつながった。
〇部活動の専門的な技術指導が受けられ、生徒の意欲と技術の向上が見られた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇活動を行う際には、ボランティアや地域との打合せ等が欠かせないが、教員の過度な負担とならないようにしなければならない。
〇充実した活動を継続していくためには、人材の確保が課題となる。

【福祉体験】

【永源寺地区大運動会司会】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共につくる特色ある教育活動　（五個荘中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
五個荘中学校支援地域本部	ボランティア登録数	15　人
関係する学校 五個荘中学校	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本校校区は、県下でも大変早くから青少年育成市民会議が設立されるなど非常に教育熱が高く、これまでから、様々なかたちで学校に対する支援をいただいている。一昨年度には、４年に亘る校舎・体育館・プールの全面改築と駐車場等の周辺施設整備が終わり、昨年度からさらに地域の力を学校に取り入れるために、学校支援地域本部事業を実施している。校舎改築により、学校図書館を兼ねた公立図書館（東近江市立五個荘図書館）が併設されるという全国的にもめずらしい施設整備が行われたことを受け、公立図書館の場を利用して、地域と中学校が共に育ち、学べる教育活動をめざしている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）図書館開放支援

現在、原則として週に月・水・金曜日の３日程度、昼休みに図書館を開放している。休館日である月曜日・火曜日以外は、一般の利用者とともに子どもたちは図書館で昼のひと時を過ごしている。図書館の利用マナーや学校生活のルールを守り、生徒と一般利用者が自然なかたちでふれ合い、本に親しむことができるように、ボランティアの方々に見守っていただいている。

【図書館開放の様子】

（２）朝読書・読み聞かせ

本校では、年間を通して毎朝 10 分間の朝読書を実施している。また、１箇月に１度のペースでボランティアの方々（１回につき４人程度）に来校いただき、月ごとに学年を変えて読み聞かせを実施している。

（３）部活動支援

男子バスケットボール部では、４月当初から教育活動推進員の方に支援をいただいている。放課後課や休日の練習、また練習試合等、様々な場面で指導をいただき、公式戦では、ベンチに入って指導していただいた。学校の部活動指導方針を理解し、顧問と協力して技術指導とともにマナーや精神面での指導にも尽力いただいている。

（４）学習支援

４月から教育活動推進員の方による学習支援を行っている。五個荘在住で豊富な教員経験をお持ちであるため、子どもたちの興味・関心を高める学習支援を行うことができている。

【読み聞かせの様子】

■　実施に当たっての工夫

図書館の開放支援に関しては、地域コーディネーターを中心に市立図書館の職員（館長・司書）、学校図書館司書、中学校管理職、図書館担当教諭、生徒指導担当教諭、図書館ボランティアからなる開放支援のための会議を持ち、日程調整や支援の仕方などについて共通理解を図っている。

■　事業の成果

昨年度から、図書館の休館日以外にも開館し、生徒指導面を含む様々な心配もあるが、図書館スタッフや多くのボランティアの方々に、適度な距離を保ちながら温かく見守っていただけたおかげで、マナーよく、けじめある態度で図書館を利用できている。また、学校支援地域本部設立以前からお世話になり、この事業で継続して実施している読み聞かせについては、子どもたちが心を落ち着かせて一日をスタートさせる「朝読書」のアクセントとなっている。こうした取組にも支えられ、全国学力学習状況調査では、学校図書館や公立図書館を月に１回以上利用する生徒の割合は、全国平均の２倍近くになっている。

部活動においては、男子バスケットボール部が、顧問と教育活動推進員の指導の下、熱心な取組を進めていただき、夏季総合体育大会で県３位の成績をおさめた。学習支援については、生徒の学力向上につながるものと期待している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

現時点では、地域コーディネーターの的確な運営により特に課題もなく、本校生徒にとって大変有意義な事業となっている。今後も学校、地域コーディネーター、ボランティアの三者でしっかりと情報交換を行い、コミュニケーションを取って、さらに事業を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう　（愛東中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
愛東中学校支援地域本部	ボランティア登録数	15　人
関係する学校 愛東中学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・総合的な学習の時間の支援（１年生：郷土学習、２年生：職場体験学習、３年生：福祉体験学習）
・環境整備のボランティア（観葉植物の設置、校舎からの展望図描写、砂場整地や樹木・草等の処理）
・生徒会ボランティア活動の支援
・部活動への支援（剣道、吹奏楽部）
・研修会に向けた地元講師選定（依頼）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

地域のすばらしい自然、歴史、産業、取組、施設等を知り、愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取組を進めた。

（１）「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を生かした探究活動や職場体験学習、福祉体験学習を全学年で実施した。
（２）生徒会のボランティア活動が地域活動につながる取組にした。

■　実施に当たっての工夫

○「総合的な学習の時間」に関しては、事前会議を開き、学校の情報と地域の情報を交換し、スムーズに学習が進められるようにした。
○定期的な話し合いにより、学校が困っていること、地域が学校に望んでいることを意見交換し、それぞれにプラスになる取組を実施した。
○１学期、校区小・中学校の校長と地域コーディネーターが集まり、情報交換・意見交流をした。

■　事業の成果

○全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業が行え、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒たちの様子を見てもらったり、学習内容を理解してもらうことができた。
○長年懸案になっていた学校やＰＴＡの活動ではできない環境整備活動ができた。
○充実したボランティア活動ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校の教職員と地域コーディネーターやボランティアの方々との交流がさらにすすむと、連携・協働活動がさらに充実する。次年度は、多くの教職員と地域の方々が連携できるように取り組みたい。

【１年生　総合的な学習の時間
メロン農家の取材】

【愛東花街道のプランター除草
生徒会ボランティア活動】

■　その他

（愛東中学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/aichu/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ ○ ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と連携した学校づくり　（湖東中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
湖東中学校支援地域本部	ボランティア登録数	３　人
関係する学校 湖東中学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

今年度、学校支援地域本部を立ち上げ、まずは、学校としてどのような内容で地域と連携ができるかを模索しながら事業を進めているのが現状である。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域と連携した取組を実践する中で、部活動の活性化ができないかと考えた。部活動の顧問に本校の教員だけでなく、地域住民の外部コーチを依頼することで、地域との連携及び部活動の活性化が進展しつつある。特に技術指導が出来る顧問がいない部活動の活性化を図るために、バレーボール部、卓球部、吹奏楽部の３つの部活動において技術指導の出来る外部コーチを配置した。

（２）１年生が地域サマーフェスタ（コトナリエ）の準備活動に参加し、電飾を担当した。

（３）全生徒が市の防災訓練に参加し、それぞれのグループに分かれてバケツリレー、救命講習の手伝い、炊出し準備、おにぎり配布等を行った。

（４）３年生が校区にある湖東ひばり幼児園を訪問し、園児との保育交流体験を行った。

（５）吹奏楽部が湖東フェスティバルや湖東のつどいなどの地域イベントに出演し、オープニングで演奏した。

（６）地域ボランティアによる校内環境整備の実施。（校舎まわりの草刈り等）

【　コトナリエの電飾】

■　実施に当たっての工夫

〇学校の方針に従っていただきながら、部活動の技術指導をしていただくようにしている。

〇３年生の保育交流体験では、生徒が園児と一緒に活動できる遊びを考え、遊びに合う遊び道具を自ら作って、当日の園児との交流に活用した。

【　保育交流体験　】

■　事業の成果

〇３年生の保育交流体験では、園児とのふれ合いを通して生徒の自尊感情が高まり、自らの学習意欲につながった。

〇部活動では、技術指導が出来る顧問に指導をいただいたり、発表の場があることで、意欲的に練習に励むことが出来た。

（卓球部：県大会出場）

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今年度、すでに３人の方に部活動の指導をいただいているが、今後も指導者の人数を増やしていきたいと考えている。

〇次年度に向けて年間計画を作成し、地域との連携と協働が可能な取組を選定して計画的に実施していきたい。また、相手方との打ち合わせを十分に行い、地域と学校が共に達成感を味わえる取組にしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。　（朝桜中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１　人
朝桜中学校支援地域本部	ボランティア登録数	８　人
関係する学校 朝桜中学校	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

平成 20 年度から、蒲生地区（小学校３校、中学校１校）における学校支援地域本部事業がスタートし、一人のコーディネーターがキーマンとなり、図書室の開館や校舎の環境整備、部活動支援など様々な実践が展開されてきた。また、地域沿線の「駅舎等清掃・地域清掃作業」については、20 年以上にわたり地域と連携して取り組んできた活動である。今年度は、新たに「2017 防災キャンプ＆フォーラムｉｎＧＡＭＯ」と題して中学生（２年生の一部）が実行委員として活動の一端を担い、地域ぐるみの防災学習が展開されるなど、これまでの活動をふまえ、学校と地域の連携を強化していく新たな事業も実施された。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「駅舎等清掃・地域清掃作業」
①場　　所：桜川駅、京セラ前駅、朝日大塚駅、朝日野駅、むらさきの公園、あかね古墳公園、市子殿公園、学校周辺
②活動内容：除草作業、ゴミ・空き缶拾い、清掃、落書き消し等に自主参加する生徒と連携先の地域の方（蒲生地区青少年育成市民会議）がともに汗を流し活動することができた。

（２）2017 防災キャンプ＆フォーラムｉｎＧＡＭＯ
①場　　所：蒲生コミュニティセンター小ホールとその周辺
②活動内容：蒲生地区で小学生以上の青少年と保護者等を対象とし、地元消防関係団体や赤十字奉仕団などによる防災訓練に参加し、中学生スタッフとして運営全般や防災フォーラムにおける交流など自主的な防災学習の場となった。

（３）図書室ボランティア
昨年度の大規模改修でリフォームされた図書室で、生徒が本（読書）に親しみ、書籍をとおして主体的に学べるような環境整備と雰囲気作りができた。

（４）部活動支援
外部コーチ（教育活動推進員）の方に来ていただき、ハンドボール部やサッカー部の指導をしていただいた。年度途中からは剣道部の指導もお願いをすることとなり、技術面だけでなく精神面についても指導され、生徒の力量を高めている。

■　実施に当たっての工夫

〇コーディネーターの方が学校評議員ということもあり、学校と地域を結ぶ重要なポストを担っていただいているので、連携が促進され、課題が生じたときにも良きアドバイザーとして上記の活動等について、すぐに相談できる体制にある。
〇部活動支援では担当教師とボランティアの方の打合せを綿密に行うようにした。

【防災キャンプ＆フォーラム】

■　事業の成果

〇「駅舎等清掃・地域清掃作業」については、活動が学校・地域に浸透していて、今年も生徒、教師、地域の方々が 250 人以上集まり、熱心に取り組んだ。
〇部活動では、外部コーチ（教育活動推進員）の専門的な支援・指導をいただき、生徒の活動の質が豊かになっている。
〇防災キャンプなど地域ぐるみの行事に、一参加者としてだけでなく、これからの地域を支える実行委員として中学生が運営の一部を担えたことは大きな意義がある。

【図書室ボランティア活動】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇新しいボランティアの発掘
〇諸活動を行う上で、打合せのための時間確保

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域コーディネーターの活躍で増加した地域人材　地域人材の増加で深まった地域との連携　（能登川中学校）

東近江市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
能登川中学校支援地域本部	ボランティア登録数	26　人
関係する学校 能登川中学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

（１）例年、夏季休業中にＰＴＡ親子清掃活動を実施している。H29・30 年度の２年間は、校舎等の大規模改修が行われているため、本年度の清掃活動は中止とした。そのため、部活動の時間等を活用してグラウンド周辺の除草活動を子どもたちが行ったが、夏時期は草の成長も早く、囲いのフェンスから草が伸び出ていた。また、木の枝は学校だけでは対応できないほど茂っており、ボランティアの協力でこれらの場所の除草作業等を行っていただいた。

（２）本校にはポルトガル語を中心に外国語を用いる生徒が在籍している。授業の中で、先生から指示された日本語の意味が理解できないために、活動が遅れたり、不十分なまま終わったりすることがある。そこで、週に数時間、支援を必要とする生徒にボランティアが寄り添い、授業内容等を分かりやすく説明することで、学力向上に努めることができた。

【　剪定作業　】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）校内の取組では十分に実施できない木の剪定作業を行った。

（２）学習意欲の向上を図るため、先生の説明内容等を分かりやすく伝える支援を外国籍の生徒に対して行った。

【　日本語指導支援　】

■　実施に当たっての工夫

（１）・木の剪定作業は技能が必要なため、地域コーディネーターが中心となり、植木職人を確保して活動する。
・除草作業は１度行ってもしばらくすれば伸びてくるため、登録されているボランティアの都合で、自由な日時で活動する。

（２）・日本語支援を必要とする時間を事前に担当教員から確認し、ボランティアの都合で支援に入ることができる体制をつくる。

■　事業の成果

（１）・大規模改修のため、校内行事として計画できなかった除草作業が実施できた。
・長年、放置されていた木の剪定を行うことができた。

（２）・理解できない内容をすぐに確認することができるため、日本語支援を必要とする生徒の学習意欲が向上し、自分でできることが増えた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇事業によって、どのようなボランティアが必要であるかを把握することや、学校行事等を見直すこと。
〇専門的な知識を有するボランティアの人材発掘が必要である。
〇ボランティア活動ではあるが、消耗品等に関わる十分な費用が必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

米原市における学校支援地域本部の取組

■　目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。縦のつながりとは、保幼小中連携である。各中学校区において、「連続性・一貫性」のある保幼小中連携を進めることにより、各学区内における特色ある教育活動を展開していく。横のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。学校支援地域本部も、その仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

このように、地域の子どもを中心に大人がつながることで、心豊かでたくましい米原っ子を育むことを目指している。

■　本年度の具体的活動

（１）「学校と地域を結ぶコーディネート担当」研修会　※５月 11 日、18 日

地域連携担当教員として、学校側の窓口となる「学校と地域を結ぶコーディネート担当」を対象に、地域との連携に関する校内の体制づくりの推進や活動、さらに学区内の連携などの充実を図ることを目的に研修会を開催した。

（２）教育フォーラムの開催　※10 月～11 月

中学校区	日時	内容
柏原中学校区	11 月 11 日	○講演「学校と地域の協働～魅力ある学校づくり・まちづくり」 講師：新谷　さゆり　氏（文部科学省 CS 推進員・白川村教育委員会　社会教育主事）
大東中学校区	11 月　８日	○講演「子どもの成長をともに支援する学校と地域の連携」 講師：髙木　和久　氏（文部科学省 CS 推進員・びわこ学院大学教育福祉学部　准教授） ○グループ討議「子どもの成長をともに支援する学校と地域の連携のあり方」
伊吹山中学校区	10 月 23 日	○各校園の紹介（伊吹山中・伊吹小・春照小・いぶき認定こども園） ○市教委講評
米原中学校区	11 月 15 日	○講演「これからの時代に求められること～今だからできること、今しかできないこと～」 講師：鈴木　秀一　氏（県スクールソーシャルワーカー）
河南中学校区	11 月　8 日	○学校支援地域本部事業の活動報告 ○各校園からの教育活動の報告
双葉中学校区	11 月 18 日	○各校園取組紹介 ○講演「モーグル活動を通して　伊藤三姉妹」 講師：伊藤　敦子　氏・伊藤　あづさ　氏

（３）運営委員会（全体会）　※２月開催予定

検討事項：今年度の事業の検証、地域と学校の連携の今後の在り方について

■　本年度の成果

○本年度、新たに２本部が立ち上がり、これにて市内すべての小中学校（９小学校、６中学校）にて、事業を推進することとなった。また、保育園・幼稚園・認定こども園（民間含む）も可能な限り参画することができた。

○教育フォーラムの開催は４年目となり、「地域と学校で共に子どもを育てていこう」という機運の向上に資するものとなっている。

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

○各学校や各校区の実情に応じた取組の円滑な推進とともに、学校運営協議会制度の導入に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

全市的な取組による読書支援

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
米原市読書活動学校支援地域本部	ボランティア登録数	116　人
関係する学校 米原市内の全小学校（９校）、全中学校（６校）	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

米原市では、平成 20 年度から学校・家庭・地域が連携、協働しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、現在全ての小学校においてボランティアによる読書活動支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②ボランティア交流会の開催、③学校図書館の整備（学校図書館の大改造を含む）、④読書活動に関する支援を各中学校区の地域コーディネーターに移行するための活動を行う。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）巡回文庫・・・全小学校の全クラスに実施。学校間の運搬は各学校担当のボランティアが行い、本と一緒におはなしを届けていただいた。（月１回）

（２）ボランティア交流会・・・ボランティアによるおはなし会の実演、意見交換による勉強会および情報交換会を実施した。（年２回）

（３）学校図書館の大改造・・・県教育委員会生涯学習課の「学校図書館活用支援事業」を受け、山東小学校で８月 11 日（金・祝）に教職員、児童、保護者、ボランティア、地域の方等が総勢 89 人で、学校図書館のリニューアルを行った。

（４）本市では平成 29 年度にすべての中学校区に本部が立ち上がり（６本部）、すべての小学校に読み聞かせや図書整備の読書支援ボランティアがおられ、支援していただける形が整ったことから、読書活動に特化した本部は本年度末で終了することとし、各６本部のコーディネーターに読書支援について移行する取組を行った。

【山東小学校の図書館大改造】

【伊吹小学校のボランティア・地域コーディネーター・学校をつなぐ会】

■　実施に当たっての工夫と事業の成果

〇巡回文庫は、毎月各学年に応じた 40 冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会となった。(この巡回文庫の継続により子どもたちと地域ボランティアとのつながりが深まった。)

〇学校図書館の大改造では、ボランティアと前年度から本の分類、整理などの事前準備を一緒に行うことで良い関係を築き、当日は中学校区の他のコーディネーターも支援に参加していただくことにより、学校を支援することができた。

〇ボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中で、ボランティア同士のつながりに広がりがみられ、親睦を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇子どもたちに親しまれてきた巡回文庫は、今年度で終了となるが、今後も図書館とボランティアが連携・協力し、団体貸出を行うことで引き続き子どもたちの読書活動支援や学習支援を行う。

〇読み聞かせから始まったボランティアは、図書の整理や学校図書館の整備に関わるボランティアまで拡がったが、今後は学校図書館の充実や学校司書の配置により、ボランティアとの連携を図っていくことも課題の一つである。

〇ボランティアは今後も継続していただけるが、ボランティアの高齢化やお子さんの卒業と同時に辞められる保護者のボランティアが多いことなど、毎年の募集や育成が課題である。

■　その他

各小学校のホームページにボランティアさんの活動が紹介されている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

柏原学区をもっと楽しく、面白く！「はびろの里コミュニティ」による学校・園と地域の協働

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	4　人
柏原学区学校・園地域協働本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 柏原中学校・柏原小学校・柏原保育園	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

柏原学区学校園・地域協働本部（柏原学区学校支援地域本部）では柏原小学校・柏原中学校だけでなく柏原保育園も支援対象として考え、校区の保護者と地域が一体となり、学校園を地域ぐるみで支援する「はびろの里コミュニティ（はびコミ）」として平成 27 年５月に発足した。はびコミは柏原中学校に事務局を置き、毎月定例会として「井戸端会議」を開催。様々な学校支援活動を展開している。今年度から本部の名称を「柏原学区学校・園地域協働本部」と変更した。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「井戸端会議」の開催

毎月１回、柏原小学校、柏原中学校、柏原保育園を会場（輪番）にして、夜７時から「井戸端会議」を開き、柏原学区における教育のあり方や学校、園との協働、支援活動について話し合っている。井戸端会議には４人のコーディネーター、柏原小学校、柏原中学校の職員の他、市教委や地域のボランティアの方が参加。

【はびろの里未来ワールド・カフェ】

（２）小中連携・児童生徒交流の促進

・柏原中学校体育大会に小学生を招待 ･･･　小学校の児童に中学校のよいところを知ってもらう目的で４～６年生に出場参加を募集。応募した小学生は中学生とともに 100m走や生徒会種目等に出場した。はびコミは会場のパトロールを担当した。

・柏原中学校文化祭に柏原保育園児、柏原小学校児童が参加　･･･　学校と地域が一体となった「みんなの文化祭」を目指し、柏原保育園や柏原小学校、地域住民にステージ発表や作品展示、文化講座体験への参加を呼びかけた。

（３）ゲストティーチャーの手配

・「はびろの里未来ワールド・カフェ」　･･･　柏原中学校の文化祭では、午後に「はびろの里未来ワールド・カフェ」を開催し、中学生全員が小グループに分かれて、はびコミのメンバーを含む地域の人とともに柏原の未来をワールドカフェ方式で語り合った。

・「里山体験」　･･･　柏原中学校１年生の里山体験（10 月）では、はびコミのコーディネーターが「大野木グランドワーク協会」の人たちといっしょにゲストティーチャーとして竹きりや薪割り、間伐材を使ったクラフトづくりなどの体験学習を行った。

（４）環境整備

・「親子環境美化作業」への協力（８月）　･･･小学校、中学校のＰＴＡ親子環境美化作業に、はびコミのメンバーも参加。運動場周辺の除草作業を支援した。

■　実施に当たっての工夫

○「井戸端会議」での熟議　･･･　本部事業の推進・実施にあたっては井戸端会議で様々な議論を重ね、合意形成を行うことを大切にしている。

○広報「ぶうめらん」の全戸配布　･･･　はびコミ事務局は井戸端会議の実施と合わせて毎月１回、広報紙「ぶうめらん」（Ａ４表裏刷）を発行し、井戸端会議で話し合った内容や学校園の様子、協働活動の様子を柏原学区全戸に発信している。

■　事業の成果

○「井戸端会議」で熟議を重ねることにより、「柏原学区の子どもたちは柏原学区の保護者と地域が一体となって育む、柏原の学校園を柏原学区の住民がひとつのコミュニティとして支援していく」という雰囲気が高まっている。

○これまで躊躇してきた児童生徒の交流活動などが「はびコミ」の後押しや具体的な支援により実施しやすくなった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○　学校支援ボランティアの人員を拡充とともに、学校園支援活動の内容を拡充していくこと

■　「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「子どもは地域の宝」～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てる学校支援地域本部事業～

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	３　人
河南学区学校支援地域本部	ボランティア登録数	70　人
関係する学校 河南中学校・河南小学校・かなん認定こども園	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

人口が減少している米原市の中でも、特に児童・生徒数が急速に減少している本学区（１認定こども園１小学校１中学校）で事業指定を受け実施している。

校園でそれぞれ進めている地域連携の活動の運営方法を見直し、持続的活動になるようにコーディネーターを窓口として講師、ボランティアの要請を行っている。

事業も３年目を迎え、コーディネーターと校園との連携も深まり、ニーズに合わせた人材探しの役割を果たしながら、校園の課題解決につながるように事業を進めている。

また、河南学区全域をカバーするために地域コーディネーターを１人増員して事業のさらなる展開を図っている。

【かなん認定こども園　４歳児芋掘り】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本学区は、中山道の醒井宿と番場宿を含む宿場町であった地域であるため、歴史と文化の史跡が多く、小中学校共に地域学習に取り組んでいる。その学習を、地域活性化を目的に活動している「番場の歴史を知り明日を考える会」や「松尾寺山登山道保存会」等の方々に支援していただき活動していることが特徴的である。また、小学校のふれあい広場では、地域のサロンの方々に協力いただきながら実施している。

〇土曜学習教室の開催（河南中学校）

・活動の概要と目的：地域の大学生を講師として、学習する機会を提供。
・支援員数：２人
・支援員の属性：大学生
・学習形態：個別の学力補充
・教室のもち方と実施日数：月平均２回、土曜日実施
・子どもの平均参加人数：約 10 人

【河南小学校　ふれあい広場】

■　実施に当たっての工夫

〇講師やボランティアの方は、できるだけ河南学区の方にお願いするように努めた。
〇「米原教育フォーラム in 河南 2017」の場を借りて、本事業の進捗状況の報告と実際にボランティアに参加した方々へインタビューをして、ボランティアスタッフの拡大につなげた。

■　事業の成果

〇かなん認定こども園の「農園の野菜栽培」で、季節に応じた野菜作りの助言をいただいている。また、河南小学校の「ふれあい広場」では、折り紙や竹とんぼ、将棋、カロム等で地域のボランティアの方々と楽しいひとときを過ごすことができている。
〇11 月８日(水)に開催した「米原教育フォーラム in 河南 2017」では、コーディネーターからの取組報告やボランティアに参加した方々から「生きがいを感じることができた」等の感想も聞け、参加者にボランティアへの関心を高めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇各校園ともコーディネーターとの窓口が校園長に偏りがちである。校園の校務分掌等でしっかりとした位置づけが必要である。
〇地域からの支援だけではなく、中学校では地域との連携のために、できるだけ地域行事等へのボランティア活動をしており、今後はすべての生徒がボランティア活動に参加できるように呼びかけていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさと「伊吹山」とともに歩み創り出す地域活動

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	4　人
伊吹山学区学校支援地域本部	ボランティア登録数	50　人
関係する学校 伊吹山中学校・春照小学校・伊吹小学校・いぶき認定こども園	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本学区は、地域の人々が各校園の教育活動全般について協力的な地域である。また、各校園も密接な連携を進めてきた。このような中で、教員よりも地域の人材ネットワークをもっている地域コーディネーターが有機的に機能することで、ふるさと「伊吹山」をより深く愛する子どもたちの育成を推進していくができるのではないかと期待して本事業を展開している。具体的には各校園共催の伊吹地区教育フォーラム、地域行事へのボランティア参加、各校園行事におけるボランティアの相互参加、各校園独自の学習会や環境整備、見守り等を実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）学習支援

中学校での定期テスト前補充学習には、地域ボランティアに来ていただき、指導していただいた。また、夏休み補充学習に地域の大学生に来てもらい、子どもたちの学習支援をしてもらった。小学校では、総合的な学習の時間におけるゲストティーチャーに来ていただき、体験学習の学習支援をしてもらった。

（2）環境整備・栽培ボランティア

自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草作業が大変である。このことから、地域コーディネーターが中心となって、地域の有志に声をかけていただき、複数回にわたって各校園すべての校地の除草作業をしていただいた。また、花壇・プランターに地域の人とともにシバザクラやキクの植えつけを行ってもらい、花が咲く時期には、学校中が美しい環境となった。

（3）伊吹地区教育フォーラム

「地域と学校でともに子どもを育てていこう」という趣旨の元、各校園がそれぞれの活動紹介、本事業の進捗状況説明を行い、地域の人々に各校園の教育に関心をもってもらい、ボランティアの拡大につなげた。

（4）読書、安全ボランティア

小学校では毎週水曜に読書ボランティアに来ていただき、「本とのすてきな出会い」になるような読み聞かせや図書館整理をしていただいた。また、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいた。

【地域ボランティアの学習支援】

【かっとび伊吹での生徒ボランティア】

■　実施に当たっての工夫

〇各活動の企画段階からできるだけ、学校と地域双方にメリットが生まれるよう、配慮しながら行っている。

■　事業の成果

〇これらの活動から、中学校ではふるさと「伊吹山」とともに歩む気持ちが年々生徒に浸透してきており、各校園、地域行事へのボランティア参加人数は、次のとおり、大幅に増えてきた。地域行事「息吹の奏」55 人、認定こども園運動会 20 人、福祉施設「愛らんど夏祭り」30 人、山岳マラソン「かっとび伊吹」25 人、地域体育館行事「伊吹ふれあい運動祭」25 人、伊吹小運動会 25 人、春照小運動会 15 人。のべ合計 195 人。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域コーディネーター、学校と地域を結ぶコーディネート担当の資質向上をはかり、学校･地域双方にとってよりよい活動になるよう仕組んでいく。

〇中学校区の実情に応じた取組の円滑な推進とともに、今後に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの構築をめざす方向性を学校として明確に示していく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域人材を生かした特色ある教育活動によって、米原を愛する幼児・児童・生徒を育てよう

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
米原学区学校支援地域本部	ボランティア登録数	85　人
関係する学校 米原中学校・米原小学校・米原中保育園・米原幼稚園	開　始　年　度	平成 28 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

米原中学校区は、これまでから保幼小中の連携を大切にしており、中学校区として取り組む事業も多い。また、地域住民の学校教育に対する理解もあり、学校（園）における体験活動等への協力や支援にも積極的な地域である。本事業１年目の昨年度は、学校職員・地域の方々への事業周知と各校園間の情報の共有を図りながら、ボランティア組織の充実を図った。２年目を迎えた本年度は、組織の一部改編、地域コーディネーターの分担の明確化、活動の拠点となる『学校支援地域本部室』の設置等を行い、学校支援地域本部事業が軌道に乗り始めてきた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「学校の環境整備」

６月中旬から８月初旬の土・日曜日に、中学校の校地および周辺の樹木の剪定、草刈り等を行った。参加したボランティアは 14 名、９日間（延べ 36 名）が活動し、広い中学校の敷地が見違えるように美しくなった。この作業を通してボランティア同士やボランティアに参加した職員とのつながりが深まったことは大きな成果である。また、ＰＴＡ親子奉仕作業にも参加し、保護者や生徒と一緒に伐採樹木や草の始末を行い、つながりを持つことができた。２学期の始業式に参加したメンバーを生徒に紹介し、学校支援地域本部事業について生徒の理解を深めることができた。

【環境整備ボランティア】

（２）総合的な学習の時間での指導

中学では１年生の総合的な学習の時間に、地域学習を行っている。この学習で、「さつまいも」と「大豆」の栽培を行った。農業指導員をしておられる方に来ていただき、栽培方法の指導をしていただいた。また、地域で農業をしておられる方にトラクターで畑を耕してもらい、植え付けや収穫の指導もお願いした。収穫祭にも来校し、調理、試食等、生徒とともに活動し、相互交流ができた。

【総合的な学習の時間の指導】

■　実施に当たっての工夫

〇昨年度は、２名のコーディネーターが一緒に、各学校（園）を回り教員との懇談やボランティアの募集等を行っていたが、本年度は、中学校で１名、保育園・幼稚園・小学校で１名とに分けて担当することとした。

〇教員の顔つなぎや交流をしやすくするためと、将来さらに地域に開放していくことを想定し、中学校内に地域支援コーディネーターの活動の拠点としての地域支援本部室を設置した。

■　事業の成果

〇学校の環境整備が進み、教育環境がよくなった。また、地域の方が学校の環境整備や生徒の学習指導に参加することにより、地域住民の学校教育への理解が深まり、学校教育への積極的参加の機会が増えた。

〇生徒や職員が地域の方と接する機会が増え、地域に根ざした教育の促進につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域コーディネーターとのつながりでのボランティアが多く、ボランティアの固定化・高齢化が課題である。新規開拓が必要であるが、文書のみで募集をかけてもなかなか集まらないのが現状である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　〇　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

校区内の縦のつながりと横のつながりを大事にした大東学区の取組

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	２　人
大東学区学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 大東中学校・山東小学校・大原小学校・山東幼稚園 大原保育園	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的として今年度スタートした。具体的には、「ゲストティーチャー」「授業補助」「放課後等の学習支援」「部活動支援」「図書館の整備」「校地内の整備」「学校行事支援」「子どもの安全確保」を考えた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）大東中学校区教育フォーラム

大東中学校区の地域の人々、保護者、教員が一堂に集まり、当学区における学校と地域の連携の在り方を話し合った。

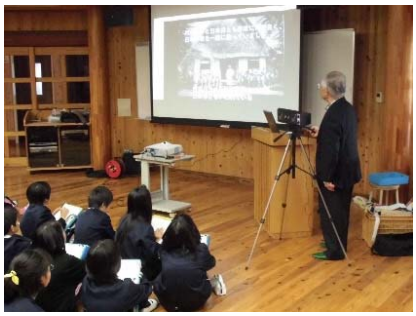
（２）地域の中学生が小学校運動会にボランティアとして参加

大東中学校生徒が大原小学校、山東小学校の運動会の運営にボランティアとして参加した。ただし、山東小学校へもボランティアとして参加の予定であったが、運動会が延期になったためできなかった。

（３）地域の方がゲストティーチャーとして授業に参加

・地域の人材に山東小学校、大原小学校、大東中学校において戦争体験について語っていただいた。
・図書ボランティアの方々に、平和学習に関わる読み聞かせをしていただくなど、総合的な学習へのサポートを行っていただいた。

【中学生の小学校運動会への
ボランティア参加】



【戦争についてゲストから学ぶ】

■　実施に当たっての工夫

〇大東中学校区教育フォーラム

文科省コミュニティ・スクール推進員をお招きし、参考となる事例や今後の方向性についての講話をしていただいてから、その講話をふまえて保護者、地域の人々、教員の三者で話し合いを行った。

〇地域の中学生が小学校運動会にボランティアとして参加

運営だけでなく競技に参加する生徒も募集することで、小中学校が一体となった運動会にすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域と学校の連携・協働について、具体的な行動目標を定めていく必要がある。
〇中学校では、部活動支援を充実させていくことを考えている。
〇長期休業中の学力補充についても充実させていくことを考えている。

■　その他

〇コミュニティ・スクールの実施についても視野に入れて、事業を進めていく必要があると考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。こんご
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校を支えるおうみネット支援ボランティアの取組

米原市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	３　人
おうみネット学校支援地域本部	ボランティア登録数	30　人
関係する学校 双葉中学校・坂田小学校・息長小学校・おうみ認定こども園	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

今年度より、学校支援地域本部を立ち上げた。これまで、各校園で地域ボランティアの方々と共に活動してきたことを中学校区で統合し、今年度の活動に至った。そのため、従来の活動を継続しながら、さらに新たに発展して活動していく内容を検討していった。中学校区になったことで、縦と横の人を介したネットワークが広がった。今後は、学校としての方針やねらいを明確にし、地域と学校との連携をさらに充実させて活動していきたい。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）（息長小学校の取組）

（１）読み聞かせボランティア（わくわくさん）

月に２回全クラスに、児童への読み聞かせに来ていただいている。自分の子どもがいる学校だけでなく、他の学校への読み聞かせにも参加されている。

（２）読み聞かせボランティアの方による音読発表会

６年生を送る会のプログラムに読み聞かせグループわくわくさんによる音読発会がある。事前練習を何度も重ね、衣装もそろえられ、見事な音読発表をしていただいた。

（３）学校花壇の環境整備

春と秋の花いっぱいの学校環境整備の一環として、地域ボランティアの方と学校職員が一緒になって、花の仮植作業や学校花壇への植え付けを行った。

【わくわくさんによる音読発表】

【学校花壇に植える花の仮植作業】

■　実施に当たっての工夫

〇学校花壇の整備や花の仮植作業は、事前の準備を学校側でしっかりとしておき、当日の作業がスムーズにいくよう配慮した。
〇図書館司書教諭の免許をもっている者が連絡係となり、読み聞かせ日の設定や活動内容の打ち合わせ等の連絡調整を行った。
〇中学校区全戸にボランティア募集の案内チラシを配布し、人材確保にあたった。

■　事業の成果

〇学校花壇の花の仮植作業は、これまでは学校職員で行っていた。今回から学校支援ボランティアの方に協力いただいたことで、作業は早く終えることができた。また、花が咲く頃に学校花壇の様子を気にかけて、見に来てくださるようになった。
〇図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来てくださるようになり、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくださり、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。
〇学校に来てくださる機会が増え、学校職員とも顔なじみになり、気づかれたことや思っておられることなどを気楽に話し合えるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇特に中心となってくださる方々の活動が多くなり、負担がかかっている。
〇ボランティアのメンバーが限られ、なかなか新たな方の募集が図りにくい。
〇今年度活動していただいたことをもとに、他の学校・園に広がりを見せ地域全体の取組となっていけるとよい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさと日野を愛する子を育てる「ふるさと絆事業」の取組

■目指す姿

日野町では、本年度より、地域・家庭・学校がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ連携・協働し、地域を誇りに思い地域の未来を担う子どもたちを健やかに育むとともに、公民館および学校を核として地域の力をより強化することを目的に、「ふるさと絆事業」に取り組んでいる。

【ねらい】「ふるさと日野を愛し、ふるさとを支える子どもの育成」
・子どもたちに様々な体験を　・地域の方とのふれあいを大切に
・地域の方々とともに育ち、役に立つ責任ある大人に

→

・ふるさと日野学習の充実
・地域も学校も WIN-WIN の関係に
・既存組織の活性化

■本年度の具体的活動

（１）「ふるさと絆事業」の発足

平成 29 年度より日野町地域学校協働活動推進協議会（愛称：ふるさと絆事業推進協議会）のもと、日野町内５小学校区（①日野・鎌掛学区、②西大路学区、③南比都佐学区、④必佐学区、⑤桜谷学区）にそれぞれ地域学校協働本部を設置し、ふるさと絆支援員にコーディネートをお願いし、公民館および学校を共に核として活動を開始した。

【日野学区における家庭科支援】

（２）事業の経過

①平成 29 年５月９日事業説明会、②６月２日事務担当者説明会、③７月 11 日第１回ふるさと絆支援員実践交流会を開催するとともに、④12 月 12 日に第２回実践交流会並びに第１回日野町地域学校協働活動推進協議会を開催した。また、事業を広く町民の皆様、青少年育成関係者に知っていただくため、日野町少年センター少年補導員研修会、日野町青少年育成町民会議総会等において事業の概要を説明するとともに、12 月２日には、青少年意見発表大会においても、地域住民の皆様にご理解・ご協力をいただけるよう説明の場を設定した。

（３）各学区の具体的な取組（一例）

〇栽培活動における支援…①茶摘体験、②日野菜栽培体験、③田んぼの子体験等への支援
〇各種体験学習への支援…①校区探検、②生き物探し、③消防署見学、④スーパーマーケットの見学、⑤特別養護老人ホームとの交流活動　⑥干し柿つくり体験　⑦芋餅作り体験等への支援
〇生活科「名人さんに教えてもらおう」等学習への支援…①季節の野菜を使ったお菓子つくり体験活動・②落ち葉や木切れを使ったおもちゃつくり体験活動等への支援

■本年度の成果

・日野町地域学校協働活動推進協議会をはじめとして、各学区における推進協議会の設立を図るとともに、「学びに向かう力」を高めることができるよう、地域の方々や専門家等による質の高い体験活動となるよう支援することができたと考えている。

【「名人さんに教えてもらおう」の様子】

■課題と今後の学習支援活動に向けて

・今後も、中学校を核とした活動も実施できるように環境を整えるとともに、子どもたちのより質の高い学びのために支援できるよう準備を進めていきたいと考えている。

地域との連携・協働を深め、学習活動のさらなる充実のために～開拓～　（日野小学校）

日野町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
日野・鎌掛地域学校協働本部 愛称：「日野・鎌掛学区ふるさと絆事業」	ボランティア登録数	50　人
関係する学校 日野小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本年度は、活動１年目ということもあり、今までの支援活動の整理と新たな支援者、支援団体の開拓・発掘を念頭に取組を進めた。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）５年家庭科「はじめようソーイング」学習支援

・日時　６月 19 日（月）３・４校時　６月 23 日（金）１・２校時、３・４校時

・活動内容

玉結び、玉留めといったソーイングの基礎的な技能は、やり方を知ったからといってすぐにできるものではなく、繰り返しの練習が必要である。そこで、家庭生活の大先輩である日野町日赤奉仕団の方に（19 日６名、23 日７名）来て頂き、子どもたちの中に入って、一緒にソーイングの学習に取り組んだ。その中で、手本を見せたり、うまくできない子へのアドバイスをしたりし、寄り添い、見守りをいただき、子どもたちがソーイングの基礎的な技能を習得できるようにした。

各クラス２時間の支援日を設定し、担任の先生にボランティアさんと共に学習させたい内容を設定した。

【ソーイングへの支援】

（２）お話会「オーストラリアのお話と英語の絵本読み聞かせ」

・日時　10 月３日（火）昼休み　下学年　10 月 10 日（火）昼休み　上学年

・活動内容

以前より本校でお話会をしてくださっている方の活動を聞き、「私も学校に行ってみたい。」と言われたのをきっかけに、本校でお話会をお願いすることにした。図書室に関わる行事でもあり、毎週火曜日に自主的に活動いただいている図書ボランティアさんにも声をかけ、ポスター作りや連絡、当日の会場準備などもお手伝いいただいた。

【　読み聞かせの様子　】

■　実施に当たっての工夫

〇ソーイング学習やミシン学習での学校支援の実施において、ボランティアの方を募るにあたり、日野町日赤奉仕団に連絡をとり、そこをキーステーションとして人集めをした。また、来ていただいた方を中心に口コミで学校支援のことを広めていただき、「人が人を呼ぶ」という形になり、ミシン学習では、５年各学級３回、６年各学級２回計 15 回学校支援の時間を設定することができた。また、人によっては、複数回支援をしていただくことがあった。

〇お話会では、他のボランティア（図書ボランティア）の方と連携をしながら、行事を実施することとした。単に、お話会の行事の設定のみでなく、ポスターの広報活動や会場準備など図書ボランティアの複数の方とともに行い、協働する形をとり、支援の輪を広げることができた。

■　事業の成果

〇ソーイング学習やミシン学習では、地域の方に学校支援に入っていただくことにより、担任の負担軽減を図るとともに、子どもたちも支援の方がそばにいてくださることにより、気軽に質問や手助けを受けられ、技能の向上を図ることができた。

〇学校支援に来てくださった方は、日常学校に行く機会がなく、久しぶりに学校に行くこととなり、学校教育の様子を知っていただくよい機会となり、地域の方が学校に来ていただく敷居が少し低くなったように感じられた。このような取組が、地域と学校を近づけるよい機会となっていくものと考えられる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇本校の事業目的は、新たな行事を行うのではなく、学級担任が支援してもらえると助かる、ありがたいというものをめざしている。そのような内容の選定とそれに合った支援してくださる方の発掘が課題である。また、今回ソーイング学習等に参加いただいた支援の方と今後も連携できるようようより関係を深めていくことが肝要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

～学校・家庭・地域の　きづな・つなぐ・むすぶ～　（西大路小学校）

日野町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
西大路地域学校協働本部 愛称：「西大路学区ふるさと絆事業」	ボランティア登録数	15　人
関係する学校 西大路小学校	開　始　年　度	平成29年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働して子どもたちの成長を支え、子どもが地域を誇りに思い、自ら地域を創生しようとする力を育む。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）学習支援

各学年において、校外学習や調理、園芸などで担任の先生が必要とされる支援を行った。

一年生では、「干し柿作り」を行ったが、地域で渋柿のある家を探して、収穫させていただいた。シュロの葉でひもを作りつるすというアイディアを地域の方から教えていただき親子で昔ながらの干し柿作りができた。児童は柿をいただいたお礼の手紙を地域の方に書いて交流が持てた。他の学年でも、交番への見学や、支援学級の自立活動の支援などを行った。

【親子での干し柿つくり】

（2）「環境整備」などの支援

地域の園芸クラブの方々に、玄関前の鉢植えの手入れをしてもらった。日野町日赤奉仕団の方々に給食のエプロンを入れる袋を作ってもらった。

【環境整備などの支援】

■　実施に当たっての工夫

〇学習支援については、天候が影響することが多いので、学校と地域の方のスケジュール調整をできるだけ早めに行い、予備日などを確保しておいた。校外学習の際の移動手段として、福祉バスの予約や福祉バスが使えない場合の路線バスの時間などを調べた。

〇環境整備については、どのような団体がふさわしいかを公民館などに聞き取り調査をして、依頼した。

■　事業の成果

〇学習支援については、地域の方の指導により、教職員だけではできない貴重な体験学習ができた。特に、交番の見学のように、コーディネーターがいることで、今年度初めて実施できた校外学習もあり、「みんなの暮らしを守る人々の仕事」の有意義な体験となった。

〇環境整備や、給食のエプロン袋作りについては、地域の方の持つ専門性を生かして、学校だけではできない取組ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇本年度は、ふるさと絆事業初年度ということもあり、学習支援については、従来から学校を支援してくれている地域の方に依頼することが多かったが、新しい支援者の開拓が必要である。ボランティアの組織化を図ることで、学校教育の充実とともに、生涯学習社会の実現にも寄与したい。

〇環境整備については、地域のボランティアだけが活動するので、子どもと一緒に活動していただくことで、子どもにとっても、ボランティアの方にとっても、より大きな収穫がある連携の仕方についても考えていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「なんぴが大好き」～地域の良さを学校に取り入れ郷土を愛する心を育てる～（南比都佐小学校）

日野町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
南比都佐地域学校協働本部 愛称：「南比学区ふるさと絆事業」（なんぴっこ支援事業）	ボランティア登録数	10　人
関係する学校 南比都佐小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

南比都佐地区は、自然に恵まれた田園地帯が広がり、祖父母をはじめ地域の方々の協力も厚い地域である。そこで、この事業をとおして、地域の特産である「日野菜」を守り広めていく活動や、学校のとなりにある公民館との連携による活動、さらに、特別養護老人ホーム「誉の松」との交流など地域の人と関わることや体験する活動を支援していただいている。

その他にも、学習への支援として、新しい ICT 機器の活用や地域の歴史や先人の知恵などを学ぶ学習においても地域の専門家の方々に支援をいただいている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「日野菜」の原種の保存

本校では、全学年が「日野菜」の栽培に取り組んでいる。特徴としては、４年生児童が南比都佐地区「日野菜原種保存会」の方に指導に来ていただいて、大きく育った色のよい日野菜を選んで、来年の種取り用に植え替えをしている。さらに植え替えておいた日野菜が花を咲かせ実を付けたものを５年生になった春に「日野菜保存会」の方に再び指導に来ていただいて、「種取り」をしている。本校では、このようにして毎年継続した取組をしてきている。

【とうみをつかって日野菜の種の選別】

【日野菜の調理体験】

５年生児童は、取れた種を地域にも広めたいと栽培方法を書いた説明を付けて販売活動も行っている。他の学年は、この種を使って栽培活動をしている。そして、収穫した日野菜を日野菜漬けにおいしくいただいている。さらに、３年生は、地域の日野菜工場を見学して、専門家の話を聞いたり、４年生では、日野菜を使った新しい料理を工夫して、レシピをつくったりするなど、「日野菜」を通した課題解決学習に取り組んでいる。

■　実施に当たっての工夫

○本物体験ができたり、詳しい話が聞けたりするように現地学習や地域の方に来ていただく機会を増やした。
○隣りにある公民館との連携を密にすることにより地域の人材の掘り起こしに努めた。

■　事業の成果

○各事業を実施するにあたり、以前は担任が相手と連絡を取り合っていたが、本年度から地域コーディネーター（なんぴっこ支援員）が設置されたことにより、地域との連携や各学年の系統的な取組の計画、また、新しい地域の指導者の開拓などができるようになった。このことにより、担任の負担が減るとともに体験や現地説明など少し尻込みしていた内容にもどんどん取り組んでいけるようになった。
○地区の公民館と連携を密にしたことにより、公民館が取り組もうとしていることや学校の願いなどをお互いに共有することができ、来年度の年間計画や重点的な活動を考える上でとてもよかった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○今年度は、地域コーディネーター（なんぴっこ支援員）の方も初年度であり、年度初めに年間の見通しがもてなかったところもあり、単発的な取組になっていたが、今後は継続性があったり、他学年とのつながりがあったりするなど学校全体とした見通しと計画をもっていきたい。
○今年度は、学校側から地域で協力をお願いできる方へのアプローチをしているが、地域にはまだまだたくさんの人材がおられると感じるので、地域に広く広報したり、ボランティアを募ったり、地域への発信にも努めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（○）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（○）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域ぐるみで子どもを見守り、つながりを広げる協働活動　（必佐小学校）

日野町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
必佐地域学校協働本部 愛称：「必佐学区ふるさと絆事業」	ボランティア登録数	20　人
関係する学校 必佐小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本年度からこの事業はスタートしたが、これまでも地域の多くの方から地域学習の指導や総合的な学習の時間のゲストティーチャー、登下校の見守り活動など、子どもたちの様々な活動で支援していただいてきた。ふるさと絆事業が始まったことで支援の輪が広がり、学習支援の他に子どもたちの学校生活を見守る活動も行った。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）見守りあいさつ運動

教育後援会や学校評議員会、ＰＴＡのほか、校区の区長会等 11 の社会教育団体等が連携し、子どもの学校生活全般を見守り支えるための活動の一環として、２学期から見守りあいさつ運動を行った。取り組みとしては、朝校門前に立ち、あいさつの声をかけながら子どもの登校を見届けるという活動である。

【　見守りあいさつ運動　】

（2）ふるさと学習支援

３年生は地元の特産品である「日野菜」を題材にした総合的な学習で、地域の指導者に種まきから収穫まで指導をしていただいている。

６年生のふるさと学習では、日野の歴史や地元の植物学者についてゲストティーチャーを招いて学習し、伝統文化を受け継ぐ学習として「ほいのぼり」作成の指導をしていただいている。また、調べ学習では、６年生が必佐や日野のことをさらに調べやすく、まとめやすくするために、コーディネーターが地域資料を集めて児童向けに整理し、児童に利用しやすい形の資料作成を行った。

（3）体験的な活動への支援

２年生はいも堀りとやきいもの活動にボランティアさんの協力と指導をお願いし、充実した活動ができた。３学期は伝統的な遊びや昔のくらしの工夫、そろばん等の学習で支援していただく予定をしている。

■　実施に当たっての工夫

〇夏、本事業についての啓発とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業の理解と協力が得られるようにした。
〇本事業が始まって間がなく、まだ適任のボランティアさんが見つけられていないため、お願いしたボランティアさんにも活動に適任の方を紹介していただいた。
〇必佐公民館と連携を密にし、ボランティア募集の窓口になってもらったり、必要に応じて連絡を取ってもらったりした。

■　事業の成果

〇見守りあいさつ運動をとおして、子どもたちが多くの方とふれあう機会を持つことにより、コミュニケーションがとれるようになるとともに、地域の方に見守られているということを意識できるようになった。また、地域の方にとっても、小学校に対する関心を高め、地域では見られない子どもたちの様子を理解するきっかけになった。
また、関係機関が連携することで学校やコーディネーターとのつながりができ、今後の事業の広がりが持てるきっかけになった。
〇地域指導者やボランティアさんが増えたことで、活動の幅が広がった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇事業初年度だったため､ふるさと学習などすでに定着している学習活動を除いては、まだ教職員にもボランティアさんの力を生かした学習のイメージが明確になっていない状況である。これからも少しずつ活動の実績を積んでいくことによって連携を深め、協働活動の幅を広げていく必要がある。
〇協力してもいいと思いながらも、なんとなく学校との「距離」を感じている方もおられるように思う。今後も啓発に努め、人材の開拓をしていく必要がある。

【　２年生体験学習　やきいも　】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

桜谷の子どもでよかった～地域のあたたかい支援で学校教育活動をより豊かに　（桜谷小学校）

日野町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
桜谷地域学校協働本部 愛称：桜谷学区ふるさと絆事業（さくらっ子事業）	ボランティア登録数	約 100 人
関係する学校 桜谷小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域のボランティアさん（現存の HOT けん桜谷隊を含む）の学習支援や校内環境整備といった学校教育活動への協力や連携を今までよりも推進し、子どもたちが地域に誇りと愛着を持つような学習ができるよう、地域コーディネーターが連絡調整をする。

【地域の名人さん：秋のお菓子つくり】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）学習ボランティアとしての関わり

地域の名人さんとして子どもたちと関わる（生活科）

・10 月 12 日（木）地域の名人さんに季節の野菜を使ったお菓子作りを教えていただいた。

・10 月 24 日（火）名人さんに落ち葉や木ぎれなどを使って飾ったり、遊んだりできる物作りを教えていただいた。

（2）環境整備作業…裏山の整備、前庭や校庭の整備

・8 月 27 日（日）　地域の方に大勢来ていただき、運動場の草むしりをしていただいた。

■　実施に当たっての工夫

○　以前からあった「ＨＯＴけん桜谷隊」を母体として、地域コーディネーターが学習、環境、見守りと活動内容を分類し、それぞれの活動に参加できるボランティアさんへの呼びかけや調整を行った。

○　生活科や総合的な学習の時間を中心にボランティアさんに協力を要請したいことを年度初めにピックアップして、コーディネーターとも話し合いながら、年間の計画を立てた。

■　事業の成果

○　以前からあった「ＨＯＴけん桜谷隊」を母体として、地域コーディネーターが学習、環境、見守りと活動内容を分類し、それぞれの活動に参加できるボランティアさんへの呼びかけや調整を行う。そのことによって、担任もコーディネーターとつながり学習で地域の方の力を借りやすくなった。

○　地域コーディネーターが学校で準備や調整をする時間が増えたので、地域も学校もお互いの状況がわかり関わりが深まった。

○　「森のレストラン」という取組では、ボランティアさんに感謝の気持ちを示す機会を設定した。招待状を出し、自分たちで作ったみそ汁を含む給食をいっしょに食べる。このことで、顔と名前を覚えることができ、地域での関わりも増えた。

【森のレストラン：お世話になった皆さんと】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○　今までからのボランティアさんの活動を踏襲しているところもあるので、計画段階でしっかりと見直すことと、実際行った後にふり返りが必要である。ＰＤＣＡサイクルで活動を考えていくことが大切である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（ ○ ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

竜王町における地域学校協働本部の取組

■目指す姿

学校や園での教育活動は生涯学習の中の一領域でもあり、その上で教育というものを広く考えるとき、学校教育は学校や家庭・地域の融合の中で進められていくことがより教育効果を高める方法であると考えられます。

そこで、公民館講座の受講生や情報等を活用しつつ、学校（園）支援のために学校（園）と地域人材とを結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上を目指します。

さらに、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で子どもたちを中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に地域へとその対象を広げ、互いに支えあうことを通して、一層のまちづくり活動の推進へとつなげることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり、人づくりを目指します。

■本年度の具体的活動

・４月中旬　　学校園情報交換会の開催。
・３月中旬　　運営委員会の開催。
・毎　　月　　統括マネージャー・コーディネーター会議（定例会）の開催
・年　２　回（上半期、下半期）　学校園応援団だよりの発行。
・通　　年　　学校園応援団（ボランティア）の募集。
・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信
・活動方針や課題の検討、問題の共有を図る。

■本年度の成果

・小中学校の学習では、児童生徒のきめ細かい個別対応が可能になり教育効果が上がった。
・幼稚園では、個々の幼児の発達をボランティアの立場から支えることができた。
・託児や校外学習の引率などでは、学校行事およびＰＴＡ行事を安全に円滑に進めるための支援ができた。また、餅つきや流しそうめんなど、特色ある行事の推進もできた。
・地域のボランティアさんと幼児・児童・生徒とが顔見知りになり、人間関係が密になった。
・町の水墨画サークルによる中学生への水墨画の指導で、日本文化に触れる機会が持てた。
・小学校のクラブ活動（アートクラブ）で、様々な外部講師による制作活動ができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

・ボランティアさんの高齢化、固定化が進んでおり、今後、学校（園）からの依頼内容によっては満足な支援ができないものが生じる可能性が懸念される。また、支援内容によっては、ボランティア登録者が多い支援と少ない支援があり、より一層、新たな人材の確保に努めたい。
・制作活動の場合には材料費等の費用が発生するものがあり、その費用の負担をどうするのか。
・ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等の把握等、情報の整理が難しい。

ひとりひとりの学びを支える学校・地域・家庭の融合による学校支援活動

竜王町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	５　人
竜王町学校・園支援地域本部	ボランティア登録数	累計（平成 22 年度～）　470 人 平成 29 年度活動数 119 人
関係する学校 竜王幼稚園・竜王西幼稚園・竜王小学校・ 竜王西小学校・竜王中学校	開　始　年　度	平成 22 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力が十分に子どもの成長に生かされない状況の今日、これからの子育てや教育は、学校・家庭・地域の連携・協働がますます大切になってくる。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校・園と地域人材を結びつけながら、地域総ぐるみでの学校・園支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援

〇小学校・中学校における家庭科のうち、ミシンや裁縫等の学習で常時５名程度のボランティアが授業に参加し、個別の支援を行った。担任１人では個別に行き届かない指導をボランティアが補った。
〇竜王中学校で、水墨画の指導を水墨画サークルおよび指導の先生のもとで行った。
〇竜王小学校児童の校外学習に引率支援（数名）を行い、道筋での安全管理および見学先での班別学習の支援を行った。
〇竜王西小学校のアートクラブ（クラブ活動）で、年間を通じてクラブ活動の支援を行った。（お花、お茶、水鉄砲　他）
〇竜王小学校の大根作りを、地域ボランティアの支援により行い、「大根炊き」に招待した。
〇竜王小学校における「朝の読み聞かせ」を、年間通じて毎週木曜日に行った。（３年生以上、ボランティア８名）

（２）託児支援

〇幼稚園や小学校で、ＰＴＡの行事や学校の授業参観等で子育て中の保護者も参加できるように託児所を開設して託児支援を行った。

（３）学校行事支援

〇両小学校のスキー教室の指導ボランティアを募集し、例年 10 名程度のボランティアによりスキー教室が充実している。
〇竜王小学校での交通安全教室に際し、学校外道路上での横断歩道や信号機での渡り方の学習支援を行った。
〇竜王幼稚園で、夏の流しそうめんや冬の餅つき大会を行った。また、竜王西小学校で、焼き芋大会の学習支援を行った。
〇竜王幼稚園で、幼児の絵本の貸し出しや預かり保育のおやつ作りなどの支援を行った。
〇竜王小学校で、授業研究等で自習時にボランティアによる自習時間の教室見回りを行った。

■　実施に当たっての工夫

〇統括マネージャーとコーディネーターとが月１回程度、定期的に会議（定例会）を持つことにより、円滑な支援推進ができた。
〇支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ出向き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアさんと話し合いをし、よかった点、改善すべき点等、今後につながる情報交換を行った。
〇ボランティア名簿と連絡通信網の管理運用に常に留意し、地域の人材を有効に生かせるようにしている。
〇支援時に行き違い等が生じないように学校園とボランティア個人に支援内容を文書で連絡している。

■　事業の成果

〇小学生の児童からは、たくさんの感謝の手紙などをいただいた。また、ボランティアさんからは、「子どもたちから元気をもらった、参加してとても満足している」などの声を聞き、生きがいの場を提供することができた。学校（園）、ボランティアの双方が満足できる支援につなげることができた。地域での子どもとの顔見知りも増え、コミュニケーション面でも進歩があった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇保護者ボランティアさんが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了されることが多いため、今後も継続した活動へとつなげていくための有効な対策をとっていきたい。
〇ボランティアさんの高齢化、固定化が進んでおり、今後、学校（園）からの依頼内容によっては満足な支援ができないものが生じる可能性が懸念される。

■　「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

多賀町における地域学校協働本部の取組

■　目指す姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は自分の持っている知識や経験を子どもたちに伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

■　本年度の具体的活動

（１）地域教育力推進協議会の開催

町内の団体・企業・学校・行政からなる推進協議会を毎月１回開催し、子どもの体験活動等に関する情報交換および地域の教育力の向上に関する事業等をおこなった。

（２）登録者等に対するボランティア研修会の開催

今年度、普通救命救急講習・読み聞かせ（手遊びわらべ歌含む）研修を開催し、ボランティア活動のスキルアップを図った。

（３）ボランティア意見交換会（交流会）の開催

毎年度末に、ボランティアの意見交換会を開催している。（本年度、交流会を予定）

■　本年度の成果

〇地域教育力推進協議会で情報交換をすることにより、町内企業・学校等との連携が取れ学校行事等に生かされている。

〇また、会員の企業へ親子工場見学を開催した。応募が多く、今年度２回目も検討している。

〇大学生のボランティア登録が多くなり、ボランティア層が広がるとともに活動の場も広がった。（夏休みの学習支援、小学校の運動会、子育て講演会の際の託児など）

〇道徳授業のゲストティーチャーなど学習の場での活動が増えた。（中学校の全校集会で「命」のテーマによる本の読み聞かせや、小学校でボランティアについての発表・質疑応答など）

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

ボランティア登録者に対して、年度当初に今年度の活動の意向確認をおこなった。平日が多いため、活動できる人数は限られているが、ＦＡＸ等を活用して広く周知するなど、多くの参加者を募る工夫をしている。町内の保幼小中保護者にボランティア登録を年度初めに依頼しているが、登録者が少なくなってきているのが現状。

■その他（多賀町地域教育力推進協議会　　開催数：年 11 回　　委員数：24 名）

団体	多賀町ＰＴＡ連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		ＪＡ東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	子育て支援サークル「たんぽぽ」		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育てサークル「パオパオ」	学校	多賀中学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		多賀小学校
	Ｄドラファミリー		大滝小学校
	グループ「ＳＫＯ」	行政	教育委員会事務局生涯学習課・学校教育課
	多賀クラブ		多賀町産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町中央公民館・あけぼのパーク多賀
			多賀町子ども・家庭応援センター

「地域とともに多賀の子を育てよう」多賀町地域学校協働本部事業の取組

多賀町 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1　人
多賀町地域学校協働本部	ボランティア登録数	116　人
関係する学校 多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校・多賀幼稚園 大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園・たきのみや保育園	開　始　年　度	平成 20 年度

活動内容　※実施した活動内容全てに■印

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

例年の活動に加えて、道徳教育に関する授業やその他授業への協力が今年度増えた。また、大滝小学校「学びっこタイム」（学習支援：地域未来塾）の活動が定着され、地域の方や町内のサークルなど多くの参加を得て実施している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）道徳授業時の学習支援

中学校全校集会において道徳テーマ「命」に関する本の読み聞かせ発表。また、小学校道徳授業時に社会貢献としてのボランティア活動の意義を発表し、子どもたちと質疑応答の時間を持った。

（２）環境等の学習

月１回環境委員会での花苗植えの指導、特別支援学級での生活単元の学習で野菜を育てる際の指導、保幼でのイチゴ苗植えの指導など、先生方と連携して授業に参加した。

■学習支援（地域未来塾）の活動内容

〇活動の目的：「学びっこタイム」では、高学年の下校時間に合わせ集団下校することによる下校の安全確保、地域の方とのふれあい、学習時間の確保を目的として実施している。
〇支援員数：学習支援員２名、ボランティア数名（毎月予定表を組んで参加）
〇支援員の属性：元教員、地域住民など
〇学習形態：木曜日は宿題（主に算数・国語や音読）のあと、工作などみんな遊び
　　金曜日はパソコン、英語遊び、地域で活動するサークルの活動を体験
〇教室のもち方と実施日数：毎週木曜日・金曜日の放課後（月８～10 回程度）
〇子どもの平均参加人数：１～３年生　全 30 人

【大滝小学校学びっこタイム（玉すだれ）】

■　実施に当たっての工夫

大滝小学校「学びっこタイム」

〇手作り工作（コマ、輪ゴムてっぽう、おりがみ他）、竹馬遊びなど地域の方の力を借りて実施。また、地域で活動するサークルにより、よし笛・よさこい・玉すだれなどを体験する機会を設けている。さらには毎月、英語にふれるために外国人の先生と一緒に体を使っての英語遊びや、パソコンを使用した算数やプログラミング、パズル遊びなど楽しく学べるように工夫している。

「その他の活動」

〇子どもたちに直接関われる活動を重視し、一人でも多くの登録者に声をかけ参加してもらえるよう、広くＦＡＸ等を利用して案内している。
〇学生（教職に興味のある学生や多賀町育英資金受給者）にメール配信などにより学校行事等の案内をし、協力してもらえるように工夫している。

■　事業の成果

パソコンや英語など、授業で集中的にできないことを学びっこタイムでおこなうことができる。地域のサークルなど、大勢を巻き込んだ活動ができ、子どもたちもさまざまな体験ができている。翌月の予定を見て、子どもたちは毎回楽しみにしてくれている。地域の方々にも、「子どもから元気がもらえる」「一緒に遊ばせてもらっている」と喜んでいただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の方（保護者含む）の参加を増やす為、広報等で募集をしているが平日が主でありなかなか難しい。活動内容を広く周知する。また、ボランティア同士が交流し、やりがいのある活動になる為に、交流会など意見交換の場を広げていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（〇）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

大津市における学校・地域コーディネート本部事業の取組

■　目指す姿

〇地域、家庭、学校が、思い描いている「目指す子どもの姿」、「目指す地域の姿」や「現状の課題」等をそれぞれの立場から出し合い、十分な話し合いを経て、三者共通の目標を導き出すことができる。

〇導き出した共通の目標を具現化するため、地域、家庭、学校が取り組める具体的な活動について三者それぞれが当事者意識を持ち、連携・役割分担の上、積極的に取り組むことができる。

〇地域、家庭、学校が次代を担う子どもたちを地域社会総がかりで育てるという意識を持ち、子どもたちの日々の成長を共に喜び合うことができる。

■　本年度の具体的活動

（１）各本部での取組

今年度は、８本部 11 校で実施した。各本部では次のような活動を実施した。

・支援活動（仕事体験のコーディネート、読み聴かせ、クラブ活動、図書室運営、文化祭コーナー企画、登下校の安全パトロール、あいさつ運動、福祉教育　等）

・環境整備（ふれあい教室、花壇、学習林）

・情報発信（広報誌等の作成）

・中学生の地域行事へのボランティア参加の促進　他

（２）コミュニティ・スクールへの移行に向けた協議会を開催

８月に、「学校・地域コーディネート本部運営委員会」および「地域コーディネーター連絡会」を実施した。「学校・地域コーディネート本部運営委員会」では、滋賀大学名誉教授、大阪青山大学名誉教授の住岡英毅先生を講師にお招きし、ご指導をいただいた。また、今年度よりコミュニティ・スクールを実施している日吉台小学校の事例発表も実施した。同日後半の地域コーディネーターのみを対象とした、「地域コーディネーター連絡会」は、具体的な活動内容やその成果と課題等についての活発な協議となった。

（３）説明会の開催

コミュニティ・スクール実施に向けての説明会を十数校で開催した。学校運営協議会制度についての説明、地域学校協働活動推進員や地域学校協働本部についての説明を通して、今必要とされている地域・家庭・学校の連携の形や、目指すべき大津市のコミュニティ・スクールの在り方等を提案した。

■　本年度の成果

〇子どもたちと地域の方がふれあう多くの機会が生まれ、互いの距離が縮まった。

〇地域人材が確保され、地域・学校・家庭が協働で進める活動が充実してきた。

〇教職員が子どもとふれあう時間を増やすことができた。

〇今年度の各本部の取組はコミュニティ・スクール実施の大きな足がかりとなった。

■　課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇大津市では、今年度末を本事業の終期とし、さらにコミュニティ・スクールの導入を推進する。また、各学校運営協議会に地域学校協働活動推進員を配置し、さらに地域・家庭・学校の協働を進める計画である。大津市の目指す姿が具現化できるよう、教育委員会事務局として、地域住民や保護者、教職員へのきめ細やかな説明が必要であるのと同時に、三者の思いに耳を傾け、それぞれの立場からの意見を踏まえたよりよい制度を設計し、実施することが責務である。

むすび、つながり、ふれあう　「WANI」なるプロジェクト！　（和邇小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	1人
和邇小学校・地域コーディネート本部 WANI なるプロジェクト	ボランティア登録数	24 人
関係する学校 和邇小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

安心して過ごせる学校環境づくり、地域の教育力向上を目的として、毎週木曜日の昼休みに地域の方々が子どもたちと遊んだり、お話をしたりする「ふれあい教室」を開設した。また、「学びと地域をむすぶ」活動では、子どもたちが和邇のまちを一層愛し、将来地域への恩返しができる人材を育てるとともに、商店街や地域施設がより活性化する学習活動を展開した。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「ふれあい教室」・・・本校の空き教室を利用。毎週木曜日の昼休み 12：45～13：20 まで（３学期中に毎週２回実施を予定している）の時間で地域の方と子ども達が遊びを通して交流をする。遊び道具には将棋、チェス、オセロ、お手玉、けん玉、福笑いなどがある。

（2）「地域と学びをむすぶ」・・・生活科、総合的な学習の時間を見直し、地域とのつながりを大切にした学習内容を多く取り入れた。地域の歴史や文化、環境について探究学習をしたり、地域のお店、施設などに子ども達が訪ねたり、講師として学校に招いたりした。

■学習支援の活動内容

〇活動の概要と目的：地域の方に学校にきてもらい、子どもたちと交流していただいたり、子どもたちが積極的に地域に出かけ地域学習をしたりする活動である。そこから子どもたち、教職員が今以上に地域とつながること、地域の方が学校や本校児童をより知ってもらうことを目的としている。さらには、地域が子どもを核とした活動を通しさらに活性化されることをも目的としている。

〇支援員数：24 人

〇支援員の属性：地域住民

〇学習形態：「ふれあい教室」は交流　「地域と学びをむすぶ」は学習支援や子どもの安全確保、地域教材紹介

〇教室のもち方と実施日数：「ふれあい教室」は毎週木曜日の昼休み　「地域と学びをむすぶは」学習実施日

〇子どもの平均参加人数：「ふれあい教室」は 40 名　「地域と学びをむすぶ」は全校児童

■　実施に当たっての工夫

〇「ふれあい教室」では、将棋やすごろくなど、交流のしやすい遊び道具をたくさん用意した。設置場所には交流の様子がみやすくさらには参加しやすいよう１階に設置した。常時 10 名程のボランティアさんが参加してくれる。

〇「地域と学びをむすぶ」では、地域と学校がともに無理なく両者ともにメリットがあるように計画をしている。また、学習活動や成果が見えるようにお世話になったお店や施設などにレポートや新聞などを渡しており、展示してくださっているケースもある。

■　事業の成果

〇「ふれあい教室」では、子どもも地域の方もこの木曜日を楽しみにしていることが大きな成果である。子どもたちや地域の方の表情がとても柔らかい。さらには、地域の方に児童を知ってもらう機会となったり、他の学習にも参加いただけるケースもあったりと、つながりが更に広がり、大きくなってきた。

また、たくさんの異学年が教室に遊びに来るので高学年が低学年に将棋を教えたり、チェスをいっしょにしたりするなど異学交流ができていることも成果にあげられる。

〇「地域と学びをむすぶ」では、普段は大型ショッピングセンター中心に買い物をする児童が多いなか、地域のお店にはあまり行かない子どもたちも地元のお店の良さ、魅力などを知ることができた。そこからお店の良さや魅力の情報が家族等に拡散され、地域の活性化につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇現在、コーディネーターの人力を頼って本取組を続けている。今後は本年度の実績をもとに地域連携をさらにすすめ、人材バンクの作成を急がなければならない。

■　その他

子どもを核とした活動を通し、新たな学びやつながりを生みだし、家庭、学校、地域社会が共に育ち、育て合う関係を構築するための基盤となる地域の教育力の向上、そして地域の活性化につながる取り組みを今後とも続けていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

＜支援の広がり・充実を目指した「まのっこ」の取り組み　（真野小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
真野小学校・地域コーディネート本部 ＜支援の広がり・充実を目指した「まのっこ」の取り組み	ボランティア登録数	70 人
関係する学校 真野小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

事業の実施は、初年度である。これまでも学校行事や地域と一体となった活動において様々な支援を受け、教育活動を行ってきた。この事業を契機として、地域と学校の連携のあり方を見直しながら、学校の応援団を拡充し、地域と共に「自ら学び考える」「思いやりある」「たくましい」、「まのっこ」を育んでいく。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）これまで、学校が地域と連携しながら行ってきた教育活動を整理する一方、学校支援ボランティアを募集して広がりと充実を目指した。真野小学校出身の大学生によるスクールサポーターによる学習支援が実現し、学校・大学生双方にとって意義ある取り組みになりつつある。

（２）以前からある「こいのぼり」「お正月集会」「登下校支援」「お話会」等に加え、子ども達と地域住民が活動を通してふれあい学び合う姿を目指して活動を工夫した。　（「やきいも」「市民運動会（ﾛｯｸｿｰﾗﾝ）」「敬老の日のお手紙」等）

【学習支援】	【行事支援等】	【読書活動支援】	【登下校支援他】
・大学生による教育支援活動＜ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰ＞ ・3年総合（名人さん）＜地域講師・ｻｰｸﾙ＞ ・4年社会（逆水）＜水土里ネット＞ ・5,6年家庭科支援（ミシン、裁縫）＜民生委員、支援ボランティア＞ ・6年未来について考えよう（ｷｬﾘｱ学習）＜学区民会議、こいこいクラブ＞ ・3.5年田植え、稲刈り＜地域講師＞	・こいのぼり卒業生こいのぼり＜こいこいクラブ＞ ・運動会　＜ＰＴＡ＞ ・市民運動会（ﾛｯｸｿｰﾗﾝ）＜体育協会＞ ・やきいも＜真野ﾊﾞｲｵﾆｱｻｰｸﾙ＞ ・マラソン大会＜ＰＴＡ＞ ・お正月集会＜地域講師＞	・朝のお話会（学期６回） ・昼のお話会（学期１回）＊お話サークル＜こうまのさんぽ＞	・登下校指導（年間約50回）＜真野の子どもを守る会＞ ・交通立ち番（年間、ほぼ毎日）＜ＰＴＡ＞ ・敬老の日に向けてのお手紙＜自治会＞

【やきいも】

■　実施に当たっての工夫

○　学校支援ボランティアを増やすために、募集のチラシを作り学区内に配布するとともに、学校ホームページ上にも掲載した。また、活動の様子を「まのっこ」にまとめ、発行した。

○　お世話になった方々へは、児童からのお礼の手紙を届けた。

■　事業の成果

○　企画を地域コーディネーターにゆだねることにより、時間が生まれ、教職員が子どもとふれあう時間に充てることができた。

○　学校協力者会議の「熟議」と連動して推進したので、「目指す子どもの姿」「連携のありかた」を学校と地域が一定共有できた。

○　活動の様子や成果を「まのっこ」に掲載し、発行した。このことで、学校と地域の連携・協働を一歩進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○　児童の学習予定や学校行事・地域行事をうまくすり合わせ、今後も見通しを持って企画をコーディネートする。

○　学校支援ボランティアの掘り起こしに向けて、今後も努力する。

■　その他

○　活動を通して、子どもたちに豊かな心を育むとともに、地域の方にも達成感を感じてもらえるよう、推進していく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（ ○ ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともにある開かれた学校づくりをめざして　（仰木の里小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
仰木の里小学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	70 人
関係する学校 仰木の里小学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

事業に取り組む上で、多くのボランティアの方々に子どもたちの学習や環境整備に関わる支援をいただく際に、学校内外で子どもたちの様子を見守っていただいている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校における学校支援の３つの柱は以下のとおりである。

（１）教科等の学習支援

本の読み聞かせや１年生の昔遊び体験、３年生の世代間交流・盲導犬・手話等の福祉教育、６年生の家庭科指導補助、室町体験学習、戦争体験談等

（２）環境整備や図書室運営への支援

花壇の苗の植え替えや「みのりの森」（学習林）、学校周辺の樹木剪定グランドの草刈り、学校図書館の整備・選定・貸し出し支援等

【樹木剪定作業】

（３）安全面、緊急時にかかわる支援

登下校における安全パトロール、あいさつ運動、児童引渡し訓練における支援、運動会準備の呼びかけ等

■　実施に当たっての工夫

【ＰＴＡ・地域・近隣大学の協力を得ながら「にじのはしまつり」を開催】

毎年開催しているＰＴＡとの共催行事「にじのはしまつり」では、第一部に文化芸術による子どもの育成事業「劇団ひまわり」による児童劇の鑑賞を行い、第二部では、地域のボランティアや近隣の大学など、さまざまな方々に協力をいただき、子どもたちが楽しい体験学習ができるように工夫した。

①　読み聞かせボランティア「ぱくぱくさん」によるお話会（１年生）
②　成安造形大学の学生による造形遊び、紙芝居、工作などの３つのワークショップ（２～４年生）
③　びわ湖成蹊スポーツ大の先生による古武術についての体験および講習会（５，６年生）

■　事業の成果

学習支援をしてくださった方には、後日お礼の手紙をやりとりしたり、学習発表会を参観していただいたりして交流を続けている。来校される地域の方々も学校へ入りやすくなり、地域でも「里っ子育成ネットワーク会議」を開いて子どもたちをよい方向に導こう、見守っていこうとする機運も高まってきた。

また、「子どもたちのために」と地域のボランティア団体が労を惜しまず、環境整備等に多く力添えをしていただいている。その活動を通して子どもたちとの距離も当初に比べずいぶん近づき、あいさつを笑顔でかわせる関係作りができてきた。地域の大人が見守り、優しく声かけをしてくれている安心感が子どもの心を落ち着かせ、たがいに思いやり合える温かい集団作りにつながってきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

（１）【環境整備の支援ボランティアの拡大を図るシステムづくり】

本事業も５年目を迎え、広報活動の継続を通して環境整備ボランティアの必要性や意義をより深く理解していただき、組織の拡大を計画的に進めることができた。現在の学生や保護者、地域の支援ボランティアには深く感謝するとともに、さらなる拡大を目指すべく組織・システム作りが必要となる。

（２）【教科や体験学習のゲストティーチャーや支援の継続と今後】

教育課程でも本事業を生かしたプログラムが定着してきており、教職員も共通理解ができつつある。しかし今まで通りだけではなく、さらにどの学習でどんな地域人材を活用できるか、探っていく必要がある。

（３）【地域コーディネーターの存在と学習の充実】

地域の保護者や人材をよく知っていただいている地域コーディネーターの存在は非常に大きい。地域との連携役として、またボランティアとして、連絡・調整・児童支援にと日々尽力していただいている。子どもたちの中でも「先生」として定着しており、その存在なくして現在の学習の充実ぶりはあり得ない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

“唐崎の子どもは唐崎の地域で育てる”学校支援ボランティア　（唐崎小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
唐崎小学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	79 人
関係する学校 唐崎小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

地域コーディネーターが、読み聴かせボランティアによる活動（朝の読み聴かせ・昼休みお話会・図書整理・交流会）の中心となって運営し、メンバーへの連絡調整や新規メンバーの募集を行った。

５年生の総合で取り組む「安全マップ」や１年生の「お年寄りとの交流」、「家庭科の授業支援」をボランティアの方にしていただくなど、地域の人材を積極的に活用した。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

最初は保護者だけのボランティア活動だった読み聴かせの取組は、メンバーの子どもたちが卒業し成人した今でも続けられ、今年で 16 年になる。現在、発足当初のメンバーに加え、小学生や中学生の保護者も合わせて様々な年代のボランティアの方々が活動されている。今年度も新たに７人のメンバーが加わった。活動内容は毎週２回の朝の読み聴かせに加え、昼休みの図書室でのお話会や学期に１度の”読み聴かせスペシャル”など工夫を凝らしたものが実施され、本好きの子どもたちが楽しみにしている。また、月２回放課後に図書館の整理を行っていただいている。今年度は学校司書と連携しての活動となり、より充実したものとなっている。さらに、学期に１回程度ボランティア同士の交流会も実施し、和気あいあいと子どもたちに人気の本の紹介や情報交換がされている。

このような幅広い活動が長年にわたって途切れることなく続けられ、本校の子どもたちの読書活動が支えられている。

■学習支援の活動内容

〇活動の概要と目的
①５年生の総合で取り組む「安全マップ」（児童安全管理・助言）
②１年生の「お年寄りとの交流」（昔遊びの伝承・開かれた学校）
③「家庭科の授業支援」（個に応じたきめ細かな指導）　※以下①～③で示す

〇支援員数：①46 人　②20 人程度（予定）　③８人

〇支援員の属性：自主防犯推進協議会、民生委員児童委員協議会、青少年育成学区民会議、子ども安全リーダー、少年補導委員会、唐崎小学校ＰＴＡ、地域各種老人会 他

〇学習形態：①グループ別　②遊びの種類別　③個別

〇教室のもち方と実施日数:①学区内めぐり　１日　②１年生各教室＋特別教室　１日
③家庭科室　８日

【家庭科ボランティア】

〇子どもの平均参加人数：①５年生児童全員 139 人　②１年生児童全員 141 人　③５年生各クラス人数（約 35 人×６時間）

【安全マップ】

■　実施に当たっての工夫

地域コーディネーターは青少年育成学区民会議の事務局長を長年勤めている。このネットワークは学校からの要望に応えるという、一方通行になりがちなコーディネート活動を地域の声を吸い上げることで、逆に学校教育活動に反映させることができる。

■　事業の成果

・学年行事や体験活動の計画において、活動に幅が出てきた。
・教員の負担軽減につながった。
・地域の方の多くの眼が子どもたちにむけられ、いじめの早期発見の一助となった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・大変多くの方々にボランティアとして参加していただいているが高齢化しており、保護者の世代がもっと積極的に参加できるようにアピールすることが必要である。
・地域コーディネーターが事務を行うための適切な場所の確保が難しい。
・本事業を通してコミュニティースクールに向けて、より一層、地域を大きく巻き込んで子どもの育ちに関わる事柄をアピールする必要がある。地域コーディネーターは地域人材の力で「寺子屋」実施の意欲を持っている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ 〇 ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「仕事体験」「工場見学」を店舗や工場、保護者等をまきこんだ地域ぐるみの取組に！（晴嵐小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
晴嵐小学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	19 人
関係する学校 晴嵐小学校	開　始　年　度	平成 29 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

・学校と地域と家庭を結ぶ活動・取組を円滑に進める為に、キャラクター（つなぐちゃん・サニー・ストーム）の設定を活用していく。

【キャラクターの紹介】

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）３年生の総合的な学習「とび出せ、エプロン探検隊」の仕事体験。石山商店街及び石山駅周辺の商店、事業所に３年生全児童が３日間にわたり一人１回の仕事体験をする。１店舗あたり２～５名の児童が１時間程度、仕事体験をする。

（２）５年生の総合的な学習「工場ウォッチング」の工場見学。学区内の 10 の企業に５年生全児童が分かれて、同日・同時間に出かけ「ものづくり」について学習する。引率には教師のほか、保護者ボランティアの協力がある。

■　実施に当たっての工夫

〇今後も継続していけるように「なぜ、この取組を行っているのか」「育てていきたい子どもの姿」など理念や思いを学校・地域・保護者が共通理解、共通認識できるようにチラシを作成し配布する。

〇商店・事業所・企業に受け入れ協力を依頼するときに、キャラクター紹介をしながら統一したイメージで活動できるようにする。

〇３年生の仕事体験は協力店舗が一目でわかるようにポスターを作成し掲示してもらう。

〇地域住民にも広く知っていただけるよう、自治連合会に協力を依頼する。自治会の掲示板にポスターの掲示をしてもらう。また案内のお手紙の回覧を依頼する。ほか、幼稚園の子育て広場に取組の話をしに行ったり、支所にもポスターの掲示をお願いする。

〇活動終了後には取組について、協力店舗や企業、教師や保護者にアンケート協力をお願いして今後に生かせるようにする。

〇取組のことをより知ってもらうために「地域だより」として広報誌の作成をする。

【３年生：お仕事体験中】

■　事業の成果

〇担当窓口が１本になったので協力店舗、企業との交渉・連絡・調整がスムーズになった。
また、急な変更にも迅速に細かく丁寧に対応することができた。担当学年の教師との調整や報告などの打ち合わせも短時間で出来るようになった。

〇関係者の方と直接お会いする機会が増えたことで様々な情報や取組に対する意見・要望などを収集することができ、次へつながる関係が構築できつつある。

〇アンケートを通して「取組に対する率直な思い」や「子どもの姿」などを聞くことができ、様々な立場の人の考えや思いを知る機会になった。また、協力してくださった方が考えや思いを児童に伝える場ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇仕事体験では受け入れ協力店舗が減少傾向にある。それに反して児童は増加する。商店街も後継者問題や従業員不足などにより受け入れに難色を示す店舗が多いが、商店街振興組合としては取組に理解をいただいている。商店街振興組合と連携を取り、巻き込んだ形で店舗の協力を促していきたい。

〇仕事体験の取組は地域住民には周知できていない。子どもたちの明るい声、元気な姿は地域の活性化に一役買うことができ、地域住民の皆さまが商店街に足を運ぶきっかけにもつながると考える。そのことが子どもの育成に関わっていると気づくことができるようにしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（〇）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

やる気いっぱい　やさしさいっぱい　夢いっぱいの学校・地域を目指して　（青山小学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
青山小学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	95 人
関係する学校 青山小学校	開　始　年　度	平成 27 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

本事業は、今年度で三年目である。コーディネーターが、青少年育成学区民会議の会長を務めておられた経緯があり、地域の事情に精通しておられ、地域の幅広い人脈を生かした活動を行っている。低学年生活科の昔遊び等のボランティアをはじめとして、中学年の地域教材に関わるボランティア、さらに、４～６年生のクラブ活動に関わるボランティア募集の窓口等々、コーディネーターの強みを生かした活動を展開している。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【学習支援】

主な活動として、４年生の総合的な学習では、地域の環境問題に取り組んでいる。ここでは、校区内を流れる川へ赴き、そこに生息する水生生物の生態や川の水質等について学習を展開する。水生生物や川の水環境について造詣の深いゲストティーチャーをお招きした。視聴覚機器を駆使し、子どもたちの課題発見・追究の大きな助けとなった。

【 ４年生　川探検の学習 】

【体験的な活動支援】

◎囲碁・将棋クラブ

囲碁・将棋に造詣の深い地域の方にお越しいただいた。特に、囲碁については、そのルール等、校内で知る教員もなかったため、子どもたちは大変興味深く活動に取り組むことができた。

◎昔遊びクラブ

けん玉の多彩な技を紹介していただき、技を成功させるポイントについて多くのアドバイスをいただいた。高度な技にあこがれをもち、大変楽しんで取り組むことができた。

◎伝統・文化クラブ

茶道体験を行うにあたり、茶碗についての説明や、作法の指導、お茶の点て方など、通常の学校生活では学習できない貴重な体験をすることができた。

【安全支援】

コーディネーターが子ども見守り隊の幹事をしてくださっていることに加え、継続してコーディネーターを務めていただいているため、この方の呼びかけで、青山小のスクールガードは年々増加し、活動の幅も広がっている。

■　実施に当たっての工夫

○『ボランティア申請書』を作成し必要事項を記入することで、随時コーディネーターと打合せを行っている。安全リーダーとして、毎日学校へお越しいただいているため、打合せ日の調整を行う必要がなく、短時間での打合せが可能となっている。

○学校協力者会議等、地域の方が集まる会の場で、本事業を紹介し周知させ、ボランティアの人材確保に努めている。

■　事業の成果

○安全支援面では、子どもの下校時間だけではなく、放課後の子どもが地域で活動する時間帯には、黄色の帽子と腕章を身につけた多くの方々が地域をパトロールしてくださっているため、安心して過ごすことができている。

○学習支援や体験的な活動支援では、子どもたちの学習やその他の活動に大きな深まりが見られた。学区内には、様々経験や知識をお持ちの方が多くおられるため、今後も積極的に人材活用できる環境が整ってきた。

○以前より学校や地域になじみの深いコーディネーターであることから、教員が気軽に直接交渉を行うことができた。また、継続的に取り組みを続けることで、スムーズに事業を進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

コーディネーター自ら、活動を提案してくださるような事もあったが、学校の教育計画上、余裕がなく、この善意あふれる提案に十分お応えすることができなかった。また、保幼小中連携推進事業等とも関連づけながら、今後は、特に中学校と連携した事業も考えていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（ ○ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と共にある学校づくり　（仰木中学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
仰木中学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	25 人
関係する学校 仰木の里小学校・仰木の里東小学校・仰木中学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

校区の大半が造成 20 年程の新興住宅地のため、地域間のつながりが比較的弱い。そのため子どもたちも、家族以外の大人との関係が希薄になりがちである。そこで、多様な経験を持つ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、様々な価値観や生き方に直接ふれ、自分以外の考え方や価値観への理解や共感ができるきっかけを得ることを目的とし、学習支援、図書室運営支援、園芸、文化祭支援などの活動を行っている。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援

単発にならずに継続した学習支援を長いスパンで行う。そのために生徒とボランティアの方との人間関係づくりに重点を置いた。１学期は、定期テスト前の教科担当主体の質問教室に、夏休みには、教師主体の学力補充教室にボランティアの方も一緒に参加してもらった。その中で人間関係がつくられ、２学期以降、個別の学習支援へとつながっていった。本人や保護者から申し出があった生徒を対象に週に１回ペースで行う学習支援と、２学期からも定期テスト前に希望する生徒対象の複数人対象の学習支援を実施した。

（２）文化祭コーナー企画の取り組み

地域にお住いの芸術家の方やサークルに所属されている地域ボランティアの方に文化祭のコーナー企画の講師として「囲碁サークル」「将棋サークル」「書道の会」「仰木太鼓保存会」「切り絵」を担当してもらった。それぞれのコーナーで専門的な指導を積極的に受けようとする生徒の姿が見られた。普段は体験できない仰木太鼓をたたいたり、難しい囲碁に挑戦したりしていた。将棋では、ボランティアの方との力の差に生徒は圧倒された。

この文化祭の企画を発展させて、全校生徒に地域ボランティアの方の「切り絵」の芸術を広める取組を行った。自分の考えた「いじめ防止の標語」に切り絵を添えてラミネートし、毎日使う「朝読書」の栞を完成させた。

■　実施に当たっての工夫

〇地域の方から学習支援を受けることに違和感をもたないよう、最初のつながりに工夫した。また、来校してもらっている状況を職員会議で報告したり、朝に学年全体に今日の動きを確認したりして学校全体でボランティアの方の動向が把握できるよう努めた。

〇文化祭の要項が決まった段階で、地域コーディネーターの方に連絡を入れ、ボランティアの方への連絡を依頼した。それを受けて、夏休みに教師側の担当者からそれぞれのサークルや会の代表の方に連絡を入れてもらい、今年度の日程や計画などについて打ち合わせができるよう段取りをした。自分だけが関わるのではなく、多くの教師が地域ボランティアの方と抵抗なく触れあえるよう工夫した。

■　事業の成果

本事業の開始から５年目を迎え、図書・園芸・学習支援等のために地域ボランティアの方々が学校に来られることが、「当たり前」の姿となっている。そのお陰で文化祭のコーナー企画でもたくさんの地域ボランティアの方と生徒とが活発に交流することできた。

ボランティアの方から「学習支援している生徒と地域で出会って会話したよ」などの声を聞くことができ、生徒と地域が身近な関係となってきている。これがやがては、生徒が地域に積極的に出向いて活動できる協働の関係につながっていくことが期待される。

また、学習支援をしてもらう中で、人間関係が深まり、日常会話で教師の視点ではない観点で生徒がアドバイスを受ける場面がみられるようになった。その姿を教師も見ることができ、綿密に打ち合わせをしながら生徒にとっても学校にとってもボランティアの方にとっても利益を感じることができている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

学習支援を受ける生徒の個人情報をどこまで伝えてよいかが難しい。また、今年度の学習支援形態では、一部の生徒に絞られてしまうため、公平性に欠けている部分もある。その一方で、人数が増えていくと把握しきれなくなることもあり、重なってくると負担が多くなることもあった。

将来的なことを考えたとき、現在お世話になっている方々がだんだん高齢になっていかれるので、新しいボランティアの方の発掘をしなければならない。しかし、どこまでの範囲で募集するのか、どの基準で採用できるのかなどの難しさを感じた。

現在支援を受けることは充実してきたが、学校から地域への働きかけが一部の生徒や部活動に留まっているのが現状である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　〇　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（　　）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

自尊感情を高め、他者との関係性を育むボランティア活動の推進　（田上中学校）

大津市 活動名	地域コーディネーター数 （地域学校協働活動推進員）	１人
田上中学校・地域コーディネート本部	ボランティア登録数	17 団体 11 人
関係する学校 上田上小学校・田上小学校・田上中学校	開　始　年　度	平成 25 年度

活動内容　　※実施した活動内容全てに■印

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□郷土学習　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□その他［　　］

■　活動の概要

「田上地域の子どもの９（11）年間」を見据え、学力向上、なめらかな接続、生徒指導上の課題解消、家庭の教育力の向上など山積する課題に、（保幼）小中が協同歩調で取り組むとともに、田上地域一体となった支援体制が得られるよう、揺るぎない地域連携の土台を固めていくことを最大のねらいとしている。そして、テーマの通り自尊感情を高め他者との良好な関係性を築くために、地域の教育力を学校教育に活かしながら学校教育目標の具現化を図ること、地域の方々とのふれあいや学習を通して豊かな心を育むことをねらいとして取り組んでいる。

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（ア）中学生の「地域行事へのボランティア参加」の促進（主眼を置いている）
（イ）（この事業を切り口に）実効性ある小中連携の推進（平成 26 年度から継続）

■活動内容

①中学生の地域行事へのボランティア参加（参画）の促進
・７月から 11 月の間に、16 の地域行事等にのべ 158 名の中学生が参加。地域の文化祭（上田上・田上学区）にも参加。　校内クリーンボランティアには２回でのべ 92 名の生徒が参加。

【　ボランティア活動　】

②保幼小中連携の観点から、中学生と児童・園児のふれあい場面を設定する。
・中学校の体育祭に保育園の園児を招いて交流種目の実施・２小学校運動会への中学生の参加（リレーに出場）
・学区文化祭における中学生ボランティアの幼児・児童へのクラフト制作等の指導・田上小学校ふれあい創作まつりにおける「中学校ブース」の開催・田上児童館の活動にボランティアとして参加し、地域の子どもたちとの交流

③各校の必要性に応じた支援ボランティアの募集
・中学校は純粋に 25 年度からの取組であるが、田上・上田上小学校は今までに築いた地域との関係に加え、当事業でさらに支援の幅を拡大しようと取り組んでいる。

④田上中学校ボランティア掲示板の設置と学校だよりでボランティア活動を紹介

■　実施に当たっての工夫

①コーディネーターを中心に地域諸団体（２学区）への当事業の説明会を開催
②中学校における「地域コーディネート推進委員会」の開催。地域コーディネーターとは、毎週事業実施に向けた打ち合わせや事業の様子について交流し支援の方法を検討した。学期に１回、中学校の方針や事業の進捗状況及び個々の取組みの成果と課題を検証するため会議を開催。２学期は 12 月 13 日に第２回目を開催。校長・教頭・コーディネーター・研究主任・連携グループ教職員８名の１２名で組織。
③行事によっては、ボランティア活動の前に地域の方とボランティアに参加する生徒で事前に打ち合わせを行い、参加から参画する活動を取り入れた。

■　事業の成果

①定期的に来校される支援ボランティアが増え、多くの眼で子どもを見守る体制が一層強化された。
②ボランティア参加の促進で、自尊感情の高まりが感じられ、いじめ撲滅の基盤となる「他者を思いやる気持ち」が校内に醸成されつつある。
③生徒が自分たちを育んでくれる「地域・人」に目を向ける契機になるとともに、地域諸団体・担当者から「中学校との距離が縮まった」「中学生の頑張っている姿が見られた」などの声を聞くなど、この取組が地域に定着してきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

①校内コーディネート推進委員会を中心に教職員の理解を拡大し、さらに全校体制で取り組む必要がある。そして、ＰＴＡ活動及び学校協力者会議と連携した展開が求められる。
②主体性を育むため、子どもが参加から参画する機会を設定することが重要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
（　　）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
（ 〇 ）地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

愛荘町における学校支援地域本部事業の取組

■学校支援本部事業の背景と事業のねらい

学校・家庭・地域が一体となって「地域ぐるみ」で子どもを育てる体制づくりの必要性

〇教育のさらなる充実・・・学校との連携により、地域ぐるみで子どもを育てる。

〇生涯学習社会の実現・・・自らの学習成果を子育てに生かす場を拡充する。

〇地域の教育力の向上・・・地域の活性化につなげる。

■本年度の活動

〇学校支援地域本部：町内４小学校　２中学校

〇平成 29 年度の取り組み重点を継続し、実行委員会の開催（年３回）構成：14 名（教育長、教育委員長、社会教育委員、各小中校長、老人クラブ代表、町ＰＴＡ連絡協議会会長、教育委員会主監）

〇学校支援部会の開催（年４回）構成：14 名（各学校コーディネーター、各小学校区ボランティア代表、交番所長、図書館長、町社会福祉協議会コーディネーター代表、町商工観光課代表）

〇特色ある活動内容

・各校でのボランティア活用状況の交流（教科・行事・その他に分けて学期ごとに情報交流）

・各学校園から教科、行事で必要なボランティアの要望を受け、依頼人数等の派遣調整

・教育効果を高めるため学校や子ども会等のニーズに合わせたボランティア人材の募集活動（登録者継続確認、老人クラブ、ＰＴＡ、公共機関等、学生ボランティアは 6 大学に募集）

・ボランティア登録数（学生除く）：107 名（高齢等 5 名辞退、新たに 27 名登録 前年比＋22 名）
学生ボランティア登録数：66 名（卒業等で 26 名辞退、新たに 45 名登録　前年比＋14 名）

・幼児・小中学生に関わる地域教育活動（公民館事業、通学合宿））

・町子ども会連合会と連携し幅広く活用

■本年度の成果

〇ボランティアの活用が多方面になり、学校と地域ボランティアとの連携も深まり、年々交流しやすい状況である。

〇各校園間で互いの人材データバンクを共有しボランティア保険の重複を避け、事務局と調整をしながら必要なボランティア確保の募集をしやすくしている。

【保健：秦荘東小学校の身体計測支援学生】

〇ボランティア募集で年間を通じて各校園等の年間事業の日程を紹介。また、若い学生人材確保のため各大学に直接依頼したり、講義の時間帯に本部事業の紹介をしたりして登録の協力に取り組んでいる。殆どの学生は、町外の登録者が多いため、今年度から町予算内の範囲内で、一律、交通費を支給開始している。

■今後の課題

〇行事や部活動、登下校安全等の参画が多い。学力向上（補充学習含）のボランティアの確保が必要。

〇交通費の支給のため、可能な限り事前に何人必要なのか日程調整と要請人数に応える人材確保が課題。天候に影響がある学習で日程変更に伴うボランティアの確保が難しい。

〇個人情報との関係で、具体的なボランティア内容が可能なのか各校園との調整が必要。また、本部事業理解の推進を図るため、地域や学校との共通理解と活用方法など連携が必要。

〇昔の伝承学習で登録の方が高齢のため協力人数が減少している

【体育大会：愛知中学校の救護支援学生】

愛荘町における各校園等の主な学校支援地域本部活動の様子

秦荘東小学校

学校評議員が所属の雅楽会では学習で世話になる。伝承遊び・掃除仕方に学ぶ、自転車大会、田んぼの学習など毎年、幅広く学校支援ボランティアの世話になる。学生ボランティアは、主に身体測定で毎年、支援をいただいている。

【トイレ掃除の仕方】

【醤油の出前授業】

秦荘西小学校

地域ボランティアが礼儀作法の学習でお茶体験に協力。マラソン大会の練習時から地域ボランティアの協力。子ども見守り隊ではＰＴＡの協力で下校時に声かけ協力。

【マラソン練習の様子】

愛知川小学校

老人会から前年度の反省を踏まえ、事前に何度も打ち合わせ等、地域を挙げて沢山の協力。例えば、総合・社会科学習「昔のことを知ろう」「もちつき大会」など子どもとのふれあい交流も含め地域の方もいきいきと協力。

身体測定や運動会では、学生ボランティアの協力。ＰＴＡの保健師によるボランティアの協力も頂いている。田んぼの学習で不慣れ若い教員もいるが、地域の営農組合の皆さんのお陰で取組ができている。

【たぬき煎餅の学習の様子】

愛知川東小学校

学生ボランティアの２人が教育活動全般に関わっている。地域の方が絵本の広場では 200 冊程度本を持参し１～６時間目にかけて読み聞かせや本の紹介活動も協力。

スキー教室では、多くのボランティアだけでなく学生ボランティアも事前に子どもの指導のため、現地で研修している。あいさつ運動やスマホなどメディアの危機意識や利用のあり方をＰＴＡが中心になり呼びかけに協力。

【もちつき大会の様子】

秦荘中学校

認知症の学習でキャラバン隊の支援による学習や救命救急法の講習、県立平和祈念館の職員による平和学習、昼休みに町図書館からの出前図書館、手話の学習、性教育の学習、職業体験学習など多くのボランティアの協力。特に年間を通じて剣道部・柔道部などの部活動では、協力をいただいている。

【手話の学習の様子】

愛知中学校

数年前から地域の雅楽会によるボランティアが雅楽学習に協力。体育祭では学生ボランティアの協力。

人権学習では、キャラバンメイトの協力。職場体験の学習では、各事業所の協力。全校生徒を対象に東近江署員生活安全課による命の学習の講演の協力。いろんな学習で多方面からボランティアの協力をいただいている。クラブ指導でも年間を通じて協力をいただいている。しかし、補充学習の学生ボランティアがなかなか見つからないという課題もある。

【あいさつ運動の取組】

その他

・幼稚園では、学期ごとの身体測定や校外学習で学生ボランティアの協力をいただいている。
・公民館事業〔小学生対象〕や秦荘通学合宿〔小中学生対象〕、愛荘町子ども会連合会体験事業〔小学生対象〕）でも、本部事業の事務局と連携し、多くの地域ボランティアや学生ボランティアの支援協力をいただいている。
例えば、今年度の秦荘通学合宿では、延べ２１０人以上の地域ボランティアの支援協力をいただいて*14 いる。